平成 21 年度

佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

平成 22 年 8 月

大学教育委員会

FD 専門委員会

はじめに

佐賀大学「学生による授業評価」の実施は平成２１年度でちょうど１０年目を迎えます．平成 18 年度後期からは大学院の授業科目も含め，全ての授業科目で授業評価アンケートを実施することとなりました．その結果，本年度は学部における実施率は 85.4%となり，研究科でも 73.2%に達するまでになりました．この実施率は授業評価アンケートを行うことが当然であると考える教員がほぼ９割近くに達したことを示しています．この数値はアンケート実施開始時から比べると大きく増加しており，FD 活動に対する教員の意識が高まっていることを表しています．

本学は平成 18 年度より授業評価結果を用いた授業改善を実施するために，各学部等に組織別授業評価を行うことを義務付けてきました．各学部は，評価の高かった科目の選考や授業改善への取り組み状況，次年度へ向けた授業改善の目標などを大学教育委員会に報告するようになっています．また，各教員には個別授業点検・評価報告書の提出が義務づけられました．このように授業評価・改善に関するシステムはほぼ整いましたが，必ずしも活かされているとは言い切れません．今後の課題は，このシステムを実質的に活用することです．

平成 20 年４月からは学部教育において FD の義務化がはじまり，大学教育は大きな局面を迎えています．また，法人評価や認証評価では，授業評価アンケートがどのように教育に活用されているかが問われました．従来のようにアンケートさえ行っていれば良いと言うことではなく，如何にその結果を活用しているのかが今後の大学の運命を左右するといっても過言ではないでしょう．各部局および教員が各報告書を多方面から解析することにより，FD 活動に生かされることを希望します．

本学の教職員の方々には今まで以上にご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます．

国立大学法人　佐賀大学　大学教育委員会委員長

瀬口　昌洋

目 次

はじめに １

目次 ２

I. 経過 ４

II. 実施状況 ６

III. 授業評価アンケートの結果と分析

III-(1) 学部等別の結果と解析 １１

III-(2) 研究科別の結果と解析 ３６

III-(3) ネット授業の結果と解析 ５５

III-(4) 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準

.... ５９

IV. 授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点

.... ６３

V. 次年度の授業改善目標 ７０

おわりに ７４

資料１ 佐賀大学学生による授業評価実施要領 ７５

資料２ 授業評価結果を用いた授業改善実施要領 ７６

資料３ 学生による授業評価アンケート様式 ７８

資料４ 共通様式以外のアンケート様式 ８０

資料５ ネット授業アンケート様式 ８３

資料６ 項目の基礎集計表 ８８

資料７ 教員，授業科目別アンケート集計様式（レーダーチャート）

.... １０６

Ⅰ．経　過

佐賀大学では平成 12 年度前期の「学生による授業評価」の試行的実施を経て，同年度の大学教育委員会で承認された「授業評価実施要領」に基づき平成 13 年度より本格導入に至っている．さらに佐賀医科大学との統合後には，佐賀大学大学教育委員会（平成 15 年 11 月 26 日開催）で「学生に対する授業評価システムに対応する専門委員会」の設置が承認され，継続的に実施する体制が整えられた．法人化後の平成 17 年度には「授業評価実施要領」を一部改訂し，従来の教員による選択的実施を改め，講義科目（演習，実験，少人数ゼミを除く）を対象に共通アンケートによる 100%の実施を目標に活動を続けてきた．しかしながら，実施率は低迷を続け抜本的な改革が必要と考えられ，翌平成 18 年度後期より全ての授業科目（大学院も含む）を対象に授業評価を実施することが定められた「佐賀大学学生による授業評価実施要領」（平成 18 年 10 月 1 日施行）（資料１）が新たに制定された．この「佐賀大学学生による授業評価実施要領」（以下，授業評価実施要領とする）は実施基準を各学部等が設定できる点が特筆される．すなわち，少人数クラスや複数担任の科目では共通アンケート様式にはそぐわないため，独自に用意したアンケートを用いることを可能としている．そのため佐賀大学の全ての授業科目において基本的に共通アンケートもしくは独自アンケートによって学生の意見を聴く機会が設けられていると言えよう．また，アンケート結果の教員へのフィードバックについても全学平均や学部平均との比較をレーダーチャートに示し，自らの授業改善に活かせるような工夫が施された．さらに，「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」（平成 18 年 12 月 22 日施行）（資料２）が制定され，この授業評価アンケート結果に基づき，各教員は自らの授業の改善点について授業点検・評価報告書を提出することが義務づけられた．一方，この授業評価アンケートと並行に学生対象アンケートも実施され，佐賀大学の教育目的，施設，教育システム全般にわたって広く学生の声を取り入れようとする試みも行われた．さらには教員対象アンケートや卒業生対象アンケートも実施され，佐賀大学における教育活動を多面的に分析する準備を整備しつつある．

本報告では平成21年度に実施した授業評価アンケートの結果および授業評価結果を用いた授業改善実施要領（以下，授業改善実施要領とする）に基づいた佐賀大学の授業改善への取り組みについて述べる．なお，医学部およびeラーニ

ングで受講するネット授業については，授業形態の差異に配慮し独自の様式を用いた．

II. 実施状況

平成21年度に佐賀大学で行われた授業評価は共通のアンケート用紙を用いて行っており，共通様式を用いない授業評価の実施も認めている．そこで，授業評価アンケートの結果を述べる前にアンケートの実施方法及び実施状況について示す．

まず，授業評価アンケートの種類について述べる．本年度に実施した授業評価アンケートは以下の４つに大別される．

１）　授業評価アンケート（共通様式）（資料３）

２）　個別授業評価アンケート

３）　医学部授業評価アンケート（資料４）

４）　ネット授業アンケート（資料５）

このうち本報告書では１），３）と４）のアンケート結果について取り扱う．医学部は統合前の佐賀医科大学時代から先進的なFD活動を展開しており，授業評価アンケートも科目種毎に分けて通年で実施し，詳しい解析が行われているので本報告では共通様式の授業評価アンケートと同じ内容のみ述べる．ネット授業は授業形態が異なるため質問内容が異なっているため別項とし，概要をまとめ解析を行った．

次に，本年度の授業評価の実施率について述べる．表１に部局毎の実施率をまとめた．集計は２月末時点であるので，３月に行われている集中講義や実習科目に関してはアンケートを行っているもののこの一覧表には反映できていない．共通アンケート用紙を用いていない授業評価アンケート（つまり，独自形式アンケート）の実施率も示している．独自形式アンケートは受講者が極端に少ない場合や複数の教員が担当している場合など，マークシート方式の共通アンケートにはそぐわない場合に実施する授業評価と位置づけられている．科目としては少人数での実験，教育実習，ゼミなどが該当すると考えられる．実施数の多い部局は経済学部，理工学部，教養教育運営機構と経済学研究科，工学系研究科であった．学部での実施率は医学部の 96.4%が最も大きく，科目数では 134 科目に達する．また，大学院でも医学系研究科の実施率が高く修士課程において 100%に達している．医学部は科目の授業形態毎にアンケート項目の設定を変えており，本庄地区で実施されている共通アンケートよりも細やかな配慮がみてとれる．なお，共通アンケートを使用している部局では全学期で理工学部の 87.2%が最高で，大学院は農学研究科が 75.2%と高い実施率を示している．

表１　部局別の授業評価アンケート実施率（独自形式アンケートは除く）.

	平成 21 年度前期			平成 21 年度後期		
	実施数	対象数	実施率	実施数	対象数	実施率
文化教育学部	336	420	80.0	334	441	75.7
経済学部	57	67	85.1	47	60	78.3
医学部				134	139	96.4
理工学部				396	454	87.2
農学部	116	135	85.9	108	124	87.1
教養教育運営機構	329	362	90.9	293	315	93.0
全体	838	984	85.2	1312	1533	85.6
教育学研究科	85	128	66.4	99	130	76.2
経済学研究科				18	35	51.4
医学系研究科	37	37	100	25	25	100
工学系研究科				144	206	70.0
農学研究科	36	47	76.6	61	82	74.4
全体	158	212	74.5	347	478	72.6

表のデータは期限内に提出された数値を記載している.

通年の講義については後期に含めている.

前後期に分けていない学部・研究科については後期にまとめている.

表2　部局別の独自形式アンケート実施率.

	平成 20 年度前期			平成 20 年度後期		
	実施数	対象数	実施率	実施数	対象数	実施率
文化教育学部	3	420	0.7	4	441	0.9
経済学部	0	67	0	0	60	0
医学部						
理工学部				23	454	5.1
農学部	0	135		0	124	
教養教育運営機構	10	362	2.8	8	315	2.5
全体	13	984	1.3	35	1394	2.5
教育学研究科	2	420	0.5	2	441	0.5
経済学研究科				0	35	0
医学系研究科						
工学系研究科				15	206	7.3
農学研究科	0	47	0	0	82	0
全体	2	467	0.4	17	764	2.2

個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名

「授業評価実施要領」によれば，共通アンケートもしくは独自形式アンケートによって全ての科目の授業評価を実施することが定められている．しかしながら，現実にはこれらの授業評価アンケートを実施していない授業科目が存在する.「授業改善実施要領」に基づき，各教育組織から提出のあった個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名を以下に掲載する．総じて昨年度よりも増えているが，これは〆切日までに提出しなかった科目は集計にいれない，ということを徹底したためだと思われる．そのため，非常勤講師への周知不足もあり，非常勤講師が担当する科目もやや実施率が低い．集計作業をゆっくり行うのも関係委員の負荷が増えるだけなので，〆切を守るようにした方がよい．アンケート内容の検討，実施時期の検討など，今後は，〆切を守るよう徹底したり，非常勤講師への対応を行なったり，各教育組織には以下に示した授業科目数を少なくすべく適切な対応が望まれる.（アンケート内容にもよるが，15 回実施しなければ分からない項目とそうでない項目とに分けて実施するなど，実施率を上げる方策が必要である）

なお，医学部・医学系研究科については授業評価実施要領および授業改善実施要領に該当していないために掲載していない．ただし，表２に示すように実施していない科目は少なく，学科長が個々の教員に授業評価についてコメントする取り組みが行われており，医学部以外の学部よりも授業改善についての取り組みは進んでいる.

＜文化教育学部＞

(前期)

工芸理論，素描 II，染織工芸，基礎デザイン，応用窯芸，医学一般 II， 現代社会と福祉 II， 健康福祉，スポーツ総合セミナー，トレーニング理論・実習，バイオメカにクス，解剖生理学，スポーツ IIA２，スポーツ IIC3， スポーツ B2 演習，住宅デザイン論，環境科学特別講義，環境行政調査実習，リクリエーション実習，運動学，スポーツ IC2， ヘルスプロモーション実習 I， 地学フィールドワーク実習, 社会学要論, 情報処理演習 IIC， スポーツ経営学, 運動処方，スポーツ IA4， スポーツ IB3， 法学要論，法学演習 I， 倫理学演習 I， 倫理学演習 II， 西洋古代哲学演習 I， 健康福祉スポーツボランティア活動，フラ

ンス文学 II, 日本語教授法 I, 欧米文化論，中国語学演習 I, 韓国・朝鮮学演習 I, セム語学演習 I, 日本語史演習 I, 日本語学演習，日本語文法論，日本近代文学演習 I, 現代欧米の法と政治 I, 近代欧米文学論 I, 比較文化論演習，フランス語９, フランス語５, 音楽史 I, 器楽 I, ピアノ I, 音楽理論演習 I, 音楽教育学，音楽教育学内要論 II, 生命科学，情報メディア論，応用染織工芸 I, 解析学領域研究 I, 幾何学領域研究 I, 解析学 I, 代数学 I, 解析学基礎 I，確率論基礎，聴覚障害者教育指導論，英語教育学演習，技術教育学，職業指導，工業科教育法 I, 英語科教育法 I, 技術科教育法 I, 工芸科教育法 II, 中等理科教育法I, 中等社会科教育法III, 地学基礎実験II, 物理学通論 IV, 教科発達心理論，社会教育実習，教育方法学概説，人権意識論，図工教育法 II，生活科教育法，小学校国語，専門教育外国語

（後期）

総合デザイン，応用日本画，総合日本画，基礎日本画，デザイン，世界の美術，デザイン理論, 高齢者に対する支援と介護保険制度 II, 福祉教育論, 体育原理, 障害スポーツ論, 安全教育, 衛生・公衆衛生学, スポーツ A1 演習, スポーツ IIB3, 運動生理学，トレーニング科学，プログラミング演習 II, 福祉メカトロニクス II, 生活環境機器，服飾製作実習，被服衛生学演習，被服衛生学，人文地理学演習，古墳文化研究演習，スポーツ ID1, スポーツ IC1, 精神保健，地球環境科学，水と空気の運動学，プラトン哲学 II, 哲学要論 II, 市民社会と倫理，国際文化学要論，近代ヨーロッパの国家と社会，ジャーナリズム論，ドイツ文化論 II, ドイツ文学史，英語学演習 I, 英語史 II, 英語史 I, イギリス文学 III, 東南アジア国際関係論, 国際政治学演習 II, 中国語学演習 II, セム語学演習 II, 国際経済論演習 II, 日本語史演習 II, 日本語学演習 II, 日本語音声学，文学と地域文化，日本近現代演習 II, 国際経済論，異文化間コミュニケーション論, 朝鮮語１０, 東アジア国際関係史, 声楽 VI, 環境物理化学，原子物理，情報と職業，電気基礎実習，回路理論，保育内容の研究，基礎染織工芸，木工工芸総論，木工工芸概論，基礎木工工芸，総合窯芸，計測・制御実験，統計学研究基礎，幾何学研究基礎，幾何学基礎 II, 代数学 II, 身近な現象のサイエンス，聴覚障害者の生理・病理，技術教育学演習，情報技術教育課題研究, 中等理科教育法 III, 中等科教育法 IV, 地学通論 IV, 地学基礎実験 II, 地学基礎実験 I, 化学通論 I, 化学通論 II, 体育科教育課題研究 II, 保健体育教育，理科教育課題研究 I, 社会化教育学演習，国際化と生涯教育，

教育方法学概説，教育学課題研究，教育実践フィールド演習 I，　教育実践フィールド I，　図工科教育法 I，　初等社会化教育法 II，　理科講義及び実験，小学国語，専門教育外国語，専門教育外国語，専門教育外国語，専門教育外国語 II，専門教育外国語 II，　専門教育外国語 II，　専門教育外国語 IIB

＜経済学部＞

(前期)

民事手続法，理論経済学Ｉ，国際法Ｉ，特殊講義（市民と法），法務管理入門，契約法Ⅱ，経営労務論，経済学史Ⅱ，西洋経済史Ｉ，西洋史要説

（後期）

基礎簿記，経営社会学，経済学史Ｉ，現代政治論，国際金融論，国際法Ⅱ，債権法総論，財務会計論，西洋経済史Ⅱ，特殊講義（Development　Economics），日本経済論，不法行為法，法学概論Ｉ

＜理工学部＞

物性物理学，数値解析，グラフと組合せ，情報と職業，オブジェクト指向開発，理工学基礎科学（地球環境科学概論），実用英語基礎Ｉ（非常勤講師担当科目），工業力学演習Ｉ（工業力学Ｉで代表させる），熱力学演習（熱力学Ｉで代表させる），流体工学演習（流体工学で代表させる），機械工学基礎演習（工業力学Ｉ）（アンケート実施時の受講者数ゼロ），

自動車工学（非常勤講師担当科目），生産システム概論（非常勤講師担当科目），圧縮性流体力学，熱力学Ⅱ，エネルギー変換工学Ｉ，機械工学基礎演習（工業力学Ⅱ）（アンケート実施時の受講者数ゼロ），音響工学（非常勤講師担当科目），電気系基礎数学及び演習，理工学基礎Ⅱ，インターンシップ

＜農学部＞

(前期)

物理学実験，生物学，作物生産学，インターンシップI，インターンシップII，熱帯農学総合実習，農学概論，応用化学実験，Crop Physiology，Crop Cultivation

at Swamps Area, Advanced Perennial Crop Production, Field Study, 生物科学実験実習，植物生態生理学，作物学演習Ⅰ，生産システム演習Ⅰ，国際地域開発論，アジアフィールドワーク，地域ビジネス開発学演習Ⅱ，食糧科学概説，演習

(後期)

食料流通経済学，科学英語，遺伝学，生物統計学，植物分子育種学実験Ⅱ，測地学Ⅱ，環境科学演習（分野演習），作物学実験演習Ⅱ，園芸工学演習Ⅱ，アジア比較農業論，農村開発学，地域資源学演習 II，人間開発学演習Ⅱ，半島・島嶼産業論，栄養化学，遺伝子工学

＜教養教育運営機構＞

大学入門科目（２），創造工学入門，看護学入門，芸術の歴史と理論（西洋美術史概説），芸術と表現（有田焼入門），シナリオ入門，宗教学入門，現代の法と社会（生活と法），チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ，英語（１０），ドイツ語，スポーツ科学講義，健康科学講義，スポーツ実習（１０），情報基礎概論，情報基礎演習Ⅰ（２），情報基礎演習Ⅱ（２），身近な環境―知ろう・見よう・考えよう―，地域の環境―森・川・海を繋ぐ環境と暮らし，Web 表現，境界を生きる文化，風土と歴史環境の地理，東アジアの歴史と社会，アジアの経済と社会，現代の経営（現代の経営と会計），メディア・リテラシーアニメーション番組，キャリアデザイン～自分発見講座～，高齢者や障がい者への生活・就労支援概論，気象と農業，佐賀マラソン学Ⅱ－マラソンやウオーキング

＜教育学研究科＞

（前期）

実践授業研究，英米文学特論 IA，　英語教育学特論 IIA，　運動生理学特論，運動学特論，保健体育教育学特論 I，　工芸特別演習 IV，　統計学特論，社会学特論 BI，　社会学特論

BII，　法律学特論AI，　日本史特論AI，　中日比較文学特別演習I，　中日比較文学特論 I，　日本文学思潮 I，国語学特論 IA，　障害児教育課題研究，学校教育課題研究，障害児心理学研究方法論，病弱者・情緒障害者生理学・病理学研究，

学校・学級経営学特論，留学生特別演習，実践授業，実践授業，実践授業，実践授業，実践授業，美術教育特論，美術・工芸課題研究，工芸特論 III， 保健体育課題研究，技術教育課題研究，音楽課題研究，音楽課題研究，理科教育課題研究 A， 社会化課題研究，統計学特論，数学教育課題研究，国際経済学特別演習，社会科教育特論 II， 社会化教育と区別演習 II，留学生特別演習

（後期）

家族関係学特別演習，英米文学特論 IIB， 家庭科教育学特別演習 I， 英米文学特別演習 I， 英米文学特論 IB， 英語教育学特別演習 II， 技術教育特別演習 II， 学校保健特別演習 II， 運動生理学特別演習，健康運動実践法法学特別演習 I，運動法法学特別演習 I， 運動学特別演習，保健体育教育特別演習 I， 保健体育学特論，工芸特別演習 III， 指揮法特別演習，火山岩石学特別演習，理科教育学特別演習 I， 倫理学特論 II， 倫理学特論 I， 国際経済学特論 II，法律学特論 IIA， 中日比較文学特論 II,日本文学思潮 II， 国語学特別演習 IIB,国語学特論 IIB， 国語教育学特論 IB， 学校・学級経営学特別演習，教育実践フィールド研究，教育実践フィールド研究，教育実践フィールド研究

＜経済学研究科＞

総合セミナー，産業政策論研究，農業経済論研究，公共財政論研究Ⅰ，比較経済思想研究，発展途上国経済論研究，地域経済社会論研究，地域福祉研究，
地方自治法制研究，地域政治研究，現代労使関係研究Ⅰ，企業論研究，財務会計論研究，簿記論研究，福利厚生関係法研究，契約法研究，実用外国語

＜工学系研究科＞

高エネルギーセミナーⅠ，高エネルギーセミナーⅡ，量子干渉物理セミナーⅠ，
量子干渉物理セミナーⅡ，高エネルギー物理学 II，物性物理学特論 I，
シンクロトロン光応用物理セミナーⅠ（担当教員配置転換），シンクロトロン光応用物理セミナーⅡ（担当教員配置転換），シンクロトロン光応用物理学（担当教員配置転換），知能情報システム学特別講義，磁気化学特論（旧カリ科目），
機能物質化学特論Ⅴ（来年度開講無し），海洋流体力学特論（アンケート実施時の受講者数ゼロ），機械設計特論（アンケート実施時の受講者数ゼロ），電気電

子先端技術工学特論，パルスパワー工学特論，超短波長光利用科学技術工学特論，電気電子工学修士実験（受講者なし），構造解析プログラム論，行動型ロボット演習（アンケート実施時の受講者数 ゼロ），衝撃波工学特論（アンケート実施時の受講者数 ゼロ）

＜農学研究科＞

(前期)

Advanced Physiology on Tropical Crops, Advanced Biofunctional Chemistry, Advanced Crop Production, Special Study, Advanced Food Science and Technology, 地域資源学特論，生物物理化学特論，アグロサイエンス特論

(後期)

Advanced Science on Applied Plant Ecology, Advanced Agricultural Land Engineering, Advanced Water Resourced System, Advanced Productive Function of Land, Advanced Rural Settlement Geography, Advanced Plant Nematology, 生物資源論特別講義Ⅰ，生物資源論特別講義Ⅱ，作物生態生理学特論，水資源計画学特論，農業経済政策特論，土地生産機能学特論，資源社会管理学特別講義Ⅱ，食糧流通貯蔵学特論

(通年)

生産システム情報学特別演習，資源社会管理学特別演習，生物機能化学演習，生物資源利用化学演習，アグロサイエンス特別演習

Ⅲ　授業評価アンケートの結果と分析

平成２１年度に佐賀大学で実施した授業評価アンケートは４種類ある．独自形式アンケートに関しては統計処理を行うのに適していないため，ここでは共通様式授業評価アンケート（Ⅲ-(1),(2),(3)），医学部授業評価アンケート（Ⅲ-(1)）およびネット授業アンケート（Ⅲ-(4)）についてのみ取り扱うものとする．ネット授業アンケートを除いて，現行のアンケートが実施されたのは平成１８年度後期からで，平成２１年度はちょうど４年目に当たる．今までの報告書では経年変化については全く触れていなかったため，今年度はこれを見ることにした．

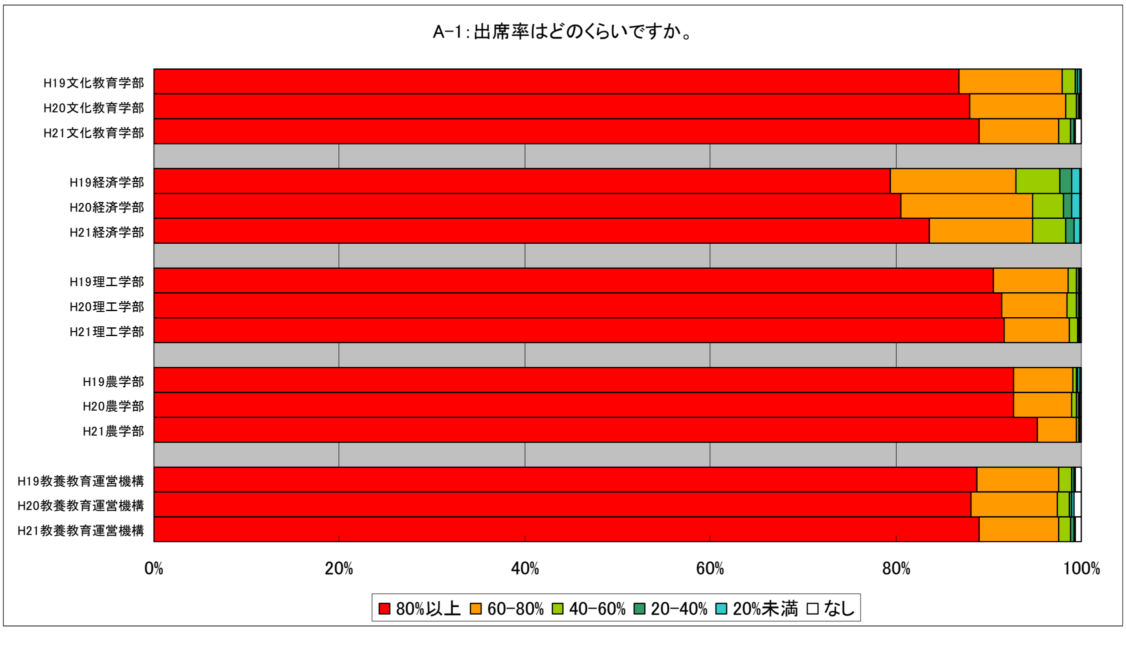
また，分析するアンケート項目は授業評価アンケートのもののみとして，医学部授業評価アンケートに準ずる項目が設定されている場合についてのみ言及することとする．なお，医学部は前期，後期とする学期制ではなく，フェーズに分けた期間を用いているため年間結果を用いた．ただし，科目毎にアンケート様式が若干異なるので講義科目，実習科目，PBL 科目とそれらを総合した全科目に分けて表示した．

Ⅲ-（１）　学部等別の結果と解析

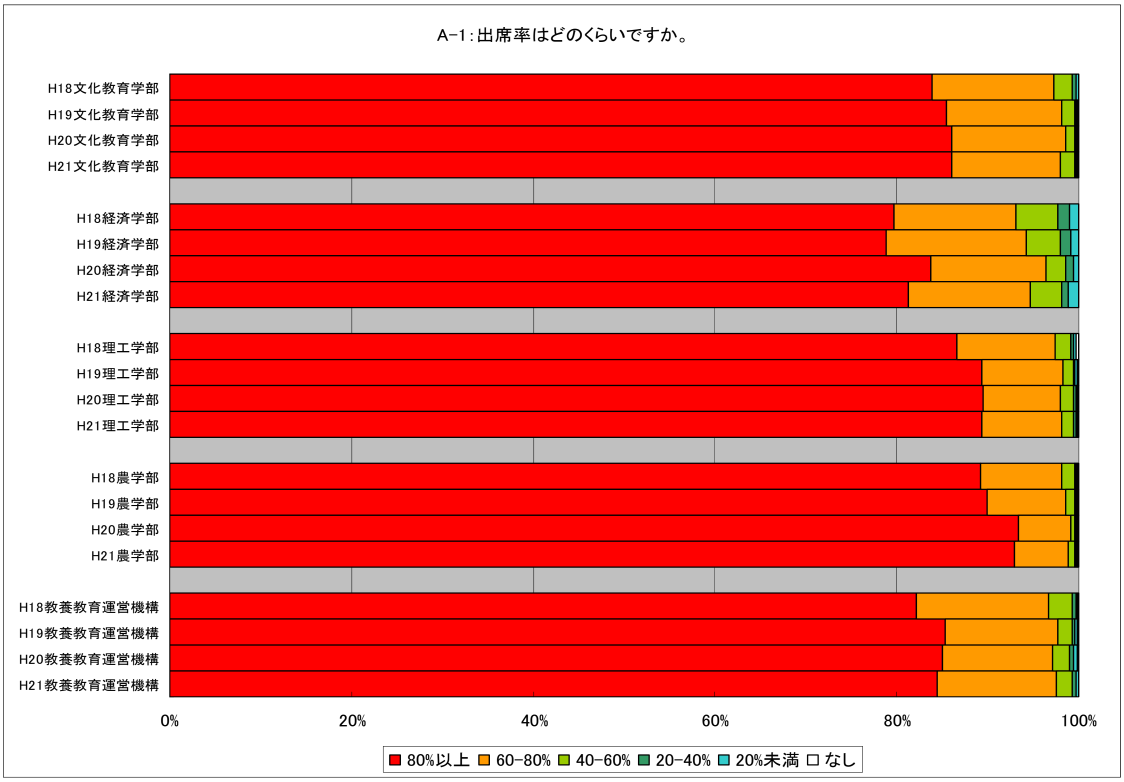
A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

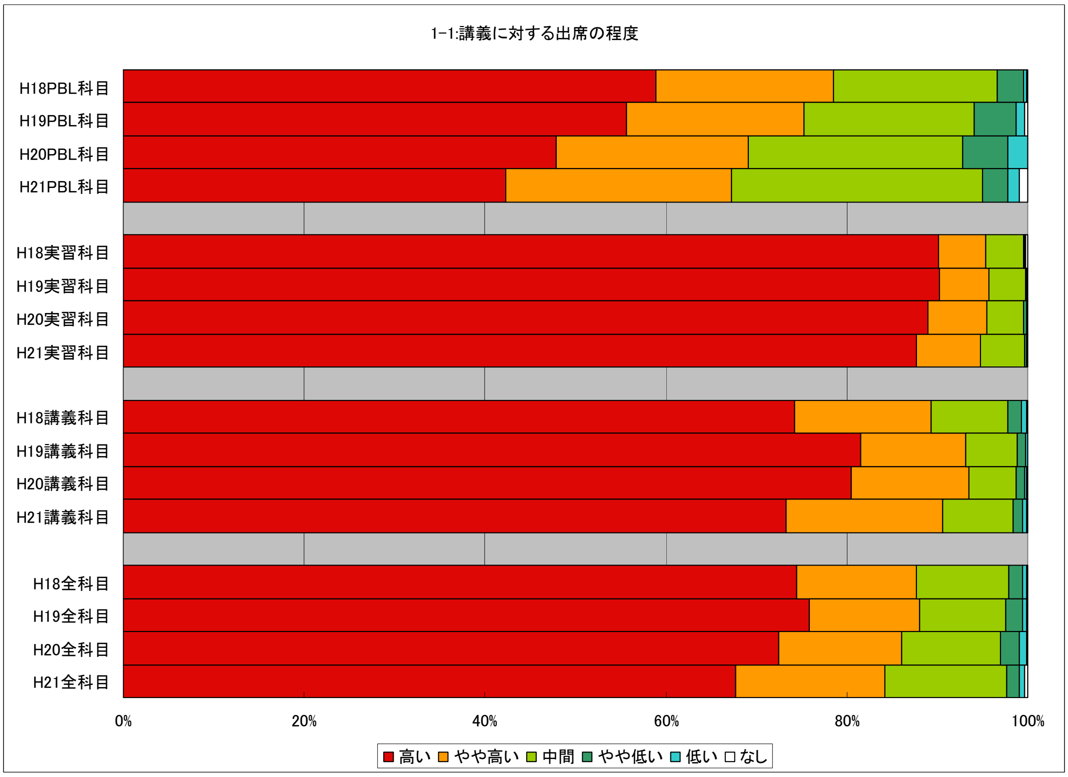
以下に出席率に対する学生の回答を示す．前期と後期では全体的な傾向に差は認められないが，後期には出席率が８０％以上の学生が減少する傾向にある．農学部の学生が最も高い出席率を回答しており，理工学部，文化教育学部，教養教育運営機構，経済学部の順に出席率が低下する傾向が認められ，この傾向は過去４年間変わっていない．しかし，前期については経済学部の出席率は年々改善されている．医学部では実習科目において出席率が高いものの，講義科目やPBL科目では出席率が低くなる傾向がある．特にPBL科目では40％近くの学生が低い～中間と回答し，この割合が年々増加傾向にある．



前期


A-1：出席率はどのくらいですか。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
80%以上 60-80% 40-60% 20-40% 20%未満 なし

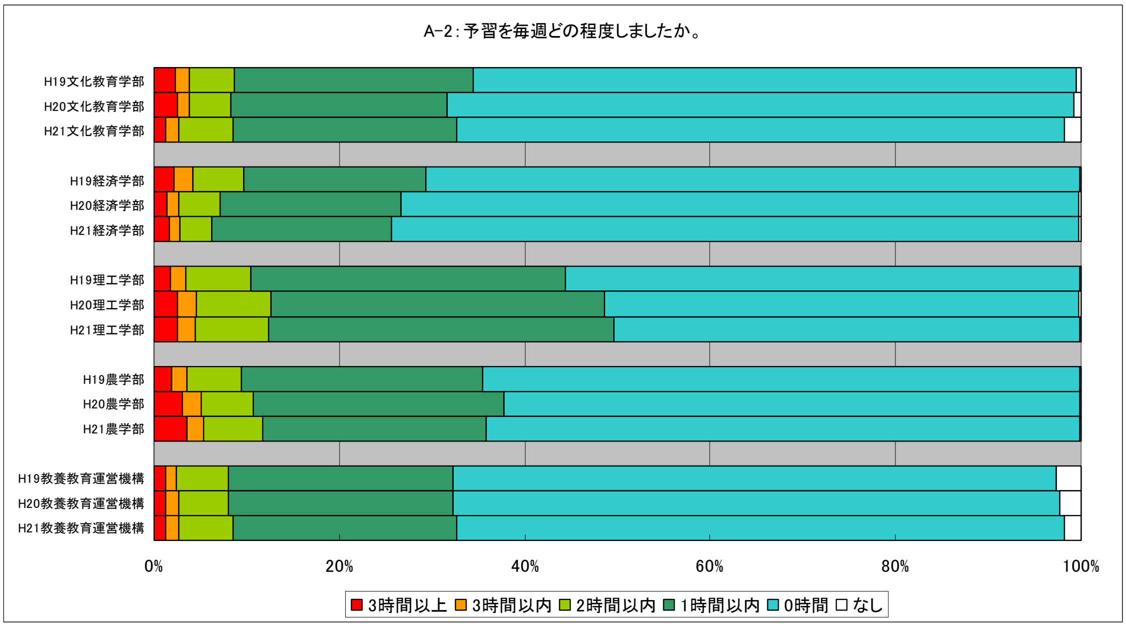
後期


1-1:講義に対する出席の程度
H18PBL科目
H19PBL科目
H20PBL科目
H21PBL科目
H18実習科目
H19実習科目
H20実習科目
H21実習科目
H18講義科目
H19講義科目
H20講義科目
H21講義科目
H18全科目
H19全科目
H20全科目
H21全科目
0%
20%
40%
60%
80%
100%
高い やや高い 中間 やや低い 低い なし

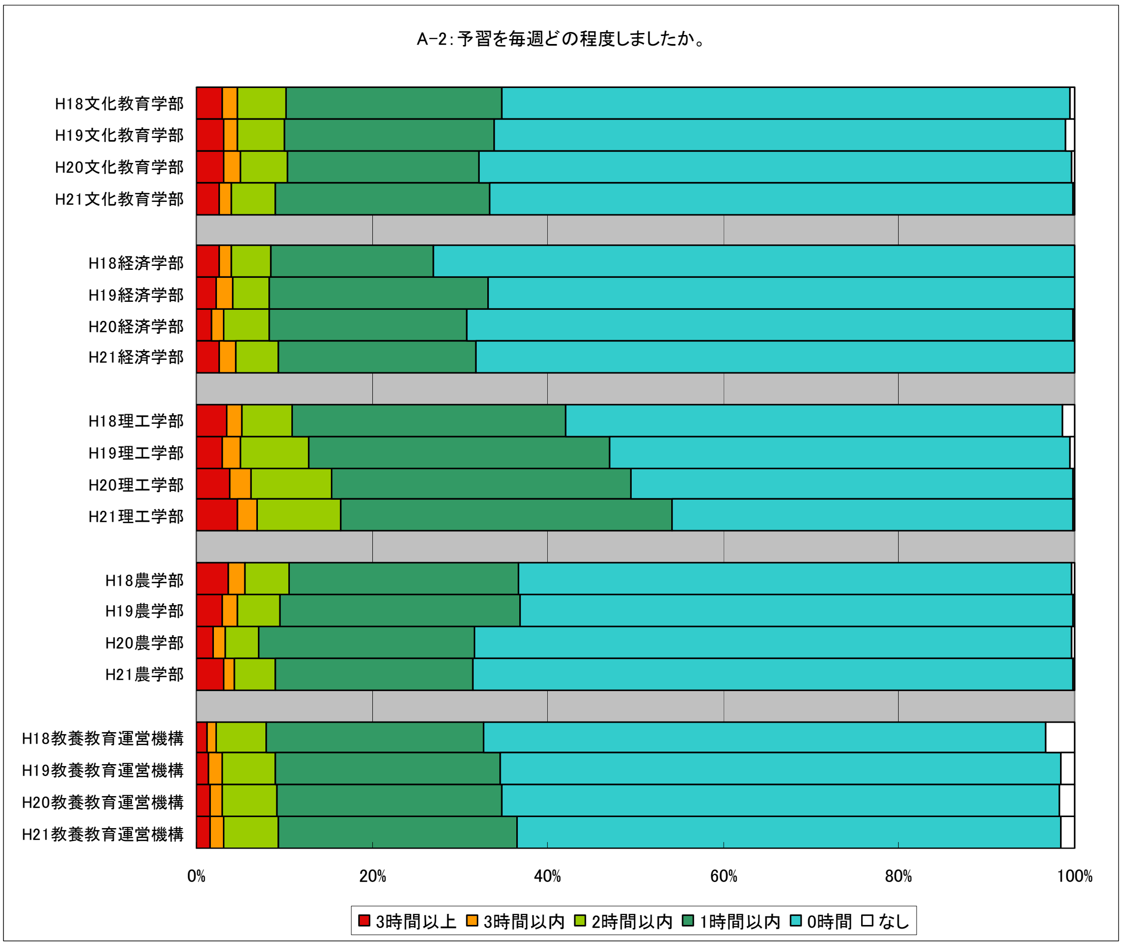
医学部

A-2 予習をどの程度していますか

以下に予習時間についての回答結果を示す．前期では予習時間を０時間と回答した学生の比率は経済学部で最も多く年々増加傾向にあるが，文化教育学部，農学部，教養教育運営機構でも高い比率で留まっている．後期については，経済学部で０時間と回答する学生の比率に傾向は見られないが，理工学部を除いて高い比率で留まっている．一方，理工学部については，０時間と回答した学生の比率は５０％程度で，この比率は年々低くなっている．また，３時間以上の予習をしていると回答した学生の比率は前期においては農学部，理工学部，文化教育学部，経済学部，教養教育運営機構の順に減少する．特に農学部については，年々３時間以上と回答した学生の比率が増加している．後期では，理工学部，文化教育学部，農学部，経済学部，教養教育運営機構の順であった．ここで興味深いのは，前期に比して後期の方が３時間以上の予習を行う学生の比率が農学部以外の学部で増加している点である．



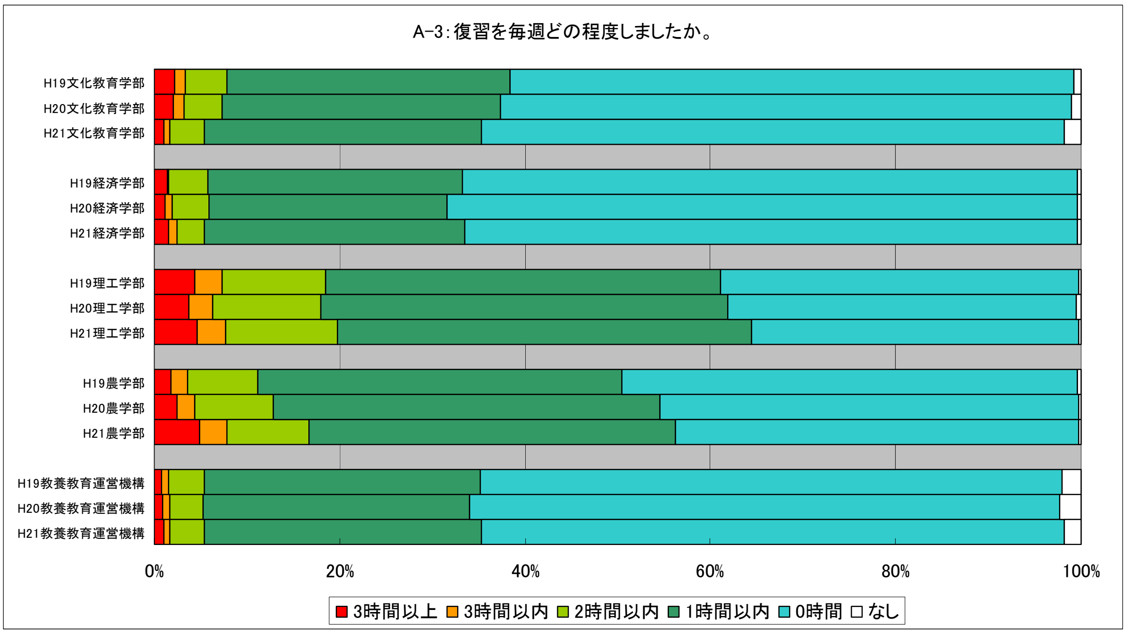
前期



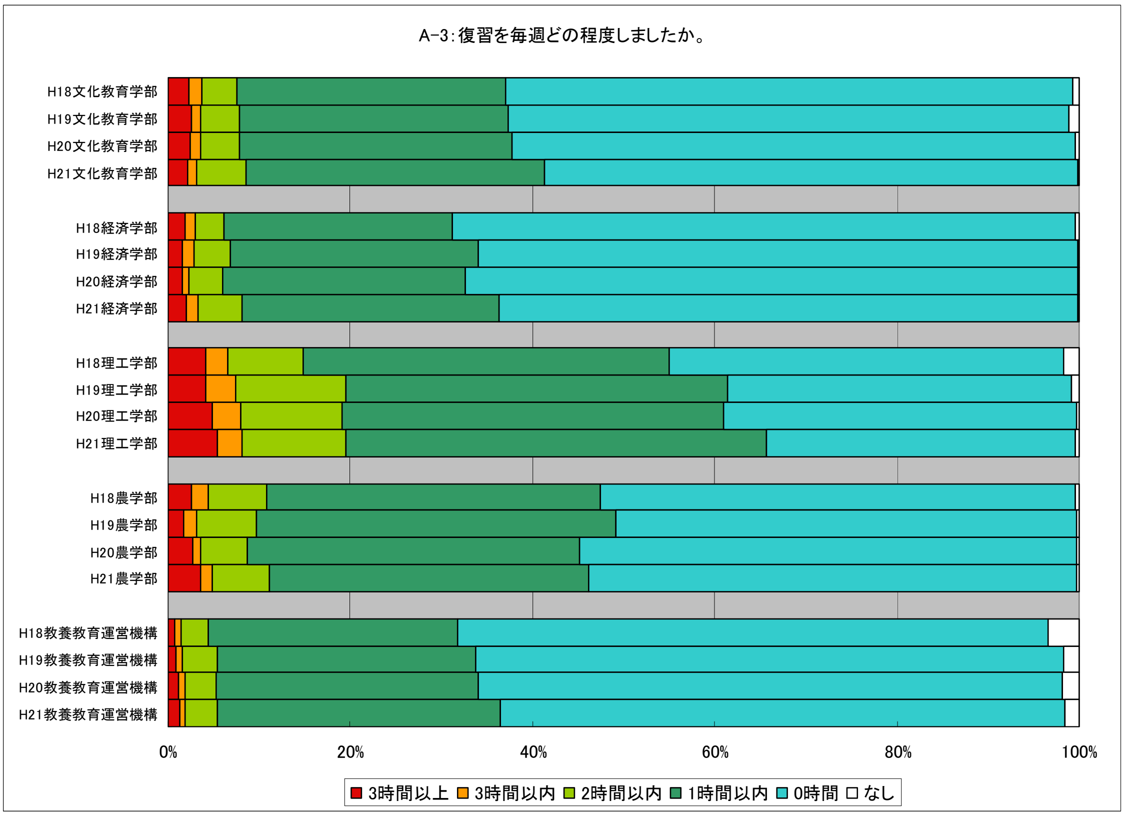
後期

A-3　復習をどの程度していますか

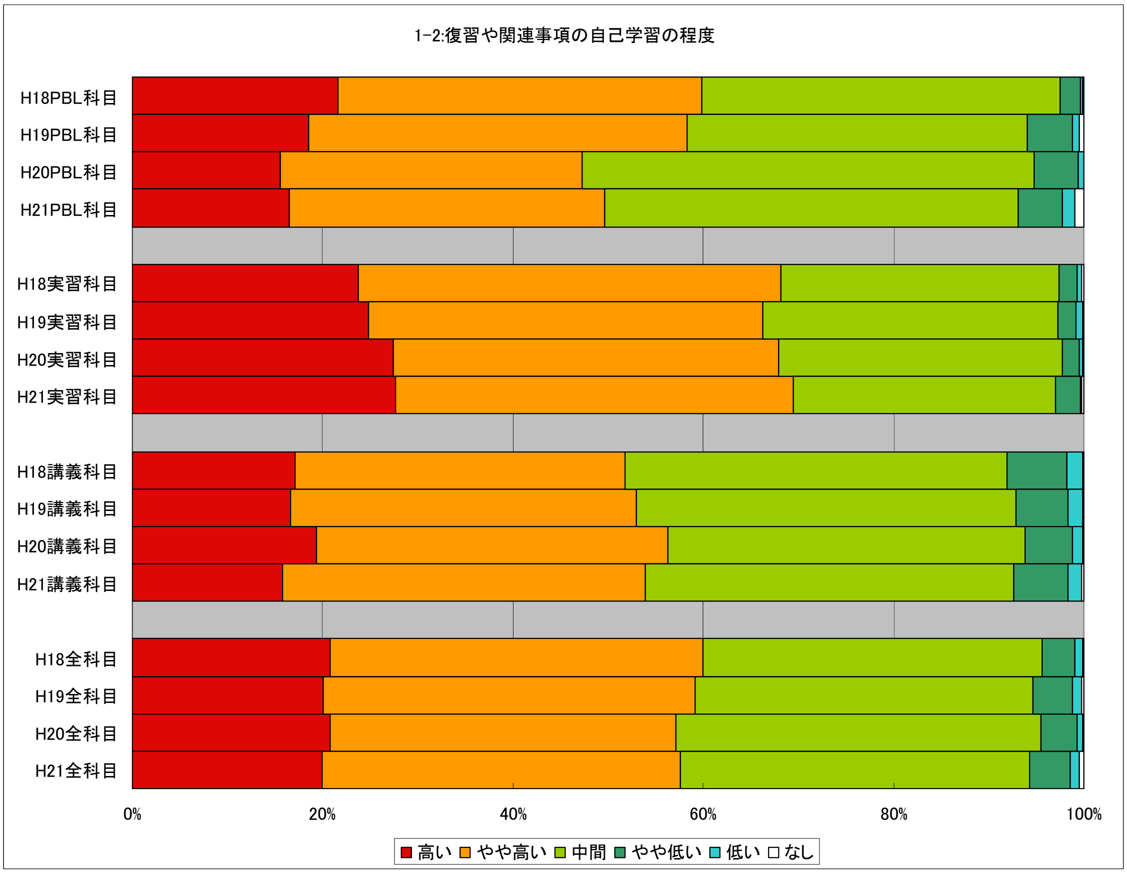
この質問項目に関しては医学部授業評価アンケートにも該当するので図３に併せて示す．該当項目は医学部授業評価アンケートの「復習や関連事項の自己学習の程度」である．毎週の復習時間が0時間と回答した学生の比率が前期・後期ともに60%を超えている組織として経済学部，教養教育運営機構，文化教育学部があげられる．理工学部では復習時間を0時間と回答した学生の比率は前期・後期ともに40%以下であり，農学部では前期は44%，後期は54%となっている．特に前期については，理工学部と農学部において０時間と回答する学生の比率は減少傾向にある．３時間以上と回答した学生の比率は理工学部が大きくなっている．医学部では実習科目において復習や自己学習を行った比率が大きく，PBL科目や講義科目では比率がやや低くなる傾向が認められる．


A-3：復習を毎週どの程度しましたか。
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
3時間以上 3時間以内 2時間以内 1時間以内 0時間 なし

前期


A-3：復習を毎週どの程度しましたか。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
3時間以上 3時間以内 2時間以内 1時間以内 0時間 なし

後期

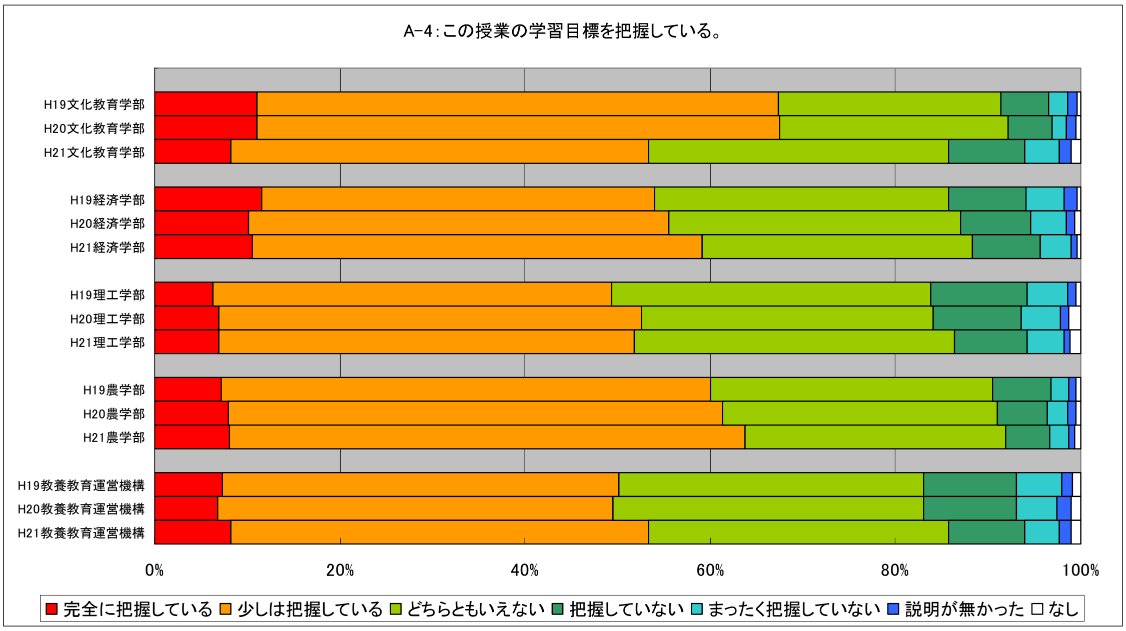


医学部

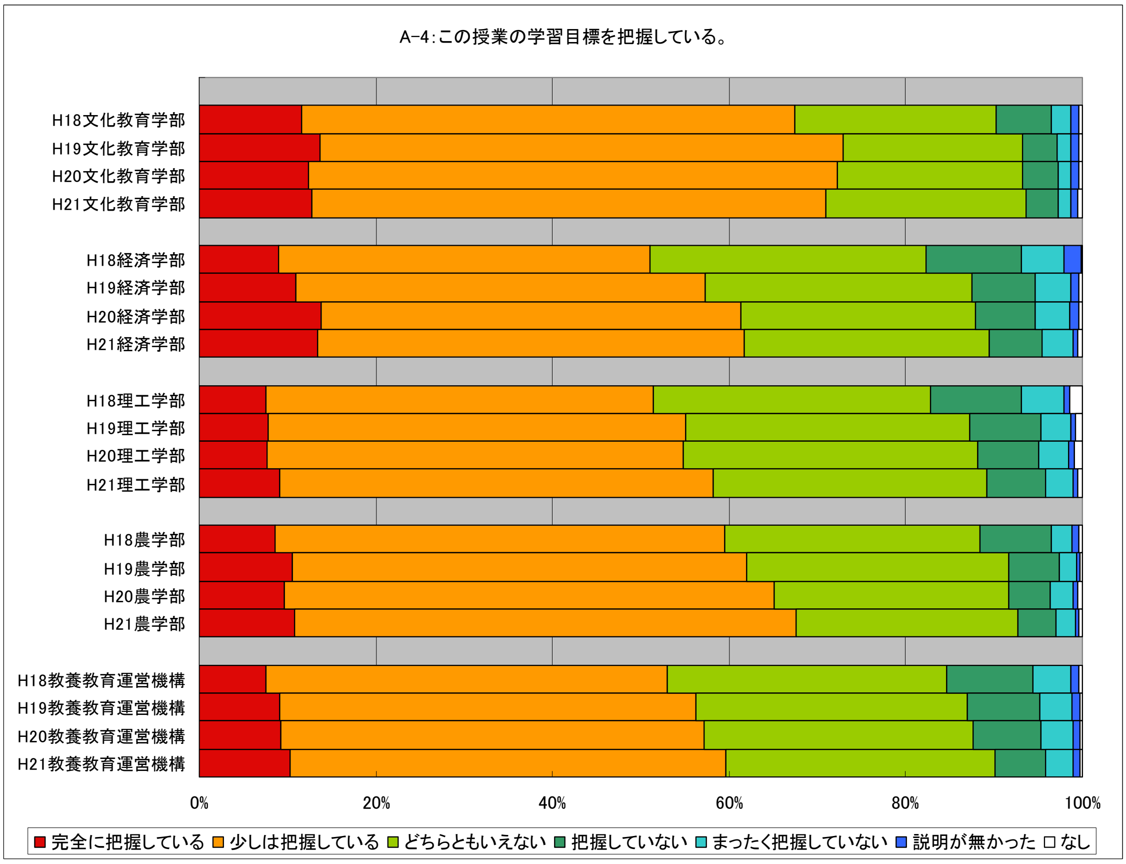
A-4 この授業の学習目標を把握している

大学教育においては教育の質の向上を図り，努力することが義務づけられてきた．その指標のひとつとして受講者に学習目標を把握させているか否かが問われている．

下図にその結果を示す．前期では「全く把握していない」,「把握していない」などの否定的回答の比率は教養教育運営機構，理工学部，経済学部で高く，農学部や文化教育学部で低い傾向がある．この傾向は後期も同様であるが比率は小さくなっている．逆に「少しは把握している」,「完全に把握している」などの肯定的回答の比率は全体的に文化教育学部で高い．次いで農学部が高く，経済学部，教養教育運営機構，理工学部で50%以上の比率を示している．この比率は後期で高くなっている．ただし，年々，肯定的意見の比率が全部局で増加傾向にあり，教員の努力が伺える．


A-4:この授業の学習目標を把握している。
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
完全に把握している
少しは把握している
どちらともいえない
把握していない
まったく把握していない
説明が無かった
なし

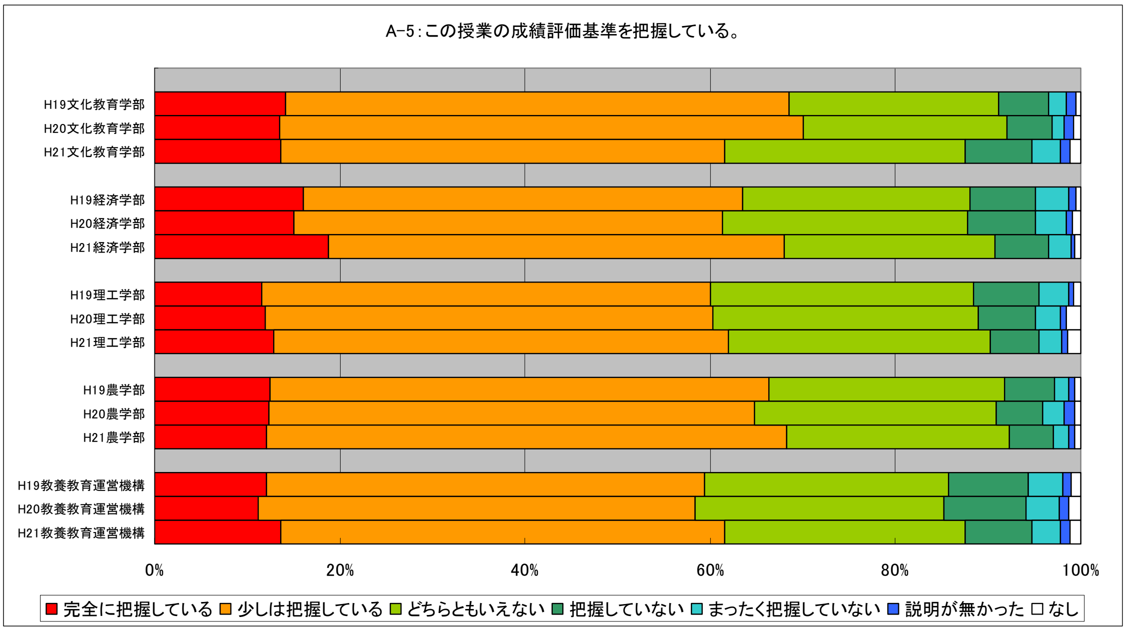
前期


A-4:この授業の学習目標を把握している。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
完全に把握している
少しは把握している
どちらともいえない
把握していない
まったく把握していない
説明が無かった
なし

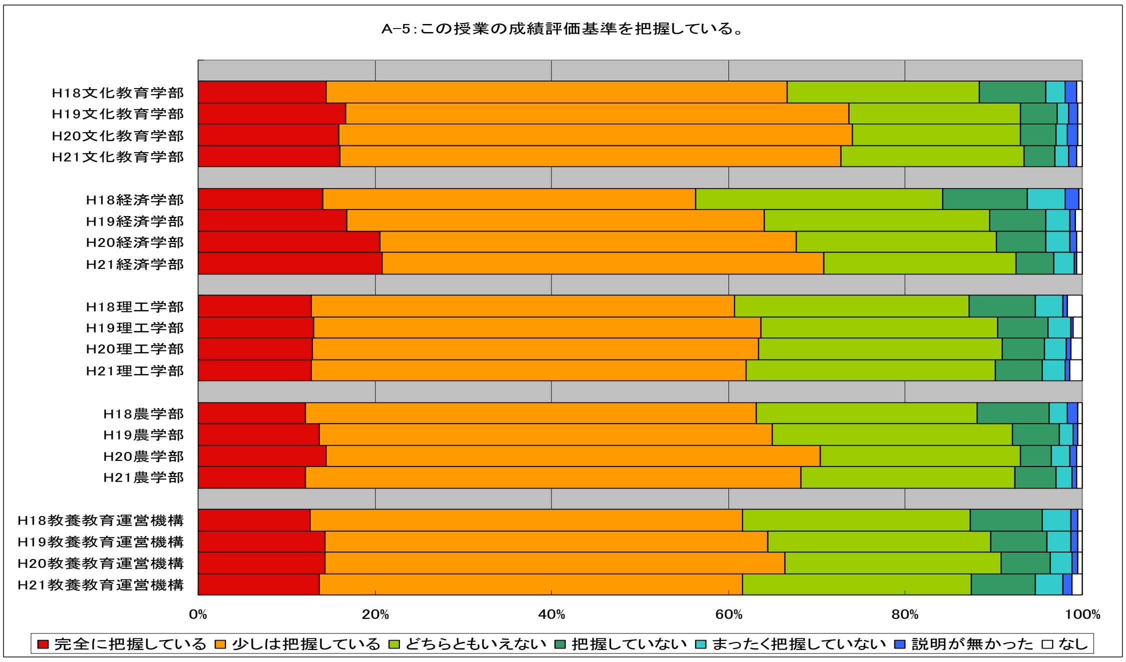
後期

A-5　この授業の成績評価基準を把握している

この項目も大学の教育として当然達成しているものとして設けられたものである．下図に結果を示す．科目毎に尋ねているため，より高い精度での回答であると考えられる．「少しは理解している」，「完全に理解している」は全部局において60%以上はあり，高い周知度を示している．特に，経済学部では肯定的な回答が年々増加しており，教員による周知が学生へ浸透していると考えられる．逆に「把握していない」，「全く把握していない」といった否定的回答は全部局で２０%未満であり，シラバスに成績評価基準が明記され，これを見ている学生も多いものと推察される．



前期

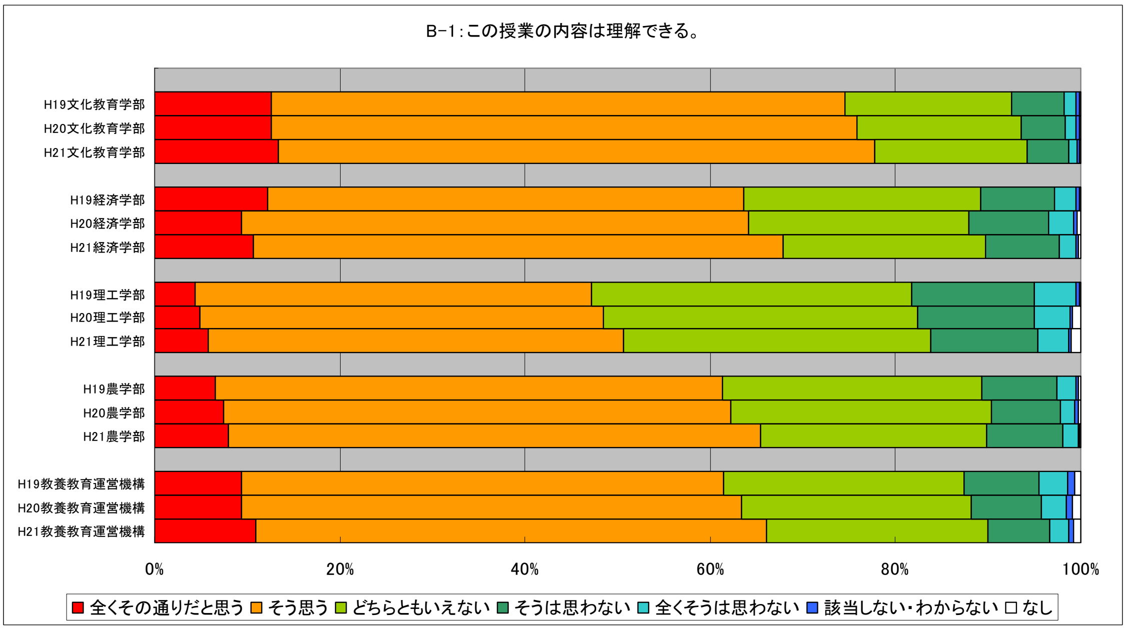


後期

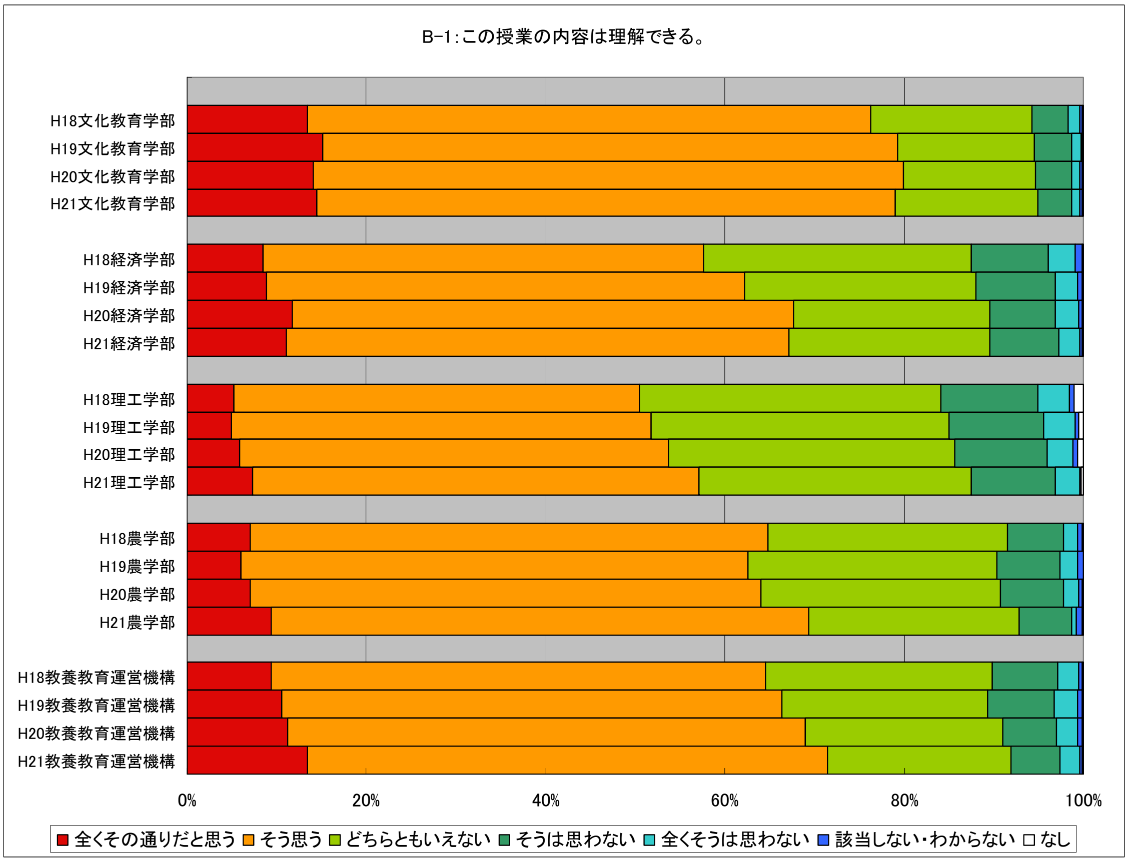
B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

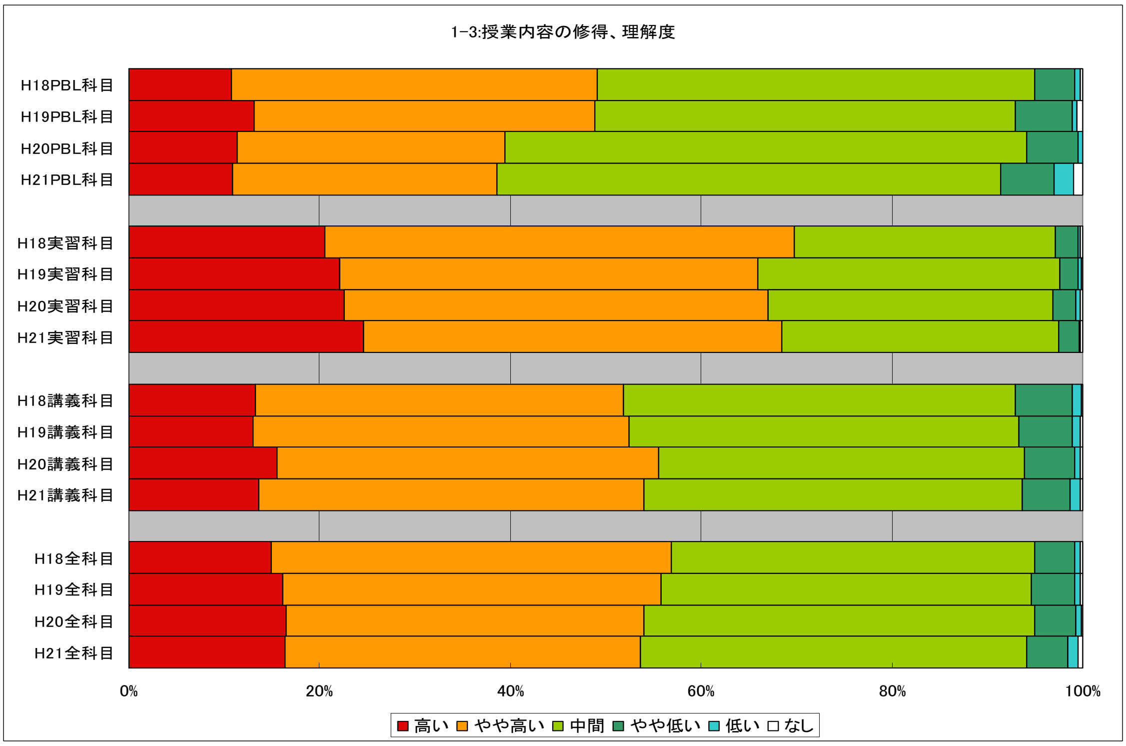
この項目は医学部授業評価アンケートの「授業内容の習得，理解度」に該当する．結果を下図に示す．前期と後期では傾向に大きな差は認められないが，前期で，「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的回答の比率は理工学部が最も高く，経済学部，教養教育運営機構，農学部，文化教育学部と徐々に比率は低くなる．「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は逆に文化教育学部，経済学部＝教養教育運営機構，農学部，理工学部の順に低くなる傾向が認められる．特に，理工学部では約50%と低い値になってi いるが，年々改善傾向にある．後期でもこの傾向はほとんど変化しない．医学部では実習科目で理解度が高く，講義科目，PBL科目の順に理解度が減少する傾向が認められる．



前期


B-1:この授業の内容は理解できる。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全くその通りだと思う
そう思う
どちらともいえない
そうは思わない
全くそうは思わない
該当しない・わからない
なし

後期


1-3:授業内容の修得、理解度
H18PBL科目
H19PBL科目
H20PBL科目
H21PBL科目
H18実習科目
H19実習科目
H20実習科目
H21実習科目
H18講義科目
H19講義科目
H20講義科目
H21講義科目
H18全科目
H19全科目
H20全科目
H21全科目
0%
20%
40%
60%
80%
100%
高い
やや高い
中間
やや低い
低い
なし

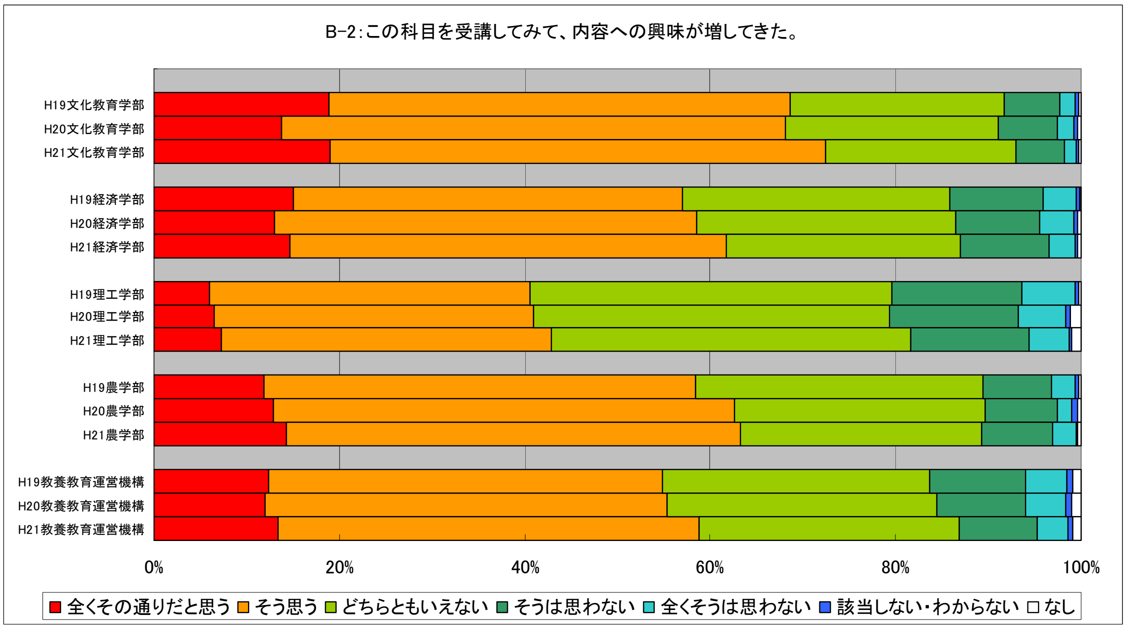
医学部

B-2 この科目を受講してみて，内容への興味が増してきた

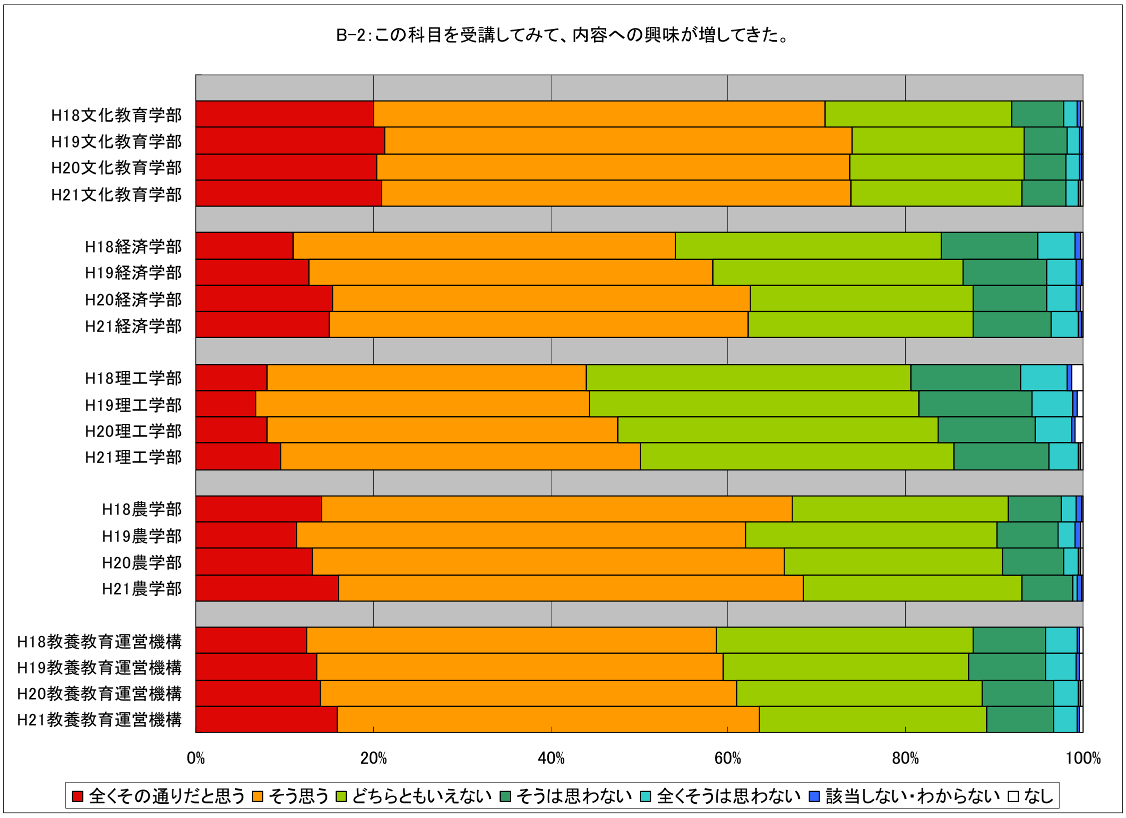
この質問項目に該当する医学部授業評価アンケートは「授業内容に対して抱いた興味の程度」である．それぞれの回答結果を図７に示す．

前期と後期に見られる傾向には大きな差異は認められない．「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的回答の比率は理工学部で最も高く，経済学部 ≈ 教養教育運営機構，農学部，文化教育学部の順に低くなる傾向がある．逆に「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の比率は文化教育学部で最も高く70%近くに達している．次いで農学部，経済学部，教養教育運営機構，理工学の順に比率が小さくなる傾向にある．特に理工学部では肯定的意見の比率が約50%に留まっているが，年々改善傾向にはある．

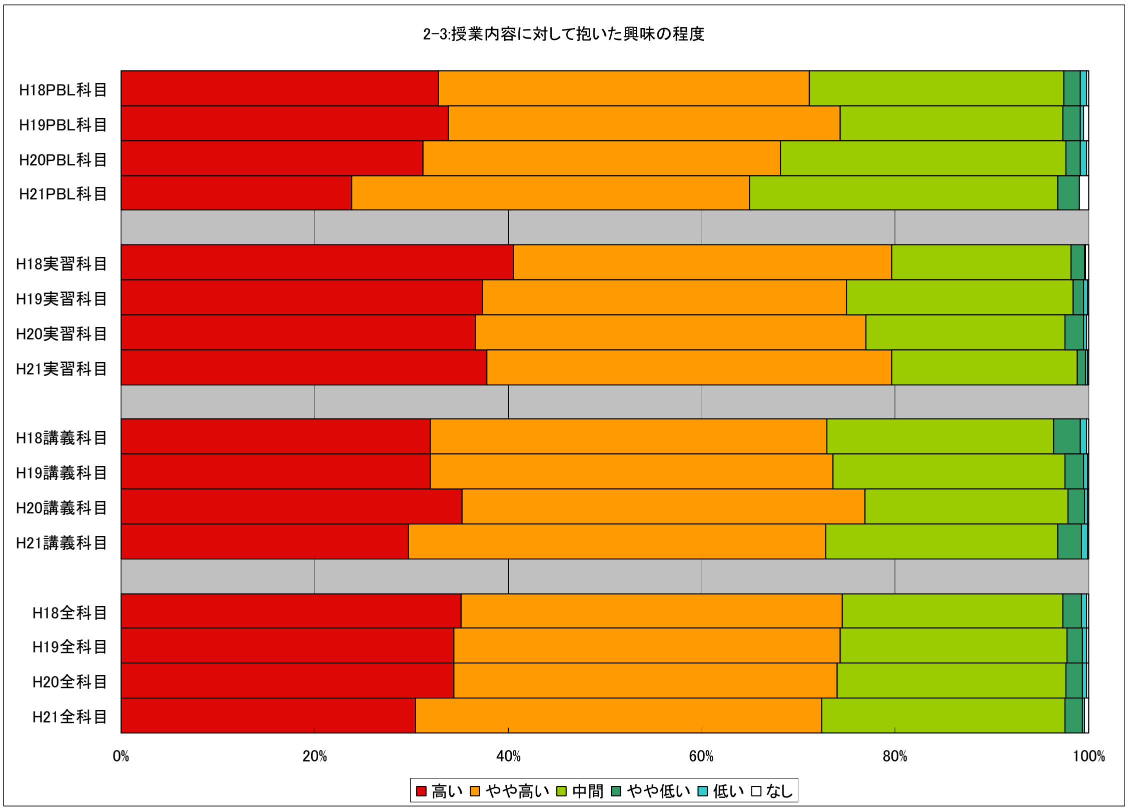
医学部授業評価アンケートでは「低い」，「やや低い」とする否定的意見の比率は全科目において他学部より低く，また「やや高い」，「高い」の占める割合は実習科目および講義科目で70%を超えており，評価できる．



前期


B-2:この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全くその通りだと思う
そう思う
どちらともいえない
そうは思わない
全くそうは思わない
該当しない・わからない
なし

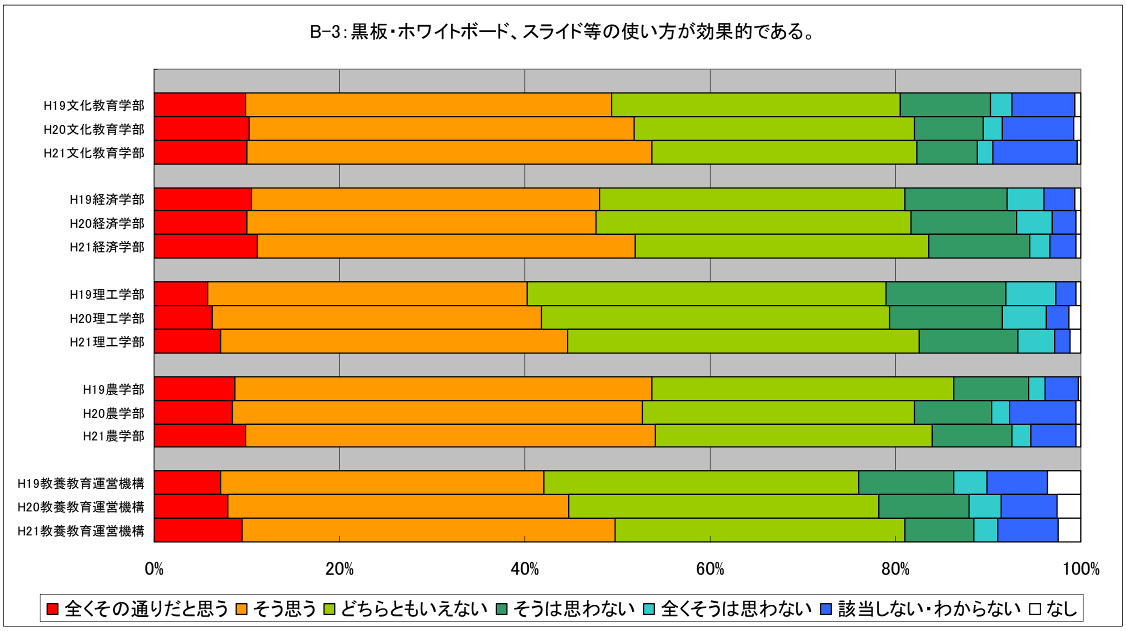
後期


2-3:授業内容に対して抱いた興味の程度
H18PBL科目
H19PBL科目
H20PBL科目
H21PBL科目
H18実習科目
H19実習科目
H20実習科目
H21実習科目
H18講義科目
H19講義科目
H20講義科目
H21講義科目
H18全科目
H19全科目
H20全科目
H21全科目
0%
20%
40%
60%
80%
100%
高い
やや高い
中間
やや低い
低い
なし

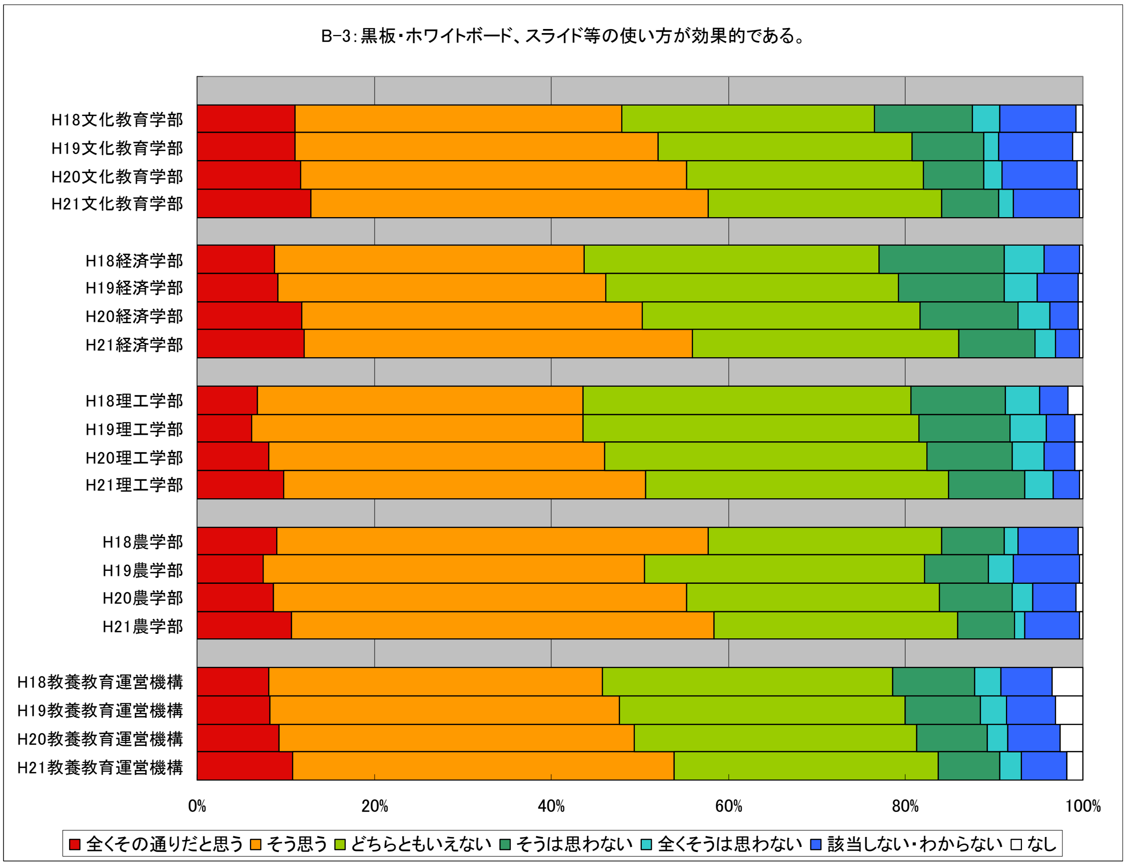
医学部

B-3 黒板・ホワイトボード，スライド等の使い方が効果的である

この質問項目の回答結果を下図に示す．この項目に関しても前期と後期では大きな差は認められない．「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は理工学部や経済学部で高く，教養教育運営機構，農学部，文化教育学部でそれらに比して低い値を示している．なお，部局間の差は後期では小さくなっている．他の質問項目に比べて「該当しないかわからない」の比率が高くなっている．一方，「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は農学部，文化教育学部で高く50%程度に達しており，経済学部，教養教育運営機構がそれに続いている．最も割合が低いのは理工学部であった．とはいえ，特に後期については，すべての学部と機構において改善傾向にある．



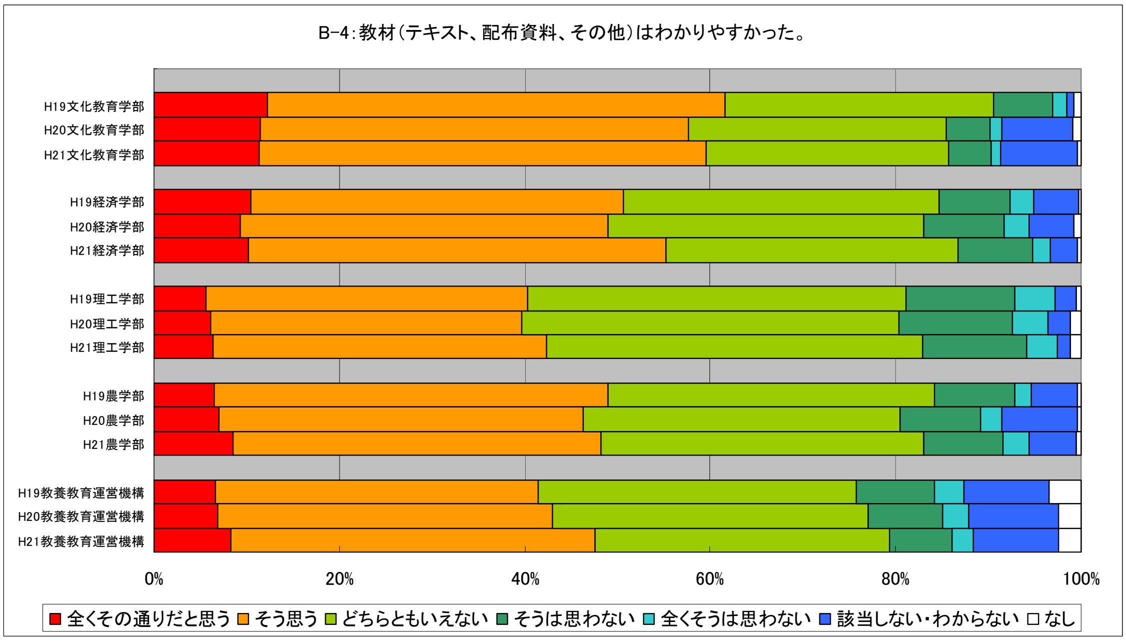
前期



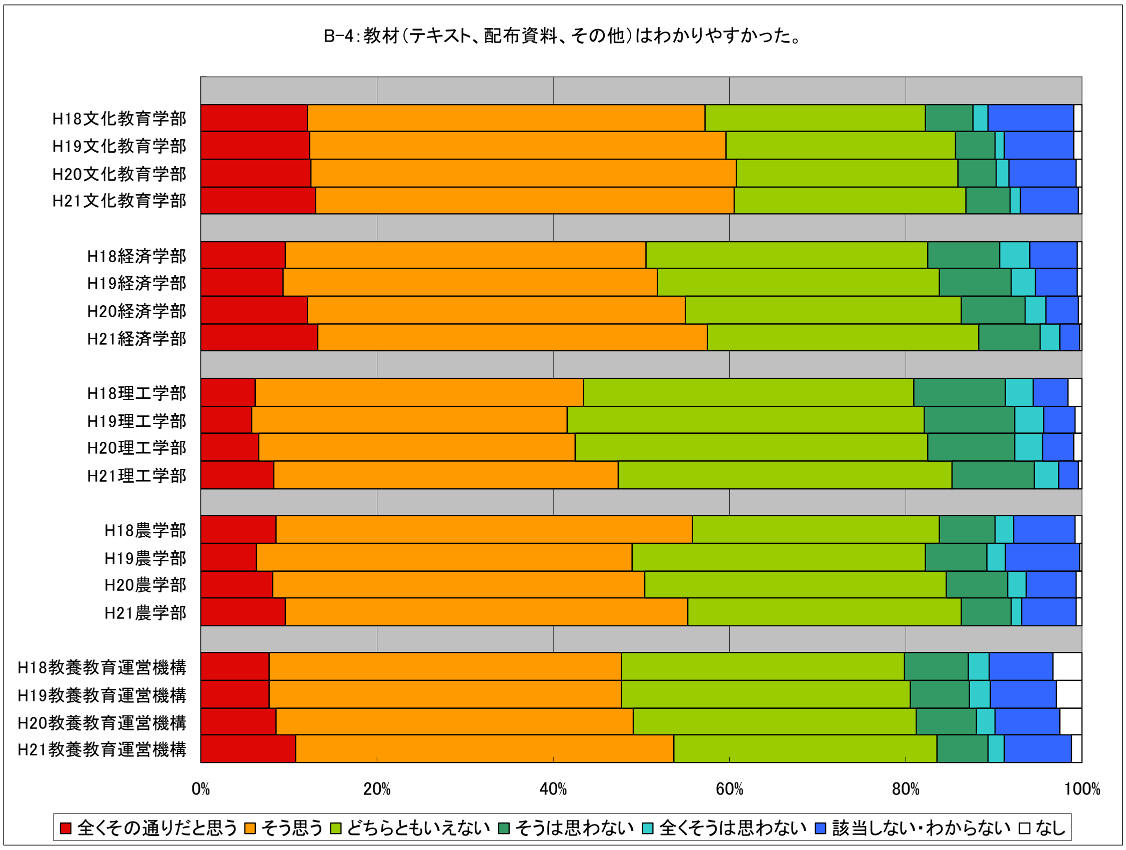
後期

B-4 教材（テキスト，配布資料，その他）はわかりやすかった

この質問項目の回答結果を下図に示す．前期，後期を通して「そう思う」,「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は文化教育学部で高く，経済学部，農学部，教養教育運営機構，理工学部の順に低くなる．特に理工学部では40%程度しかないが，後期に関していえば徐々に改善している．逆に「全くそうは思わない」,「そうは思わない」などの否定的意見は，理工学部，教養教育運営機構，農学部，経済学部，文化教育学部の順に低くなる．全体的には年々改善傾向にあるので，この傾向が続くように教材開発を進める必要がある．


B-4:教材(テキスト、配布資料、その他)はわかりやすかった。
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全くその通りだと思う
そう思う
どちらともいえない
そうは思わない
全くそうは思わない
該当しない・わからない
なし

前期

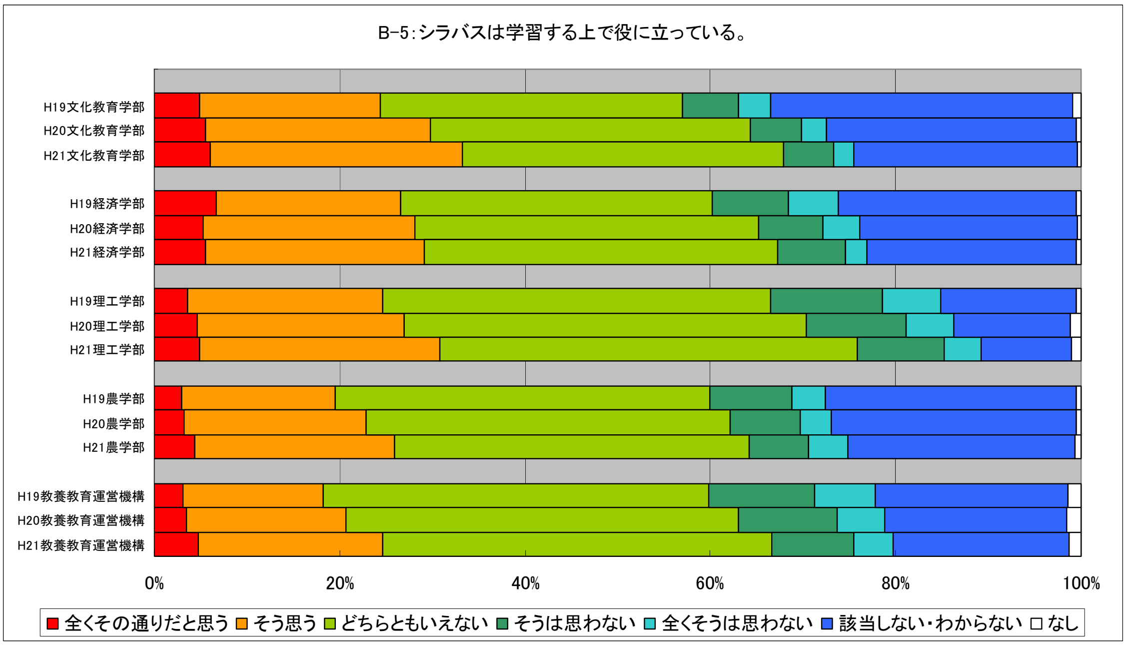

B-4:教材(テキスト、配布資料、その他)はわかりやすかった。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全くその通りだと思う
そう思う
どちらともいえない
そうは思わない
全くそうは思わない
該当しない・わからない
なし

後期

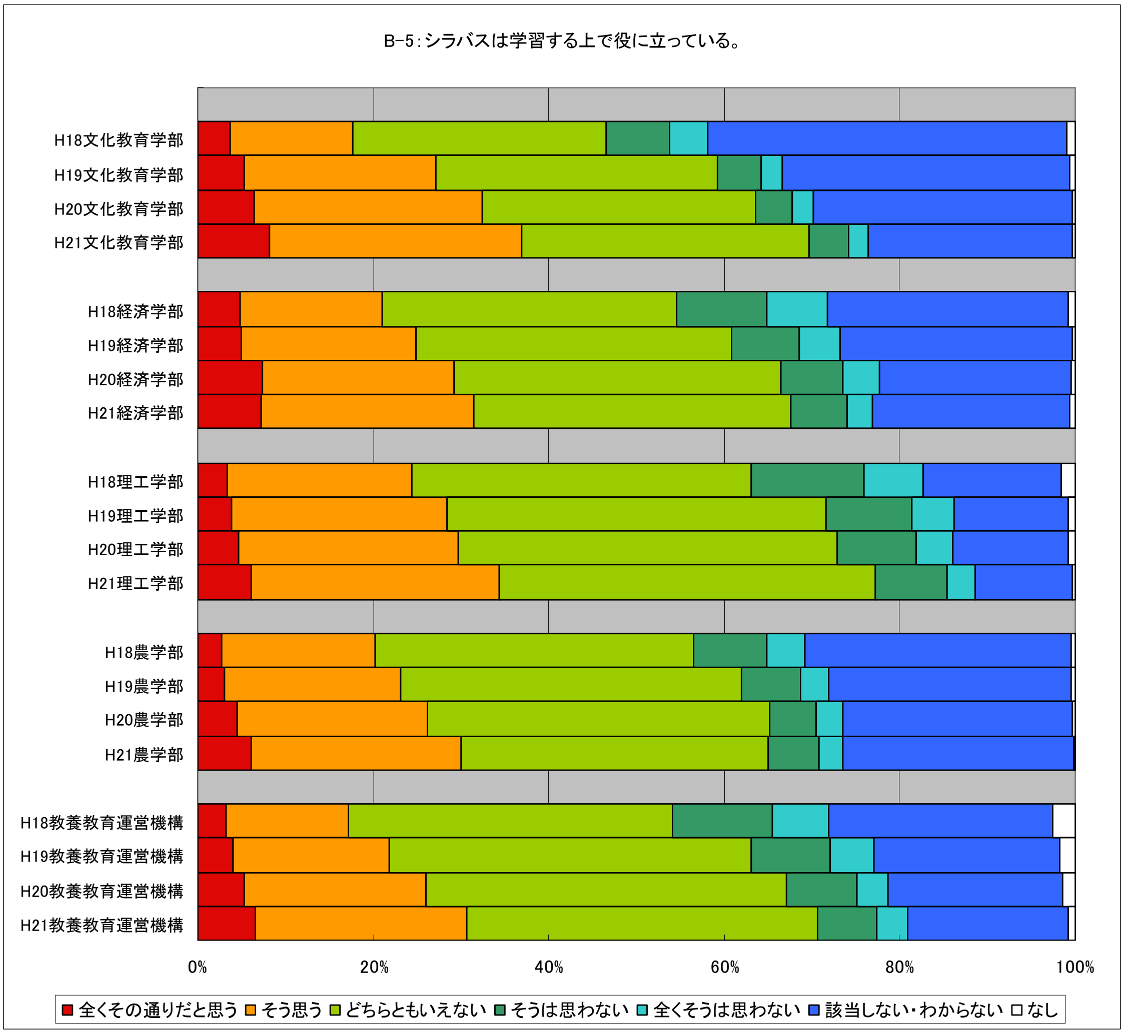
B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

この項目に対応する医学部授業評価アンケートでは講義科目対象のアンケートに「シラバスや配付資料の有効利用度」がこれに相当する．なお，医学部では以下の理由からPBL科目や実習科目においてシラバスの重要性をアンケート項目として取り上げていない．ＰＢＬ科目については実際の症例を例示しながらチューターが小グループを指導し，指導で十分行き届かない点を授業するという形式を取っているため，シラバスによって学生に講義内容を周知させることが困難である．一方，実習科目では厚生労働省の卒前教育の指針に従って学習の目的と学習内容の概要を冊子にして配布しており，シラバスの重要性を問う意義に乏しい．ここでは授業評価アンケートの結果のみを下図に示す．

この項目で特徴的なのは「該当しない・わからない」の占める比率が極めて大きいことである．「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める比率は文化教育学部，経済学部，理工学部で高く，農学部と教養教育運営機構で若干低くなっているが，全体として25～35%程度で推移している．全学部・機構において肯定的意見の割合が増加しているが，これは平成19年度の前期から「シラバス作成に関する要項」を定め，各授業科目において第１回目の授業でシラバスの内容を説明することが義務づけられている効果が徐々に表れていると考えられる．ただし，さらなる周知が必要と考えられる．



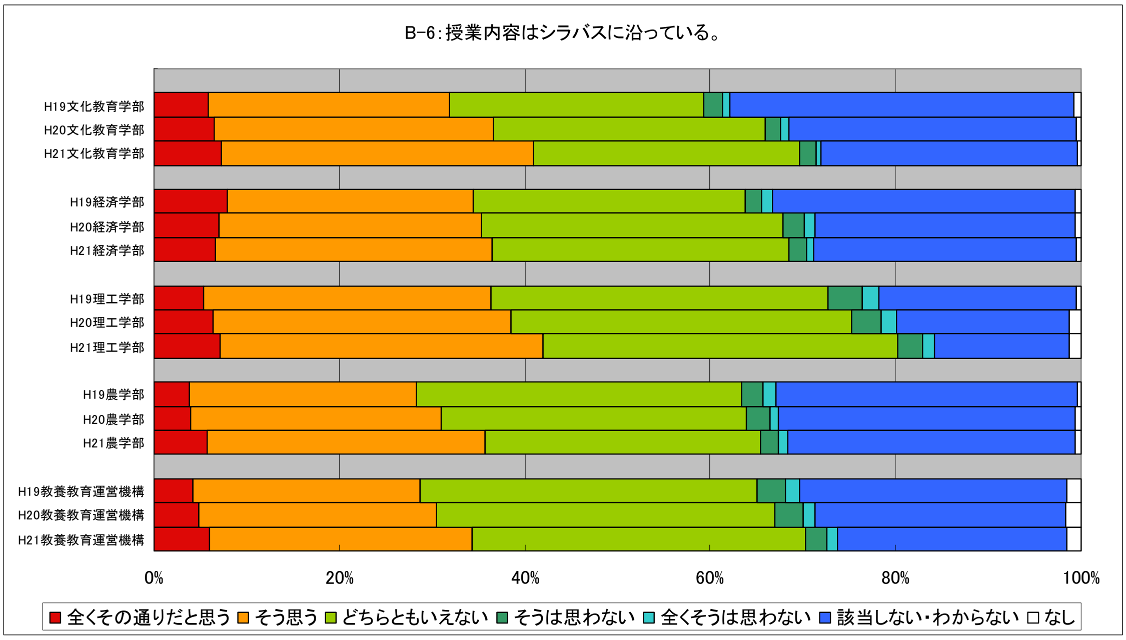
前期



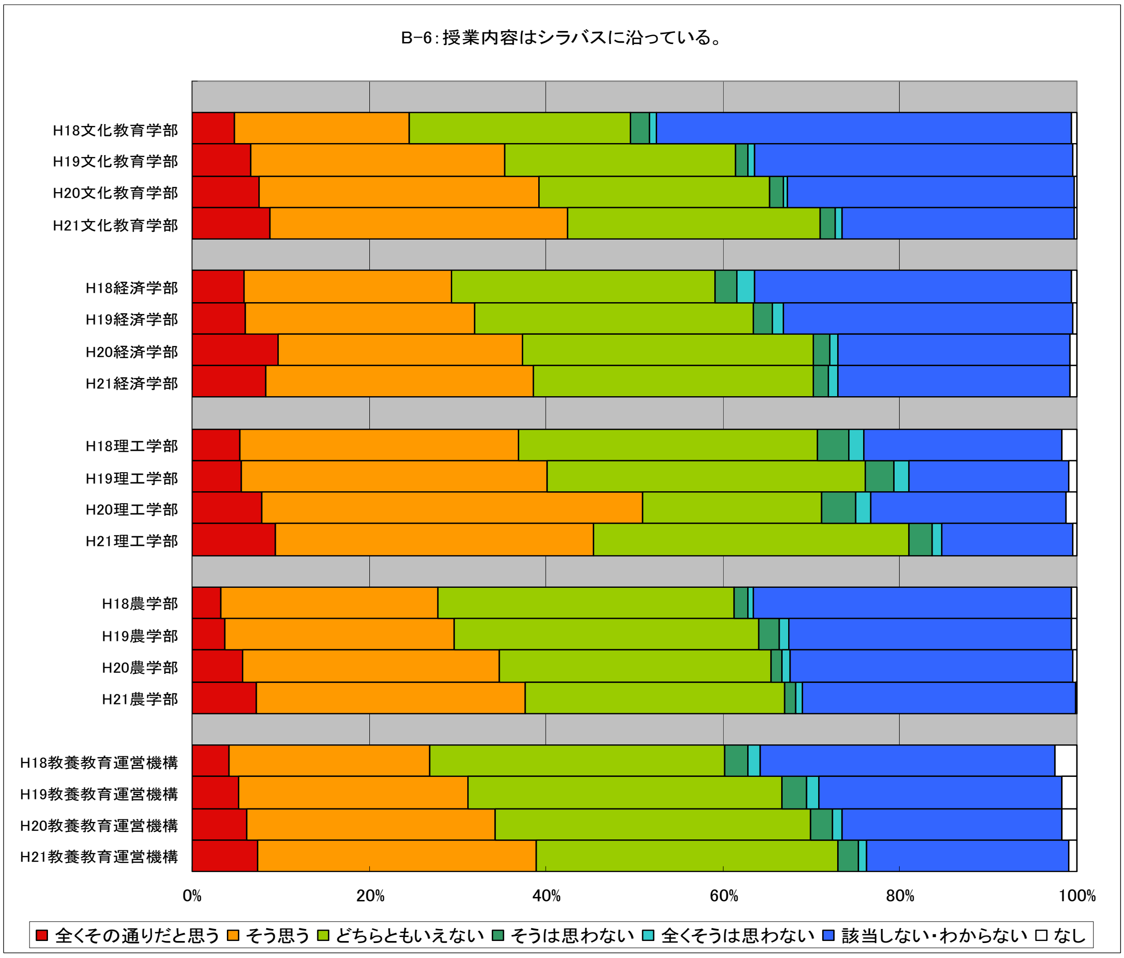
後期

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

この項目に相当する授業評価アンケートの結果を下図に示す．前期と後期のアンケート結果で有意な差は認められない．この項目でも，「該当しない・わからない」と回答した学生の比率は非常に高い．理工学部ではこの割合が最も低く，他学部よりシラバスにそった授業が実施されていると考えられる．「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の割合は理工学部で最も高く，全学期で40%に達している．肯定的意見の割合が低いのは農学部と教養教育運営機構であり，30～35%となっている．シラバスに対する認識自体が低い値を示しているので，学生の意識を変える必要がある． ただし，全体的には肯定的意見が年々増えている．


B-6：授業内容はシラバスに沿っている。
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全くその通りだと思う
そう思う
どちらともいえない
そうは思わない
全くそうは思わない
該当しない・わからない
なし

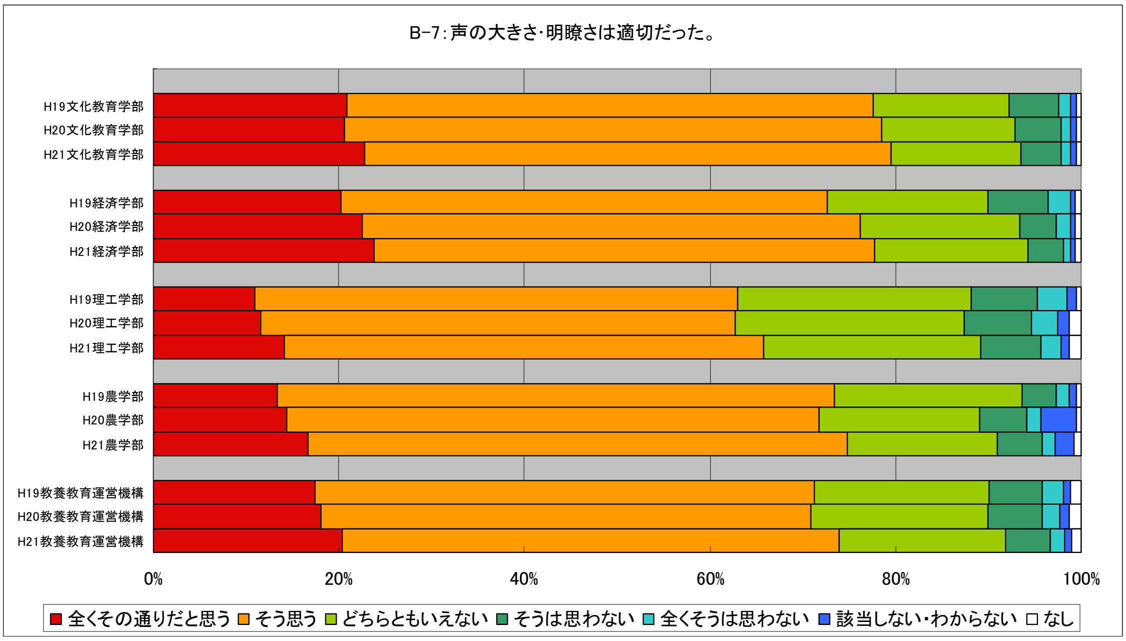
前期


B-6：授業内容はシラバスに沿っている。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全くその通りだと思う
そう思う
どちらともいえない
そうは思わない
全くそうは思わない
該当しない・わからない
なし

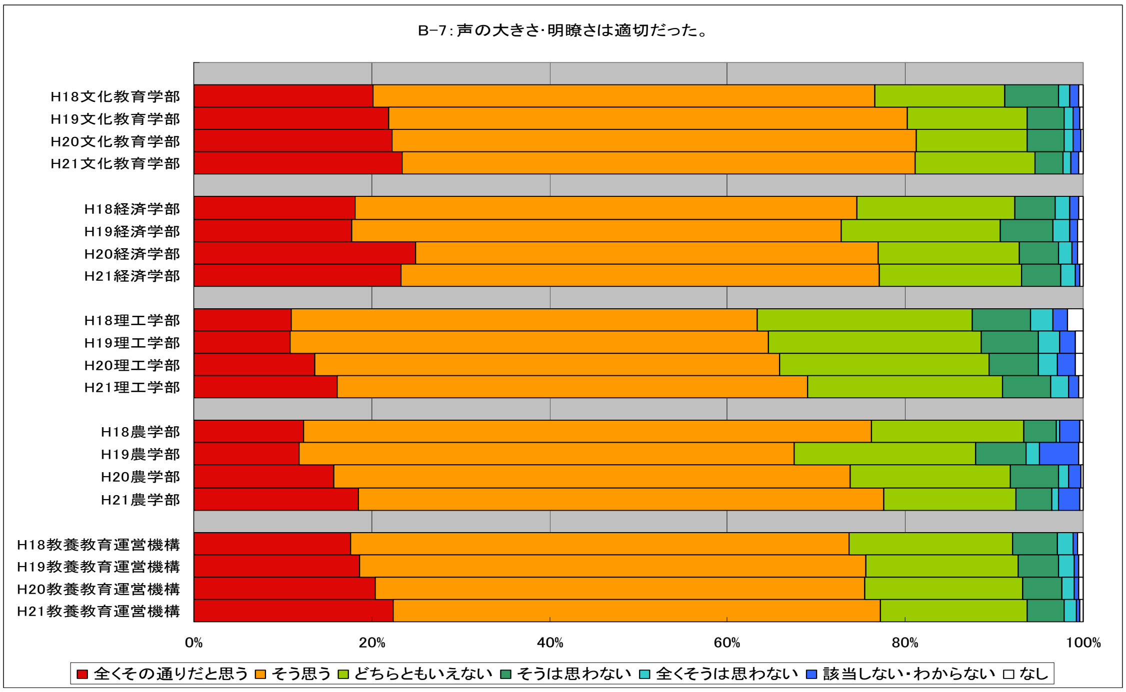
後期

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

下図にアンケート結果を示す．前期と後期で傾向に特別な差は認められない．すなわち，前期・後期共に「そう思う」が全体の６割近くを占めている．「そう思う」「まったくその通りだと思う」などの肯定的意見がもっとも多いのは文化教育学部で80%近くに達しており，次いで経済学部，教養教育運営機構＝農学部，理工学部の順となっている．特に理工学部の比率が低く，65%程度であり，改善が必要に思われるが，年々改善傾向にはある．



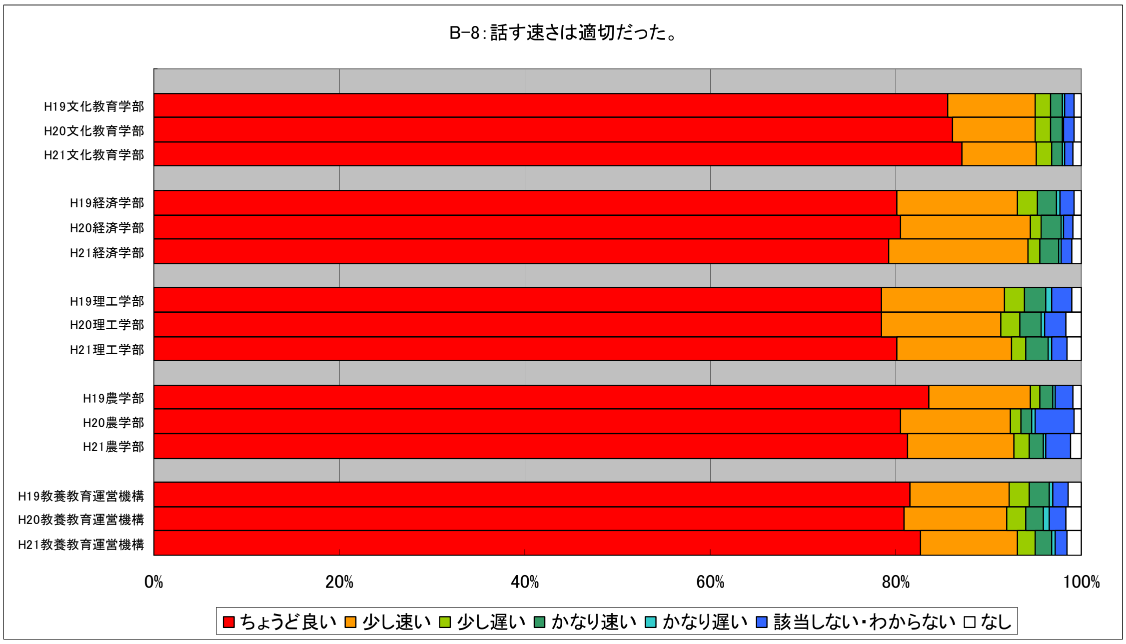
前期



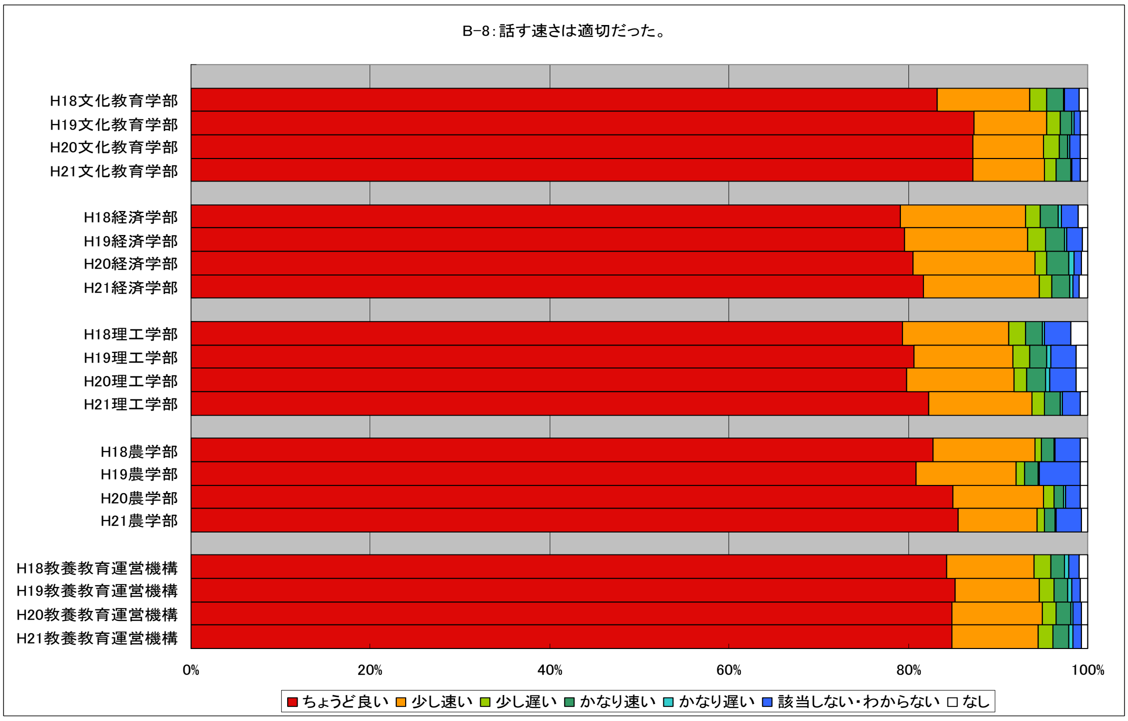
後期

B-8 話す速さは適切だった

結果を下図に示す．この項目でも前期，後期で認められる傾向は全く同じであり，特に差異はない．両アンケート共に「ちょうど良い」が70％を越えている．「速い」や「少し速い」などの意見が10ー20％認められる傾向があり，経済学部や理工学部でやや割合が大きくなっている．逆に「かなり遅い」「少し遅い」などの意見は5%程しか認められない．このことから，本学の教員は全体的に少し速く話す傾向にあると判断される．



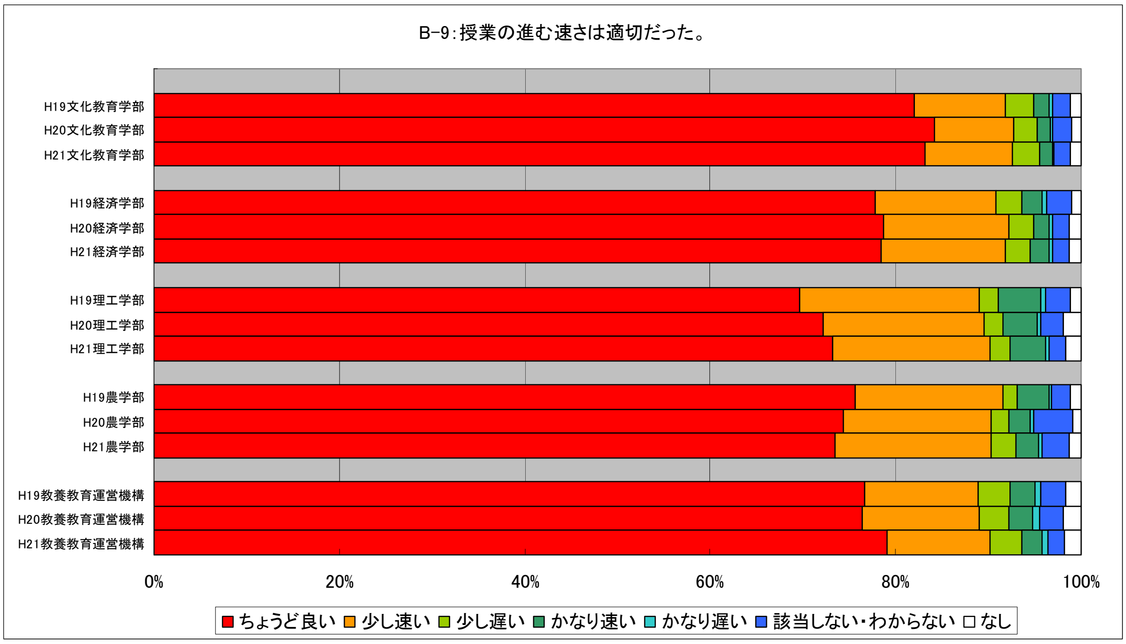
前期



後期

B-9 授業の進む速さは適切だった

この項目も前述の２つの質問項目と類似した内容である．結果を下図に示す．B-8の項目と同じように「丁度良い」が全体の約80%を占めている．「少し速い」「かなり速い」の割合は理工学部で最も高く前期，後期で20%を超えている．「かなり遅い」「少し遅い」は5%程度であり，この項目からも本学の学生は授業の進む速さが速いと感じていることが分かる．特に理工学部の学生にこの傾向が強いと言えよう．



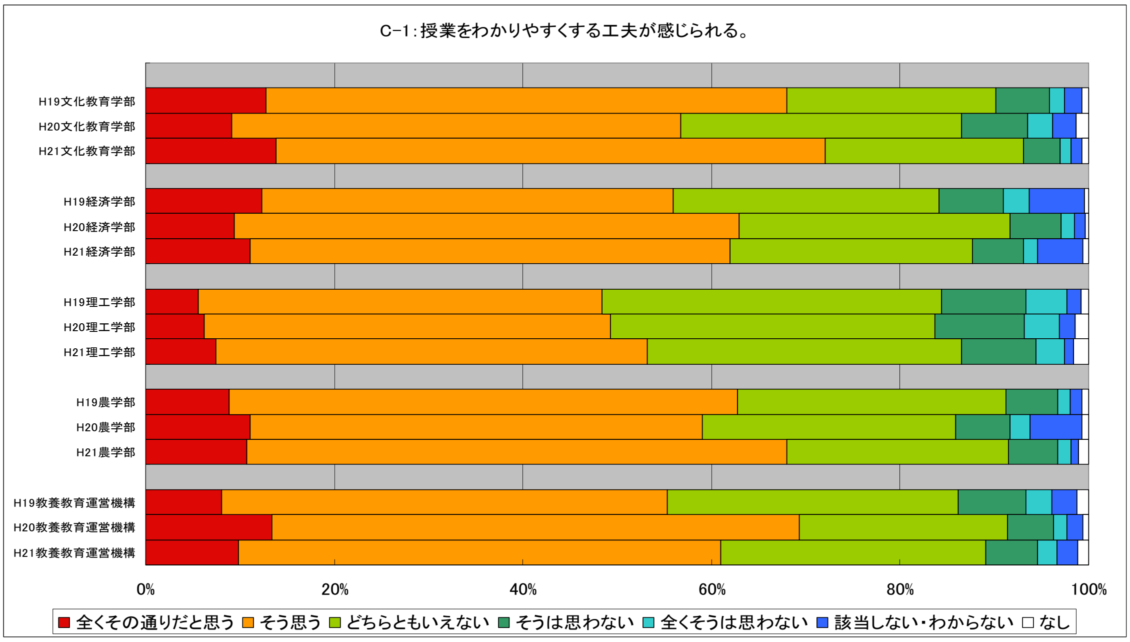
前期

後期

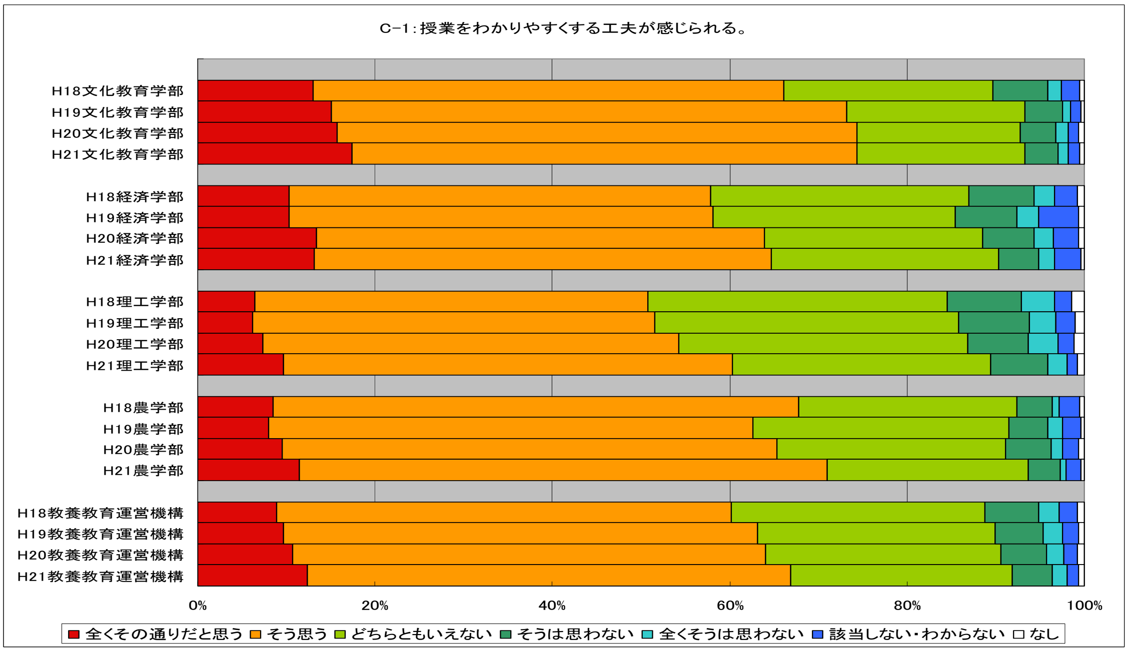
C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

結果を下図に示す．平成20年度は前期と後期で傾向に違いが認められたが，平成21年度については違いが見られない．平成21年度については，「そう思う」「全くその通りだと思う」などの肯定的意見は文化教育学部で最も高く75%近くに達している．ただし，理工学部の比率が低く50～55%であった．同様に，「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的意見の占める割合も理工学部で高くなっている．他学部ではこの比率が低い特徴がある．理工学部では改善が必要に思われるが，年々改善傾向にはある．



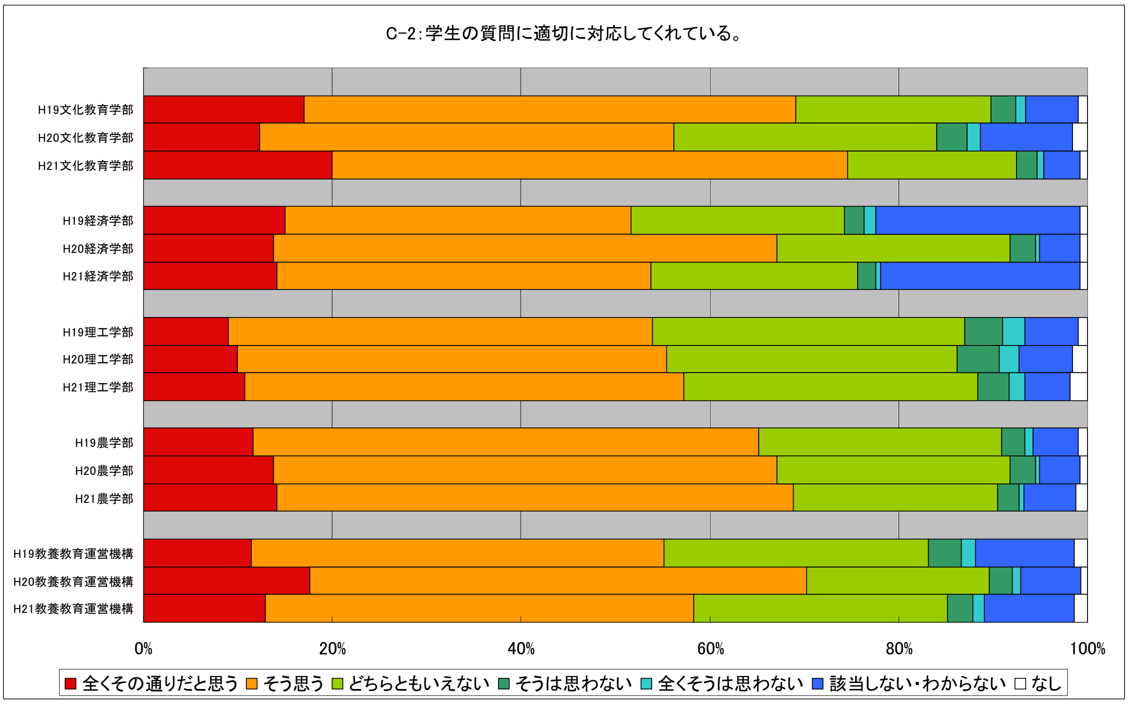
前期



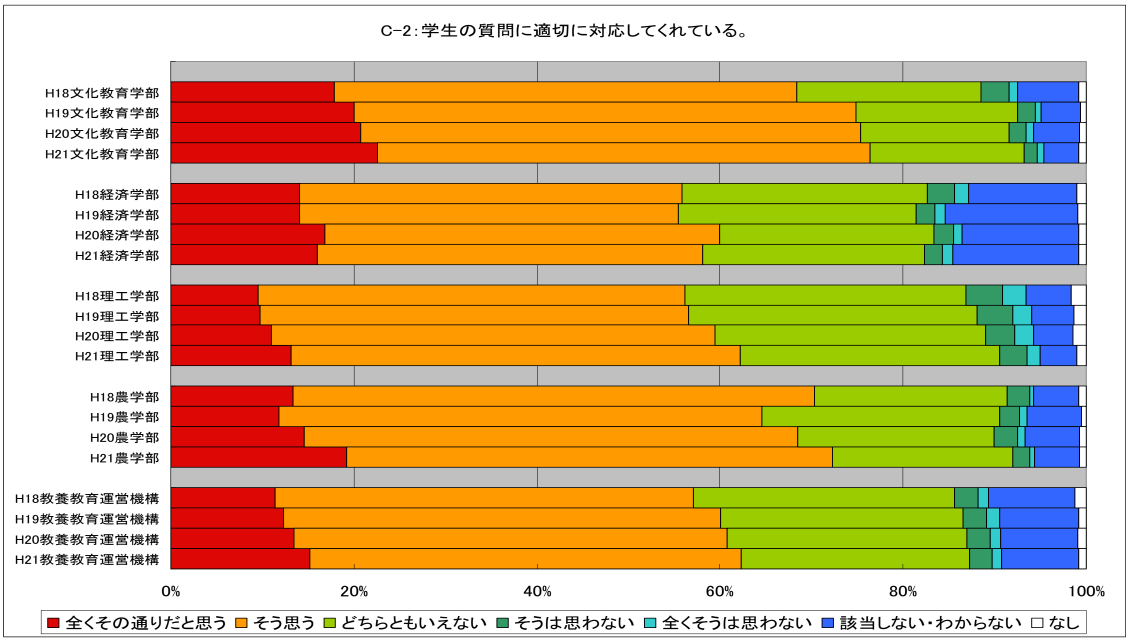
後期

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている

結果を下図に示す． 平成20年度は，前期と後期の授業評価アンケート結果は大きく異なっているが，平成21年度では大きな差は見られない．平成21年度については「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は文化教育学部，農学部で高く，70～75%近くに達している．教養教育運営機構，理工学部，経済学部はほぼ同程度で，60%程度にとどまっている．



前期



後期

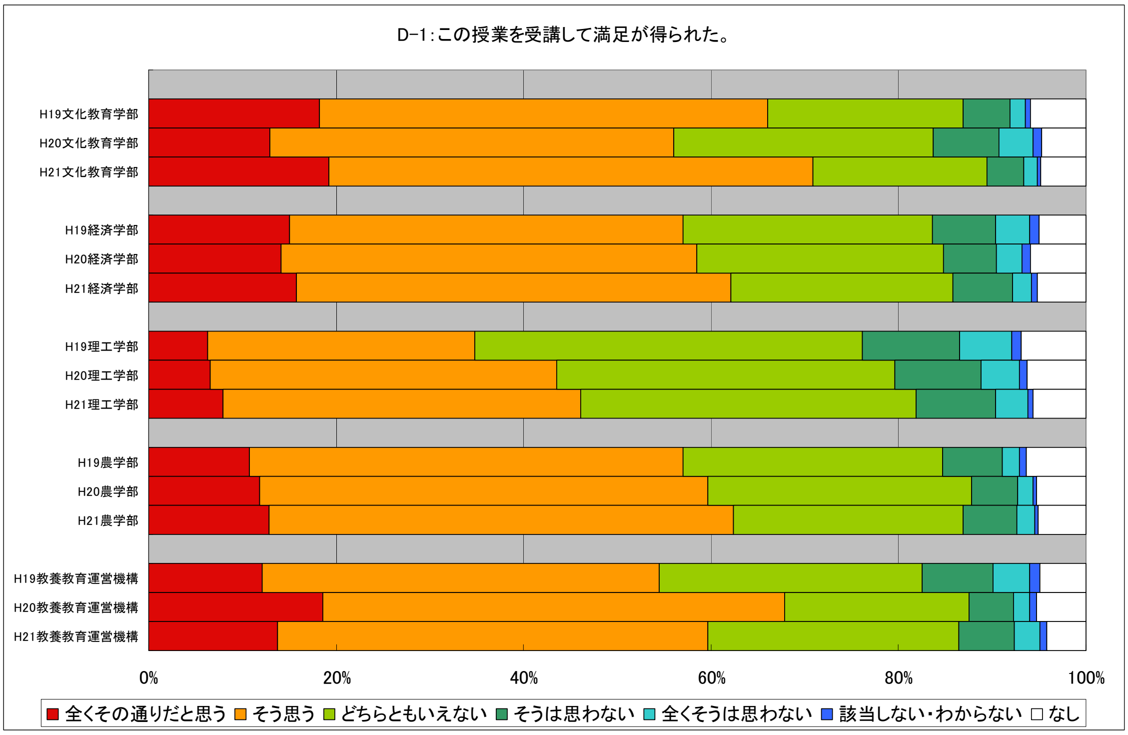
D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた

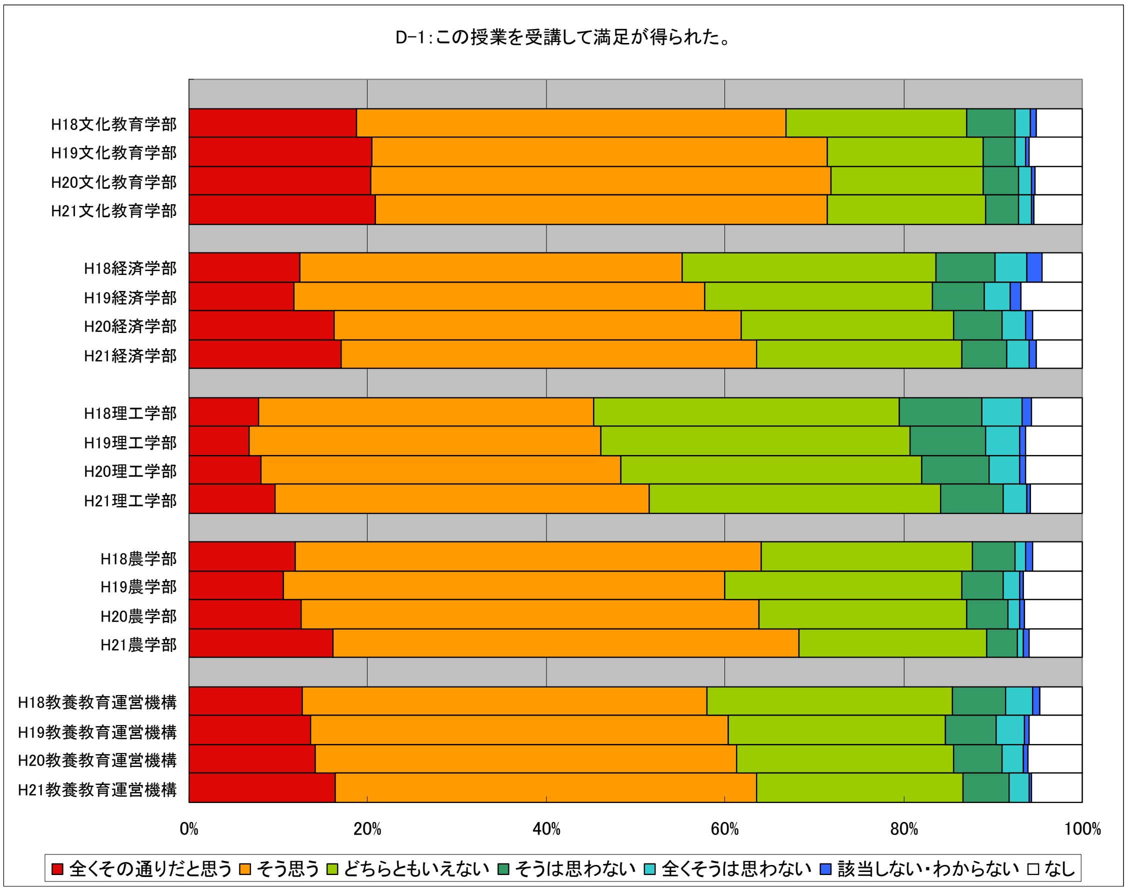
医学部授業評価アンケートには該当する項目として「授業内容の修得，理解度」が設定されているので，併せて下図に示した．平成20年度では，前期と後期の授業評価アンケート結果は大きく異なっていたが，平成21年度では大きな差は見られない．「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は文化教育学部で高く，70%，次いで農学部，経済学部，教養教育運営機構が60%程度である．全学期を通じて理工学部の肯定的意見の比率が低く，45～50%程度しかなかった．理工学部はこの原因を明らかにし，改善する必要があるが，理工学部においては年々改善傾向にはある．なお，「満足が得られた」という問いは，質問自体がやや曖昧なので，知識を積み上げる理工学部においては知識が身に付いたことに対する満足度を問うたほうがいいのかもしれない．

医学部では実習科目で「高い」，「やや高い」などの肯定的意見の占める割合が大きく，80%に達している．次に講義科目でその割合が高く75%程であり，PBL科目は60%強であり，他の学部の肯定的意見の占める割合と同程度を示している．また，「低い」，「やや低い」などの意見を占める割合はPBL科目で大きく，講義科目，実習科目の順に小さくなる傾向が認められる．

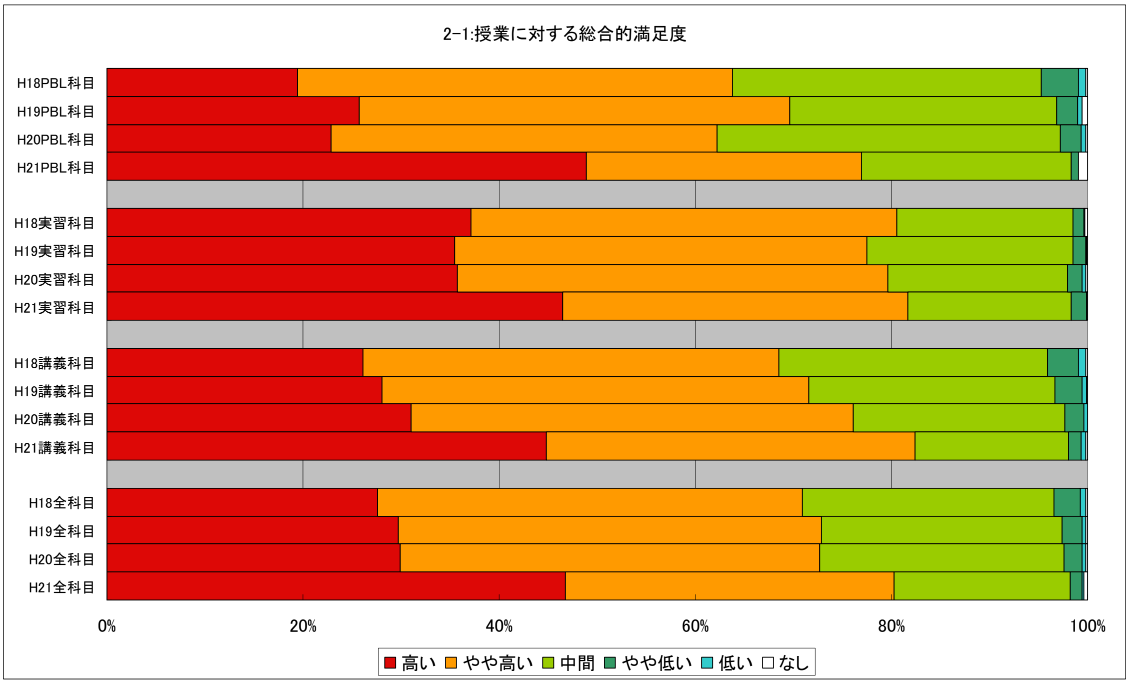
なお，満足度については，回答していない比率が高くなる．これは，この質問だけ独立して１問だけ設定されているため，見落とされている可能性がある．Webによるアンケートに移行した場合でもこの点に留意する必要があろう．



前期


D-1:この授業を受講して満足が得られた。
H18文化教育学部
H19文化教育学部
H20文化教育学部
H21文化教育学部
H18経済学部
H19経済学部
H20経済学部
H21経済学部
H18理工学部
H19理工学部
H20理工学部
H21理工学部
H18農学部
H19農学部
H20農学部
H21農学部
H18教養教育運営機構
H19教養教育運営機構
H20教養教育運営機構
H21教養教育運営機構
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全くその通りだと思う
そう思う
どちらともいえない
そうは思わない
全くそうは思わない
該当しない・わからない
なし

後期


2-1:授業に対する総合的満足度
H18PBL科目
H19PBL科目
H20PBL科目
H21PBL科目
H18実習科目
H19実習科目
H20実習科目
H21実習科目
H18講義科目
H19講義科目
H20講義科目
H21講義科目
H18全科目
H19全科目
H20全科目
H21全科目
0%
20%
40%
60%
80%
100%
高い
やや高い
中間
やや低い
低い
なし

医学部

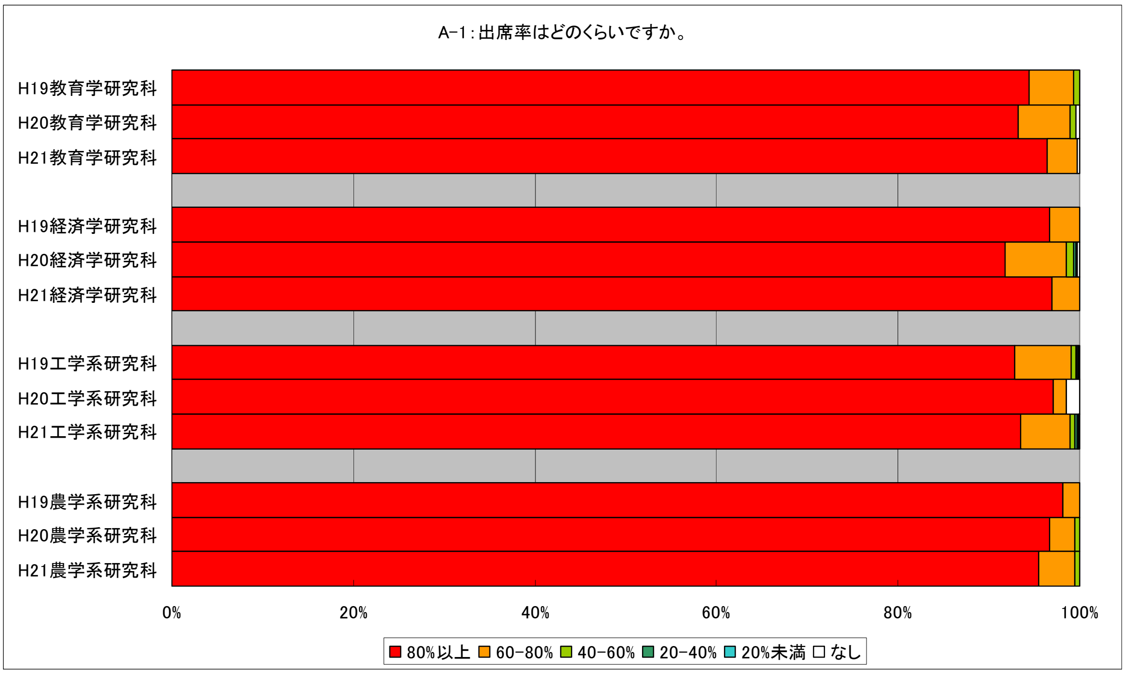
Ⅲ-（２） 研究科別の結果と解析

ここでは平成18年度から取り組んでいる教育学研究科，経済学研究科，工学系研究科，農学研究科の授業評価アンケートについて前述の学部別と同様に結果とその解析について述べる．以下の結果において，経済学研究科とその他の研究科とでは大きな差が認められる項目が多いが，これは経済学研究科のアンケート実施率が他の研究科に比べて約20%低いことに原因があると思われる．このことを念頭において本報告書の結果を見てもらいたい．なお，医学系研究科についても実施しているが，アンケート項目が他研究科と異なっているため，本報告書からは割愛する．

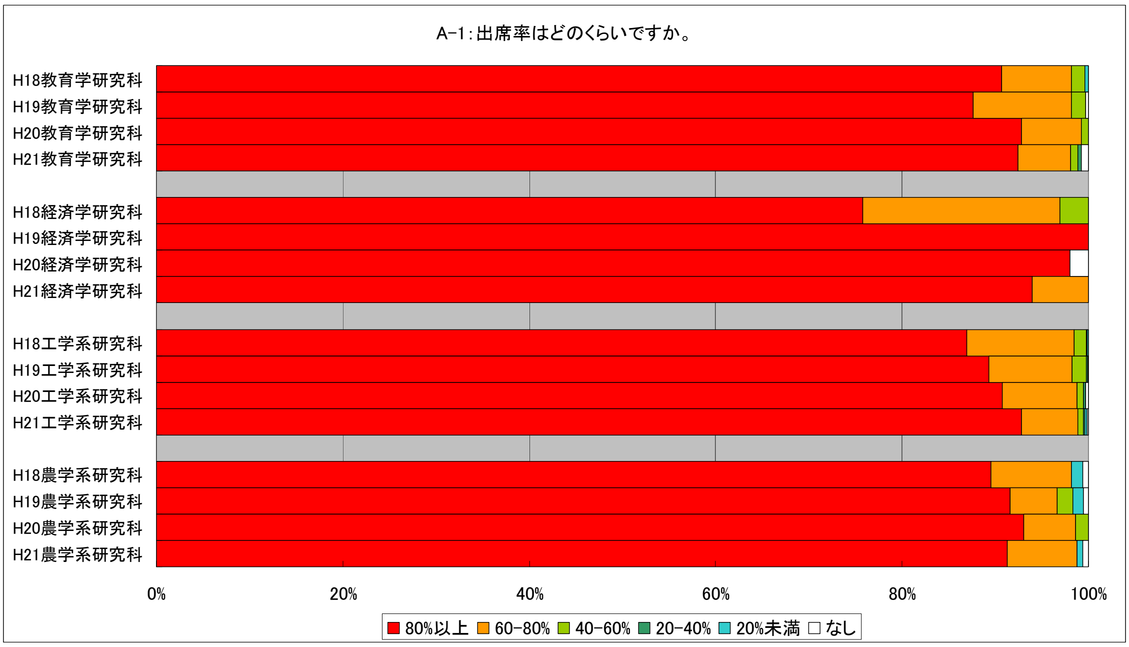
A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

下図に出席率に関する回答結果を示す．前期と後期に大きな違いは認められなかった．80%以上出席したという回答の占める割合はすべての研究科で90%に達している．特に経済学研究科は前期，後期共にほぼ100%の出席率となっている．



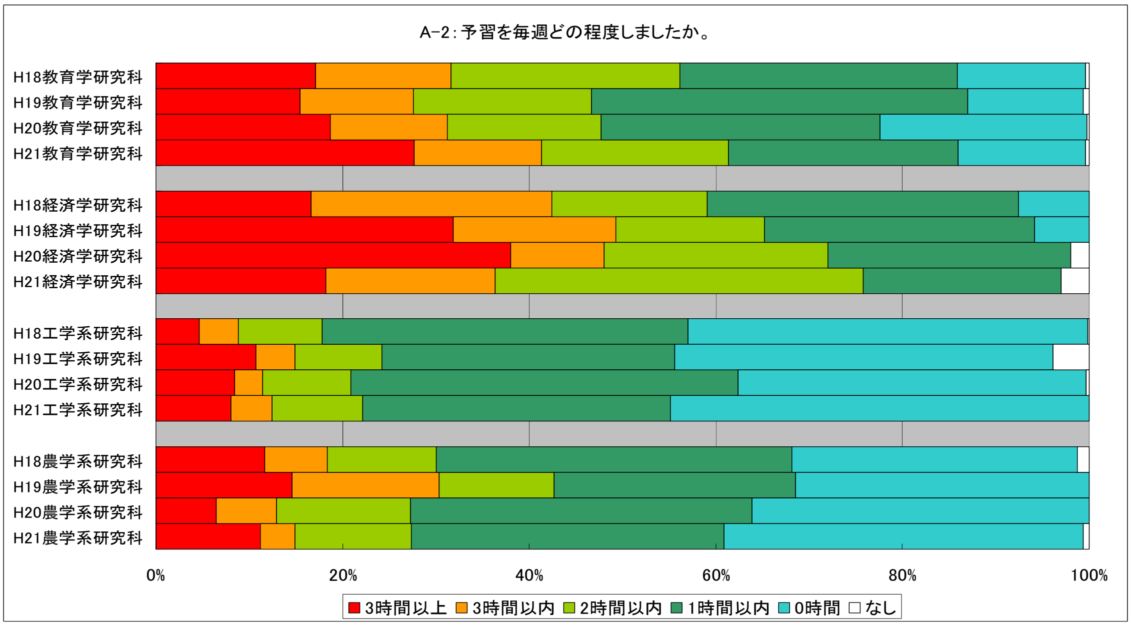
前期



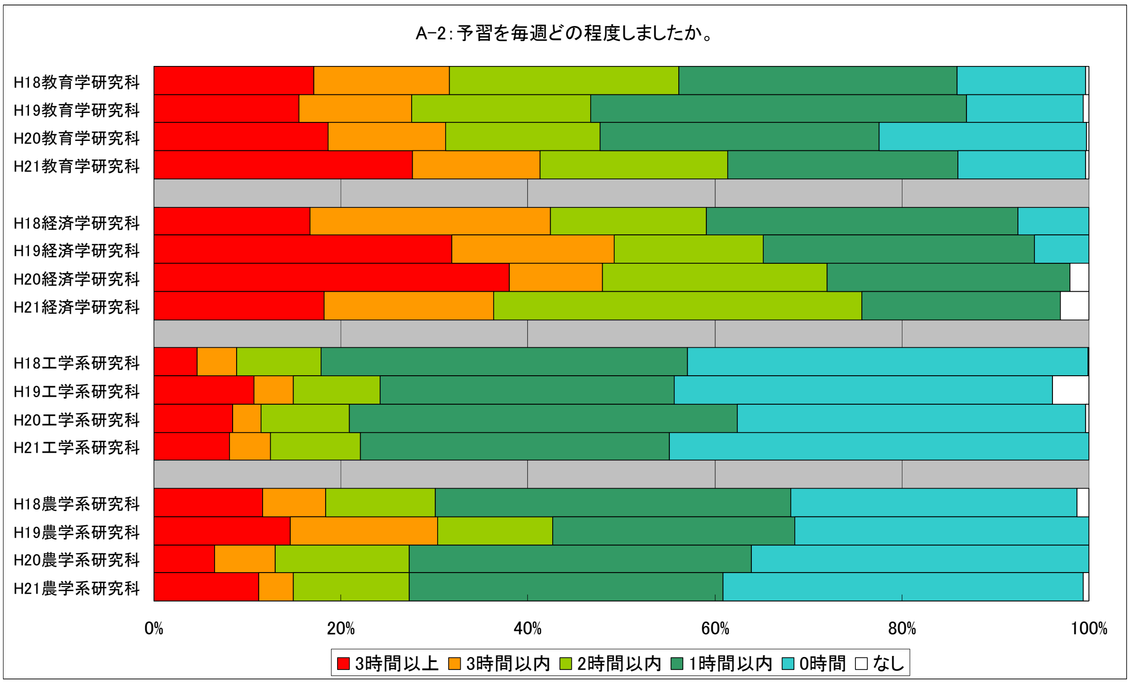
後期

A-2　予習をどの程度していますか

下図に毎週の予習時間についての回答結果を示す．この結果は経済学研究科と他の研究科で明瞭に差が認められる．すなわち，平成21年度については毎週の予習時間が０時間と回答した割合が経済学研究科ではほとんどいないが，教育学研究科では20%程度，農学研究科および工学系研究科では35～40%程度に及んでいる．「3時間以内」，「3時間以上」と回答した割合も経済学研究科では60%を超えているが，教育学研究科では20～40%，農学研究科および工学系研究科では20%以下になっており，なんらかの取り組みが必要であろう．



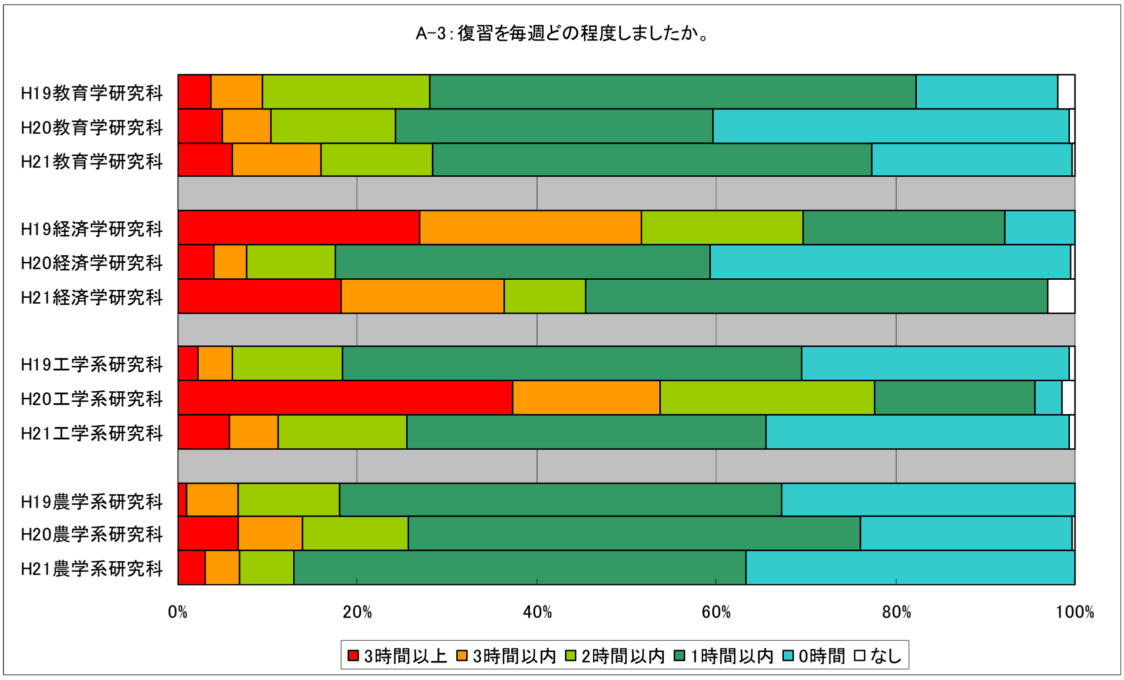
前期



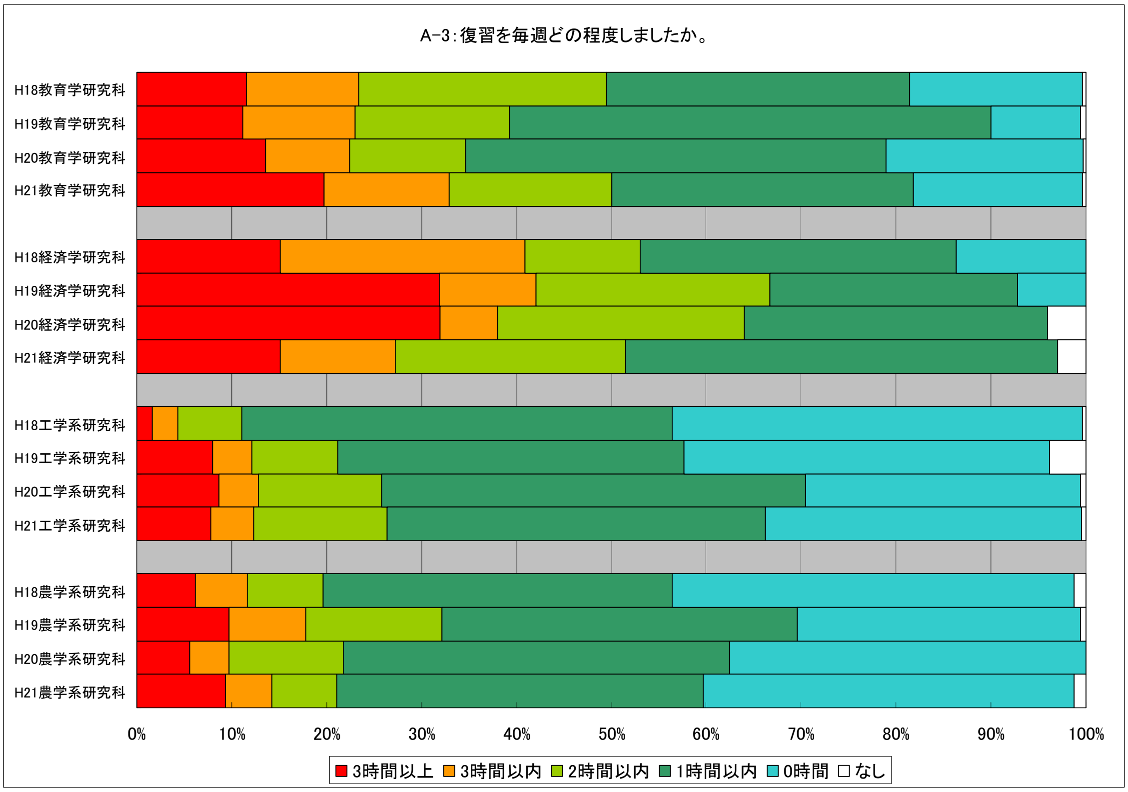
後期

A-3　復習をどの程度していますか

下図に毎週の復習時間についての回答結果を示す．この項目も経済学研究科と他の研究科で明瞭に差が認められる．経済学研究科では「0時間」と回答している割合は10%を下回っているが，教育学研究科では25%，農学研究科および工学系研究科では30～40%となっている．また，「３時間以内」，「３時間以上」との回答の割合も経済学研究科では30～40％となっているが，教育学研究科では15%，農学研究科および工学系研究科では10%～15%程度となっている．なお，特に工学系研究科の前期において，年度間に差が見られる．理由は定かではないが，ほとんどの科目が隔年開講されている，ほとんどの学生が前期に多くの科目を履修する傾向にある，といったことが考えられる．


A-3：復習を毎週どの程度しましたか。
H19教育学研究科
H20教育学研究科
H21教育学研究科
H19経済学研究科
H20経済学研究科
H21経済学研究科
H19工学系研究科
H20工学系研究科
H21工学系研究科
H19農学系研究科
H20農学系研究科
H21農学系研究科
0%
20%
40%
60%
80%
100%
3時間以上 3時間以内 2時間以内 1時間以内 0時間 なし

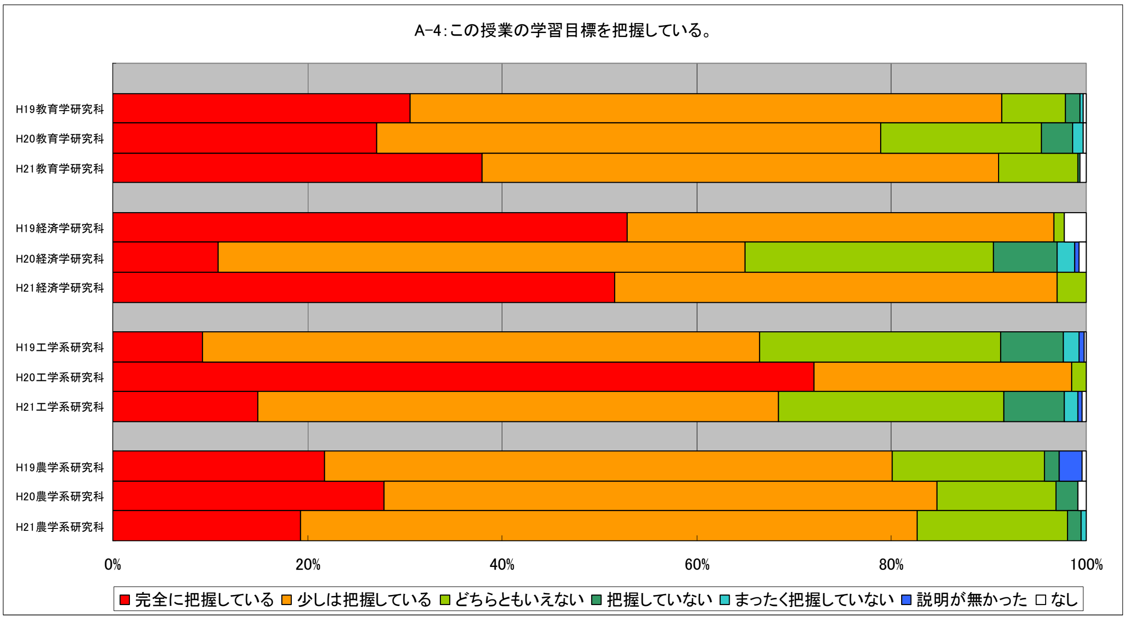
前期


A-3：復習を毎週どの程度しましたか。
H18教育学研究科
H19教育学研究科
H20教育学研究科
H21教育学研究科
H18経済学研究科
H19経済学研究科
H20経済学研究科
H21経済学研究科
H18工学系研究科
H19工学系研究科
H20工学系研究科
H21工学系研究科
H18農学系研究科
H19農学系研究科
H20農学系研究科
H21農学系研究科
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
3時間以上 3時間以内 2時間以内 1時間以内 0時間 なし

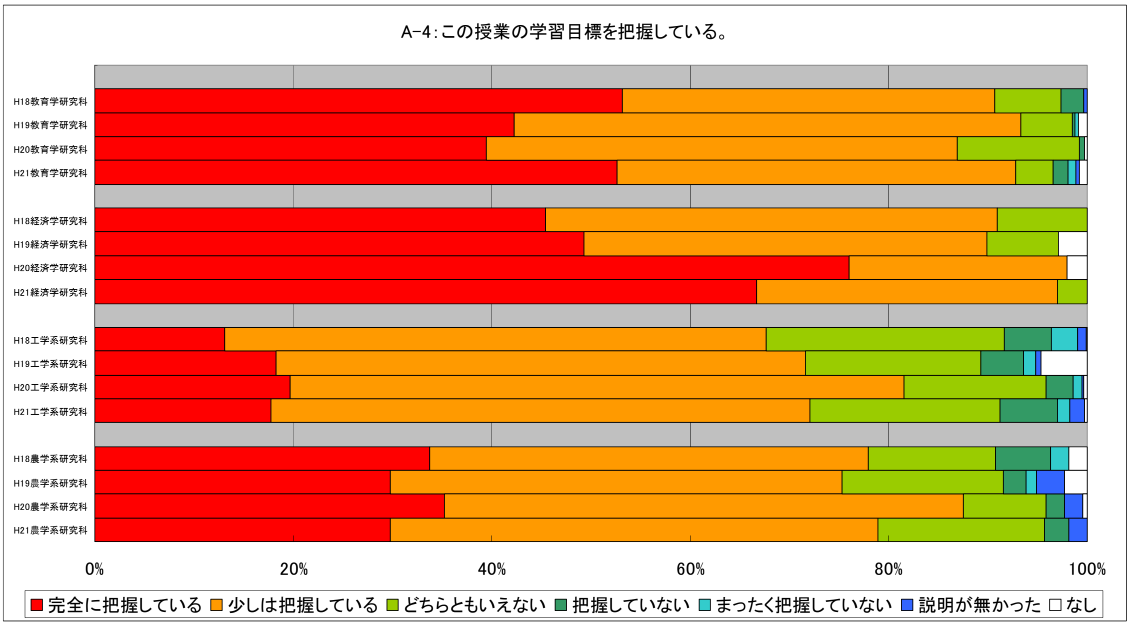
後期

A-4 この授業の学習目標を把握している

回答結果を下図に示す．この項目では全ての研究科で「全く把握していない」と回答した学生はわずかしかいない．この項目も経済学研究科と他の研究科で明瞭に差が認められる．即ち，「完全に把握している」という回答は経済学研究科で50～70%にも達しているが，教育学研究科および農学研究科では30～50%，理工学研究科では20%未満となっている．なお，「少しは把握している」という肯定的意見を加えると経済学研究科で100%，教育学研究科および農学研究科では80～90%，工学系研究科でも後期には約70%に達している．



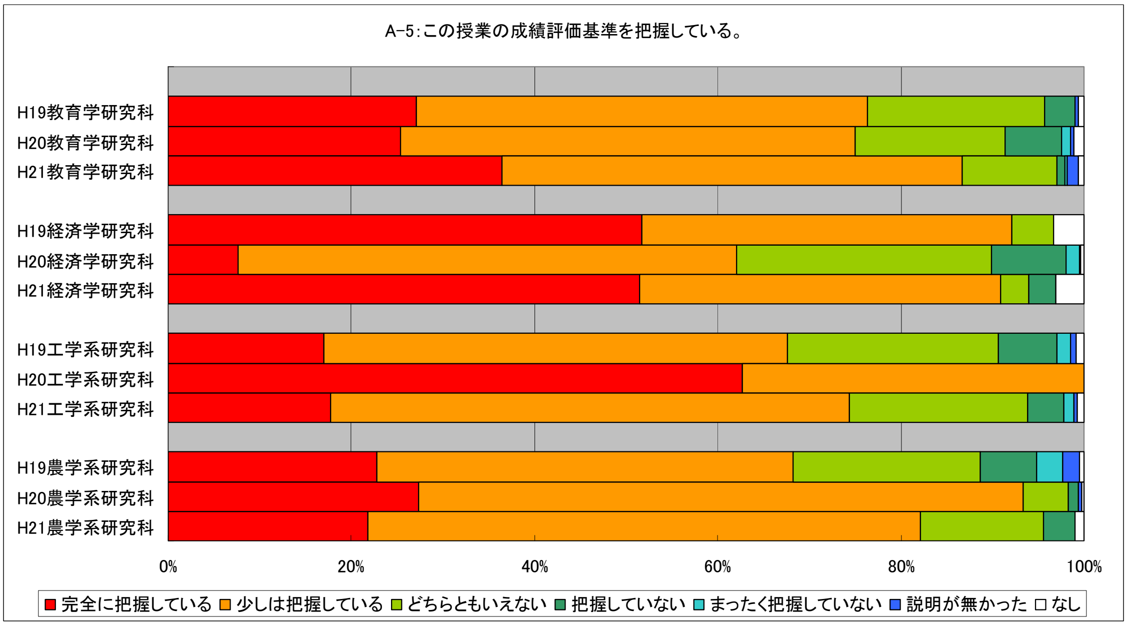
前期



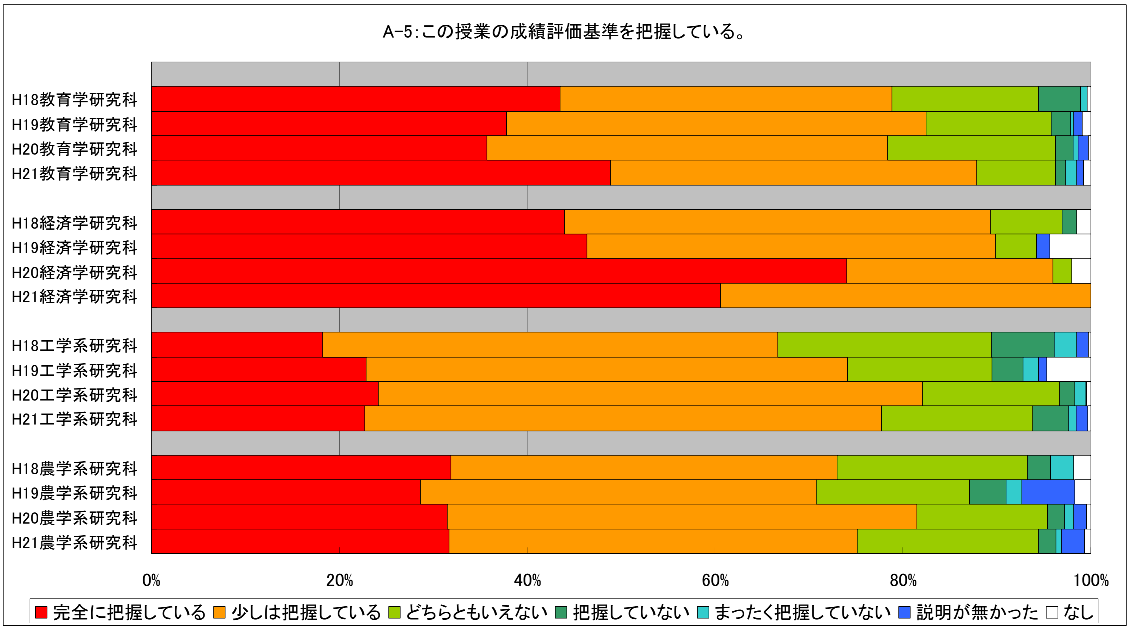
後期

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

回答結果を下図に示した．この項目では，「全く把握していない」，「把握していない」などの否定的な回答の比率は農学研究科，工学系研究科，教育学研究科で大きく，経済学研究科ではその比率が低い特徴が認められる．特に経済学研究科では否定的な回答はほとんど認められない．逆に，「少しは把握している」，「完全に把握している」などの肯定的意見の占める割合は経済学研究科で90%近くに達し，周知が徹底されていることを物語っている．しかし，他の研究科でもその割合が70%を超えており，把握している学生が多いことが分かる．



前期

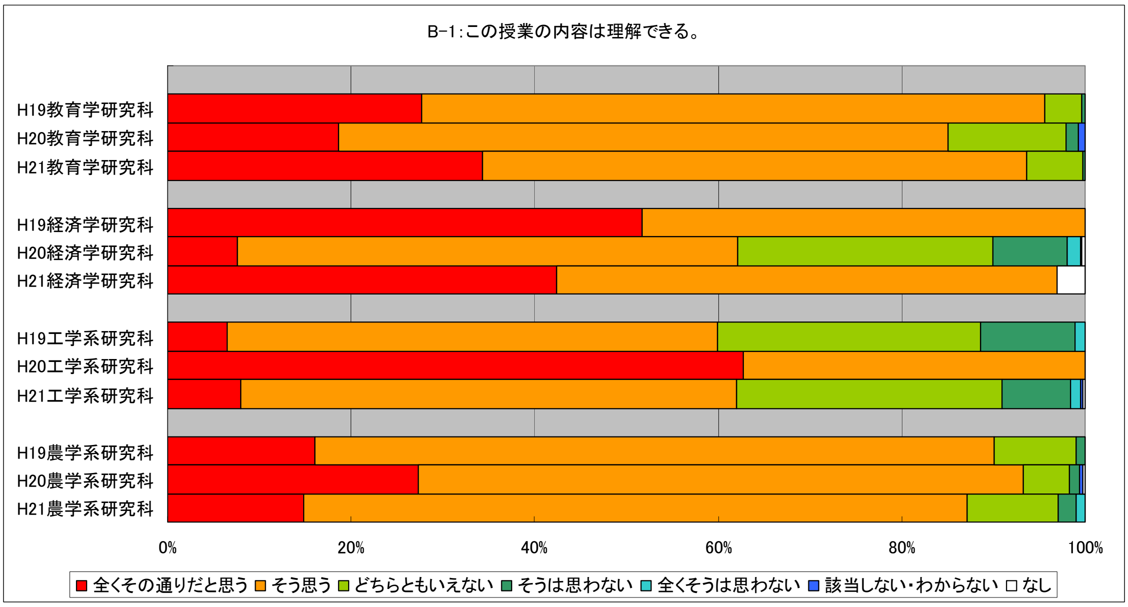


後期

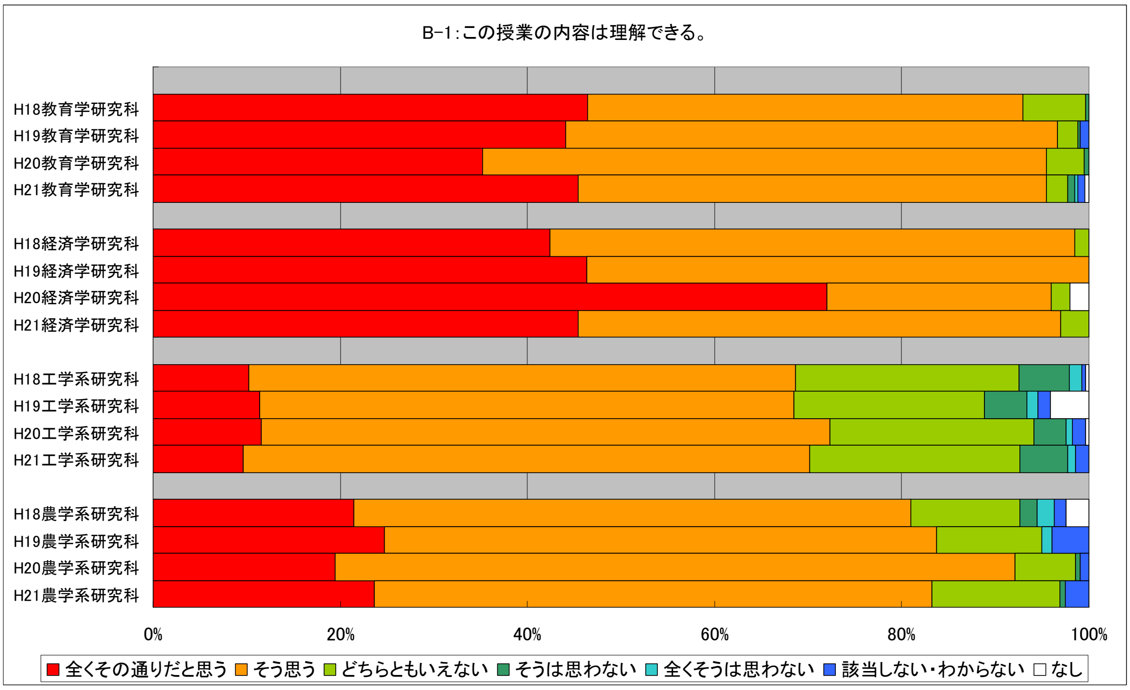
B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

下図に授業の理解度に対する回答結果を示した．経済学部では「そう思う」,「全くそのとおりだと思う」がほぼ100％を占めており，受講者のほとんどが授業内容を理解できると感じていることが明らかとなっている．教育学研究科でも「全くそうは思わない」,「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど認められず,「そう思う」,「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が90％を占めている．一方，農学研究科では否定的意見は少ないが,「そう思う」,「全くその通りだと思う」などの肯定的意見は80ー90%であった．工学系研究科では否定的な意見が5ー10％ほど認められ，肯定的な意見は特に後期において60～70％強にとどまっている．



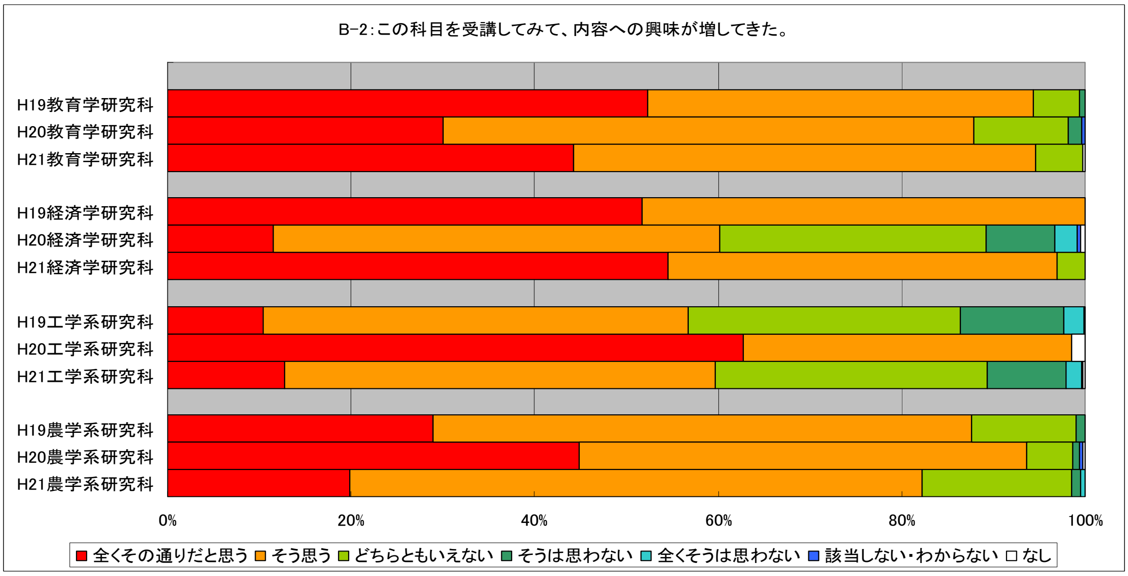
前期



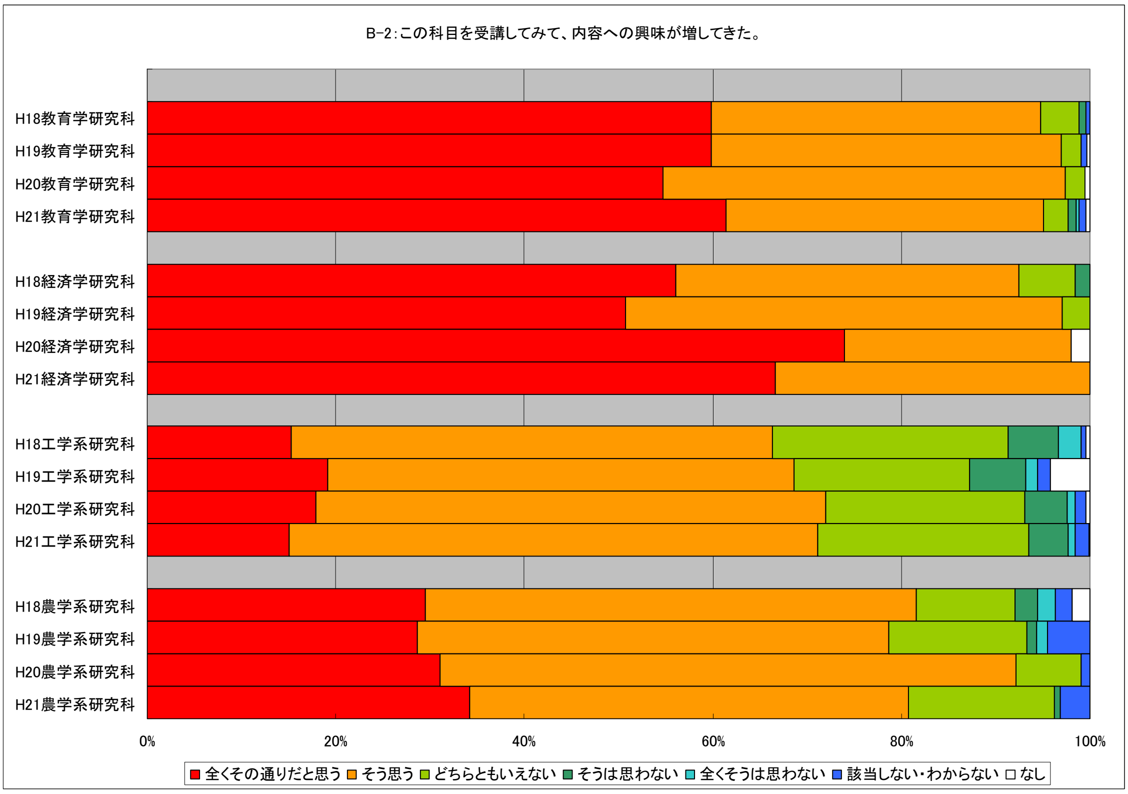
後期

B-2 この科目を受講してみて，内容への興味が増してきた

下図に授業に対する興味の程度を示した．これも理解度と同様の傾向を示している．すなわち，経済学研究科では「全くそうは思わない」,「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど無く,「そう思う」,「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が100%近くに達している．また，工学系研究科では10%の否定的な意見が認められ，肯定的意見は教育学研究科では90%程度，農学研究科では80%程度，工学系研究科では60～70%程度となっている．



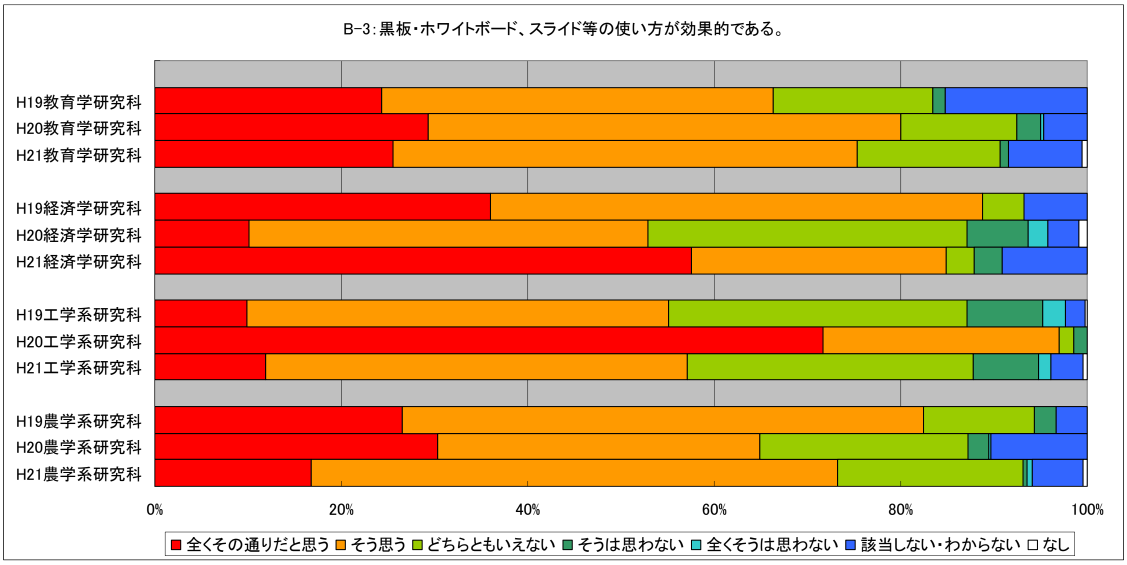
前期



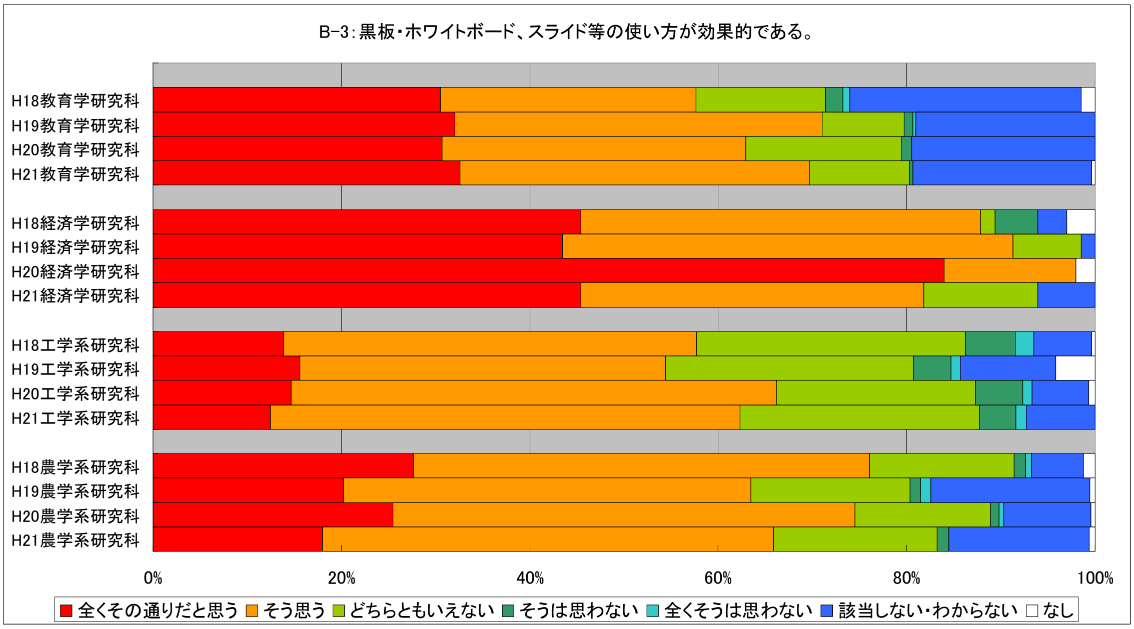
後期

B-3 黒板・ホワイトボード，スライド等の使い方が効果的である

結果を下図に示す．経済学研究科では否定的意見はほどんどなく，肯定的意見が80%を超えている．農学研究科も否定的意見の割合が小さく，肯定的意見の割合が約70%である．教育学研究科では「該当しない・わからない」が10～20%あるが，肯定的意見が約70%もある．工学系研究科では否定的な意見が5～10%，肯定的な意見が55～65%という結果であった．



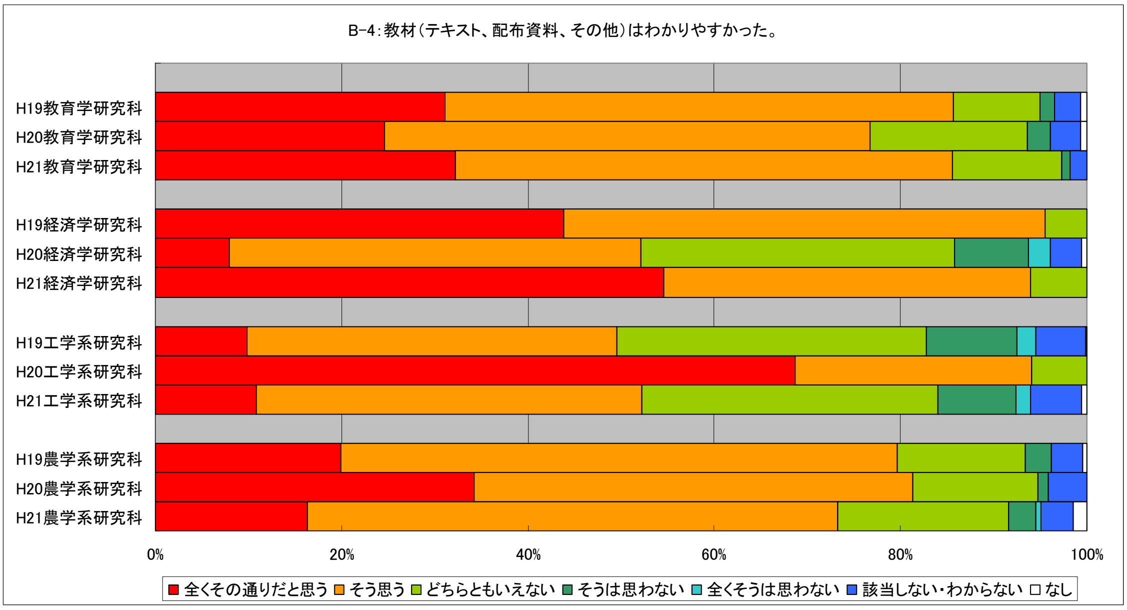
前期



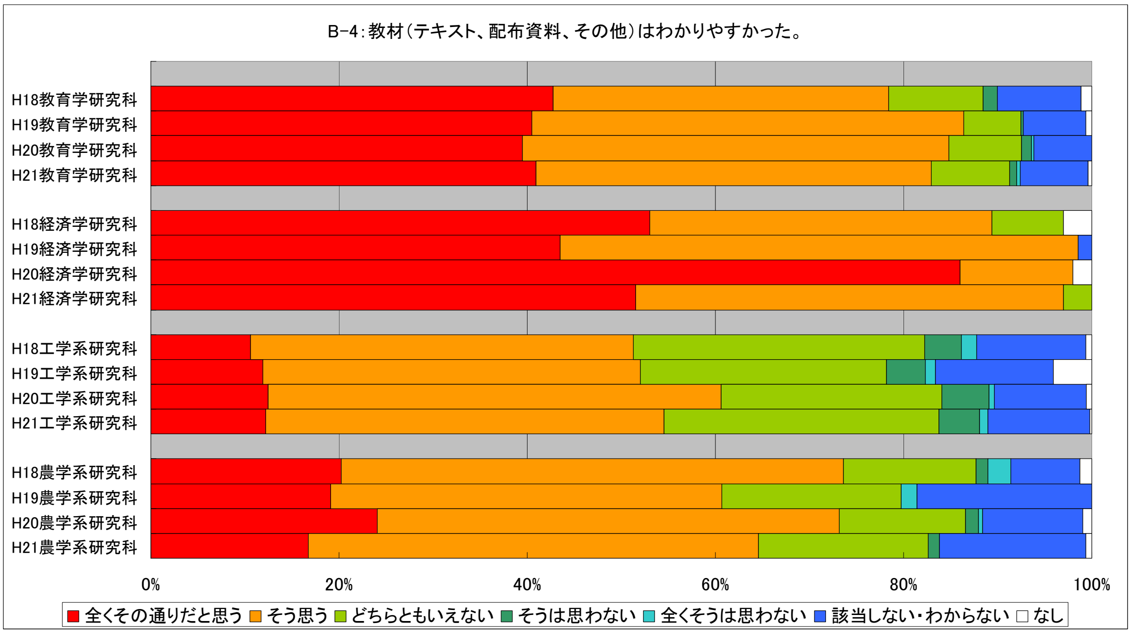
後期

B-4 教材（テキスト，配布資料，その他）はわかりやすかった

結果を下図に示す．この結果も前項の結果と類似している．文系研究科である教育学研究科と経済学研究科では「全くそうは思わない」という回答はほとんどない．一方，理系研究科である工学系研究科と農学研究科は「全くそうは思わない」,「そうは思わない」などの否定的意見が5〜10%程を占めている．「そう思う」,「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で95%を越え，次いで教育学研究科，農学研究科，工学系研究科の順に小さくなっている．特に工学系研究科では50〜60%に留まっている．



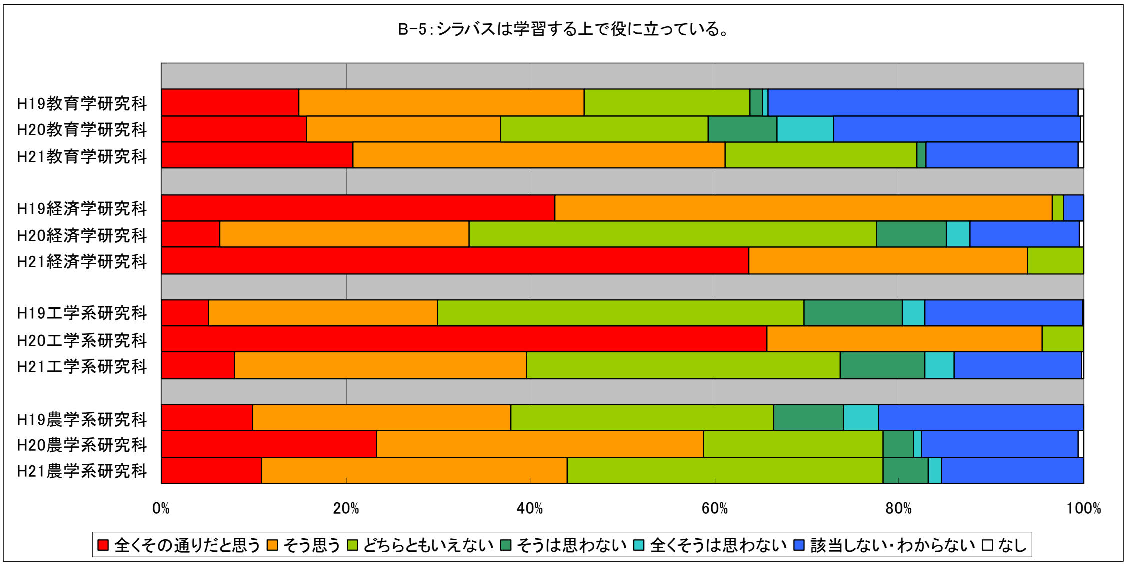
前期



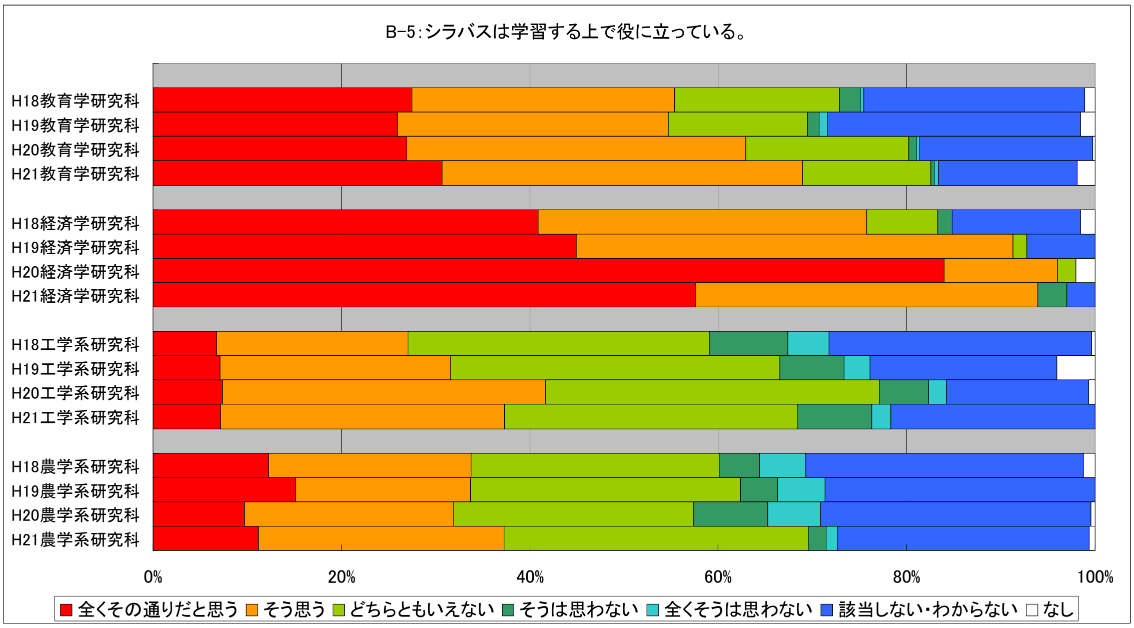
後期

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

回答結果を下図に示す．大学教育においてシラバスが有効に活用されているか否かは大変重要なことであり，科目毎に確認する必要が求められている．結果を見ると「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は経済学研究科ではほとんどなく，後期にわずかに認められるだけである．教育学研究科では5%程度，農学研究科や工学系研究科では10%程度である．また，「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で90%に達し，教育学研究科で60%程度，農学研究科および工学系研究科では35ー45%にとどまっている．



前期

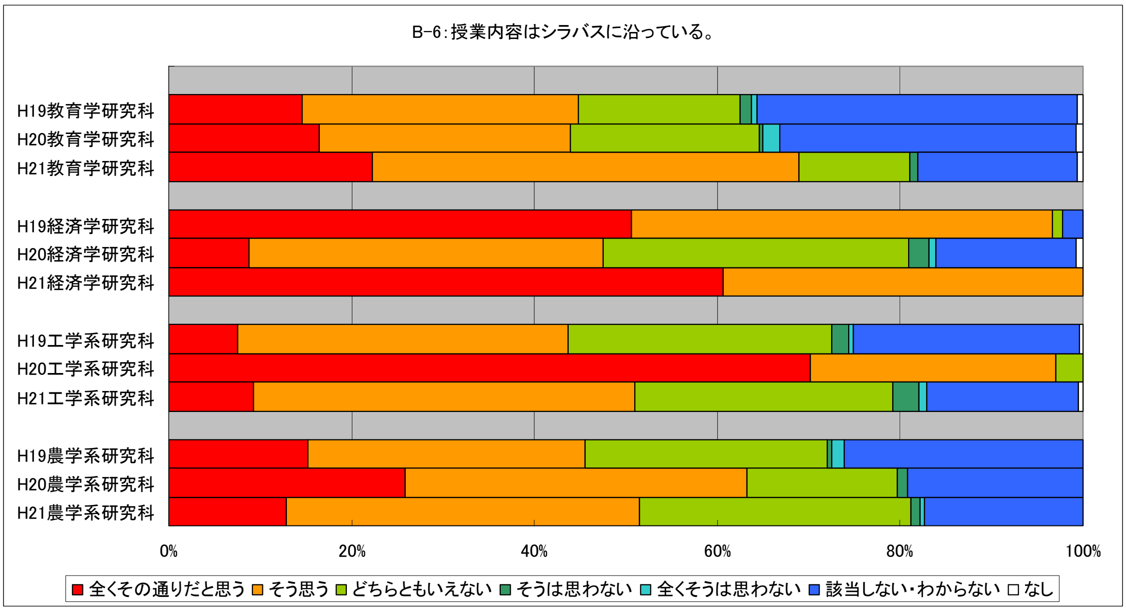


後期

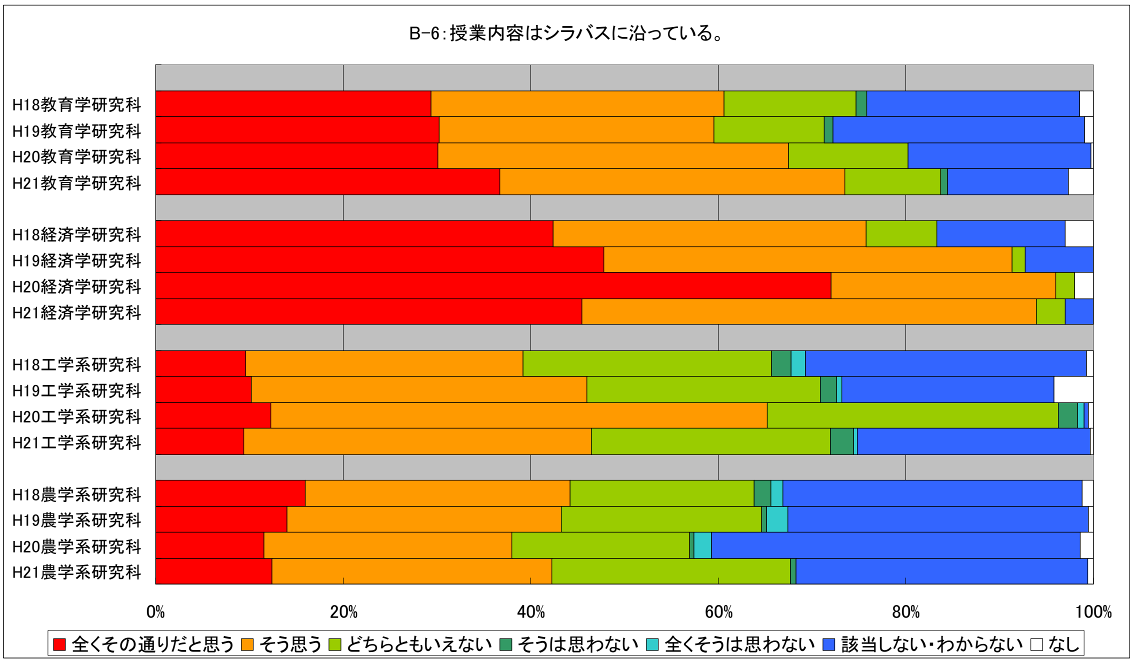
B-6 授業内容はシラバスに沿っている

下図に結果を示す．経済学研究科では「該当しないかわからない」，「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的意見は極わずかであり，「そう思う」．「全くそのとおりだと思う」の回答の比率がほぼ95％に達している．前項の結果と考え合わせると経済学研究科ではシラバスが有効に活用されていることが伺える．教育学研究科では肯定的な意見が60～70％に達している．工学系研究科や農学研究科でも否定的な意見は認められるものの５％程度であり，肯定的な意見が40～50％を占めている．また，前項の結果と共通する特徴であ

るが，経済学研究科以外の研究科では「該当しない・わからない」の回答の比率が15ー30%を占めている．



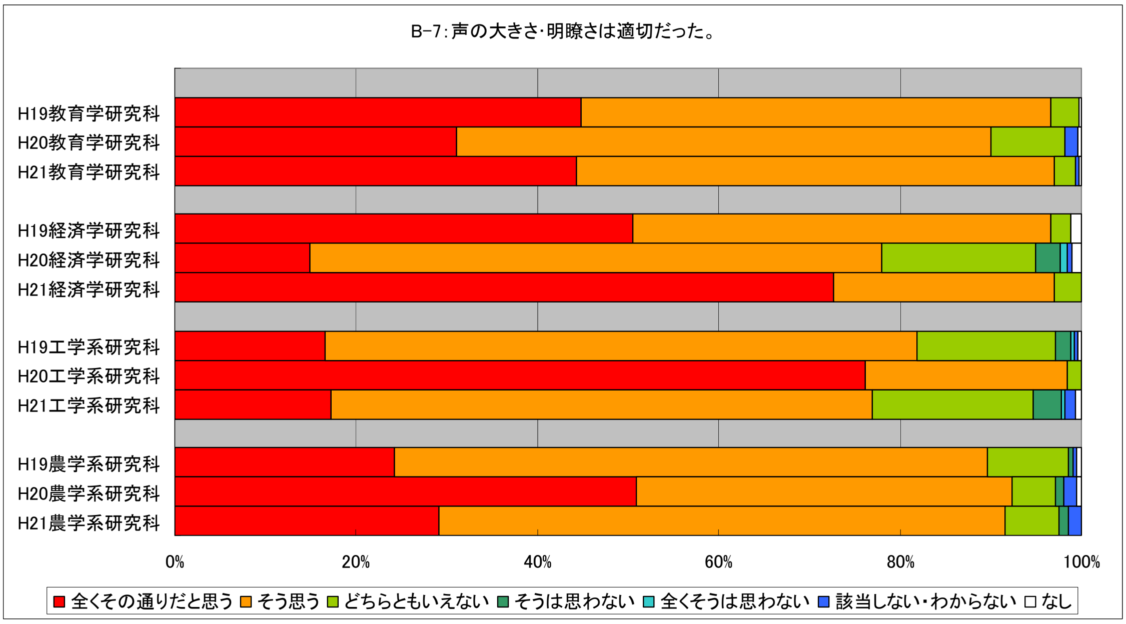
前期



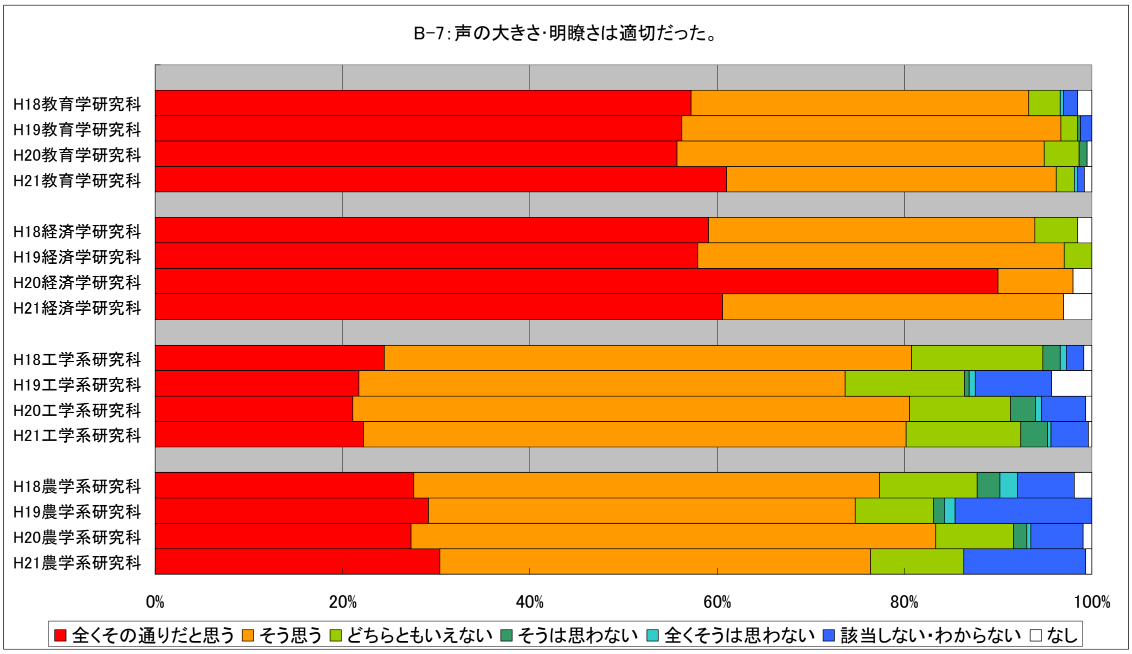
後期

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

下図にアンケート結果を示す．経済学研究科ではほぼ全ての院生が，教育学究科および農学研究科では90%程度の院生が「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見を寄せている．工学系研究科では80%近くの院生が肯定的な回答をしており，全体的に授業における声の大きさや明瞭さは適切であったことが伺い知れる．



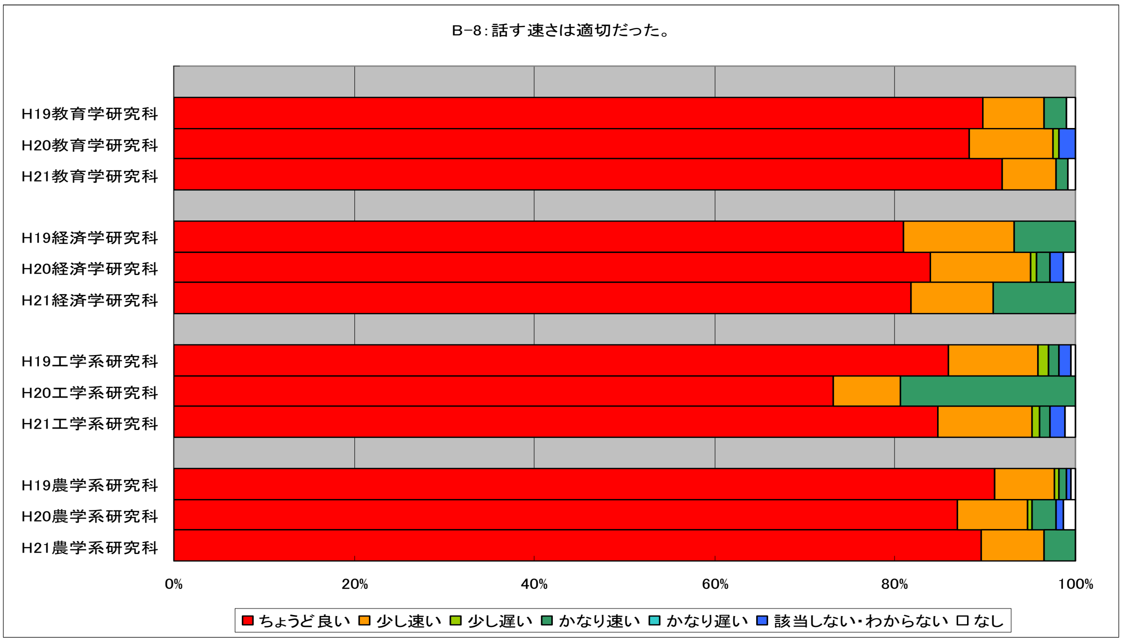
前期



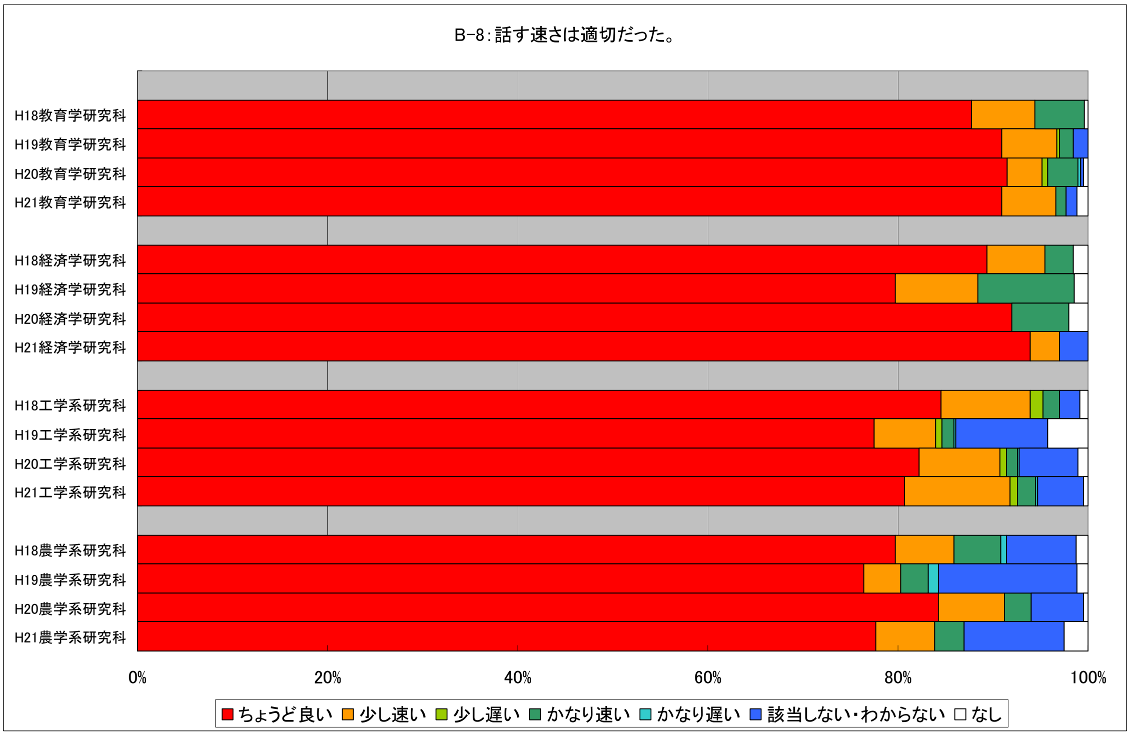
後期

B-8 話す速さは適切だった

結果を下図に示す．経済学研究科は「かなり速い」が占める割合が前期で10%に達しているものの，全研究科において「丁度良い」が占める割合が80～90%に達している．また，「少し速い」意見の比率はどの研究科でも10～15%程度であった．



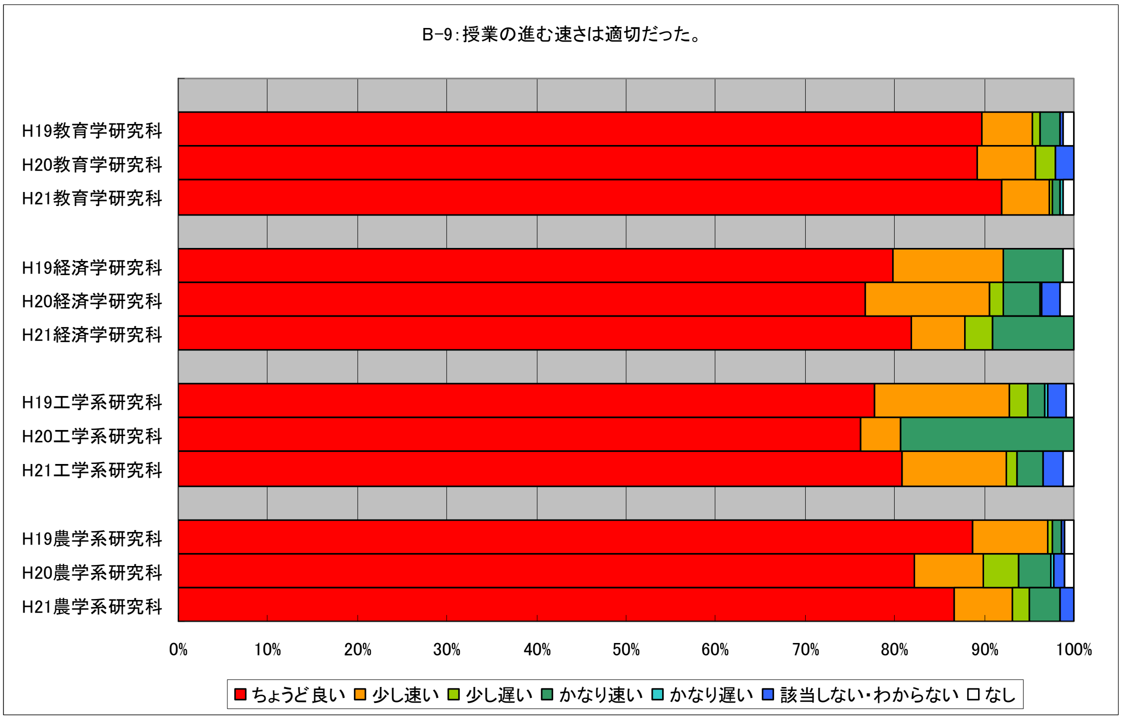
前期



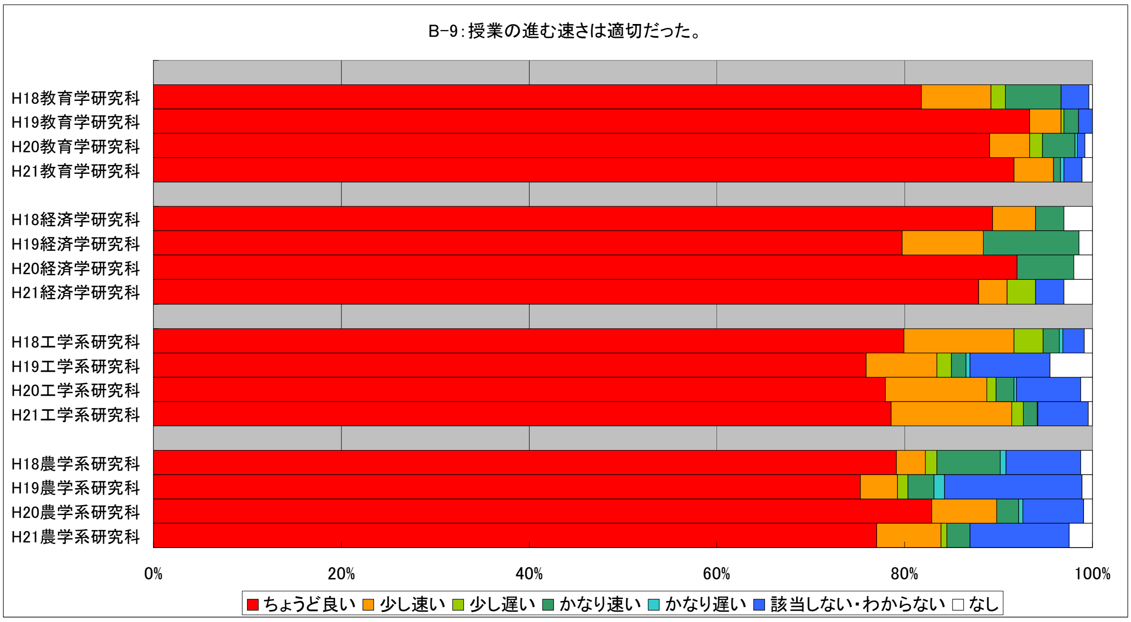
後期

B-9 授業の進む速さは適切だった

結果を下図に示す．傾向は前項とほぼ同じであった．経済学研究科は「かなり速い」が占める割合が前期で10%に達しているが，全研究科において「丁度良い」が占める割合が80〜90%に達している．また，「少し速い」意見の比率はどの研究科でも10〜15%程度であった．



前期

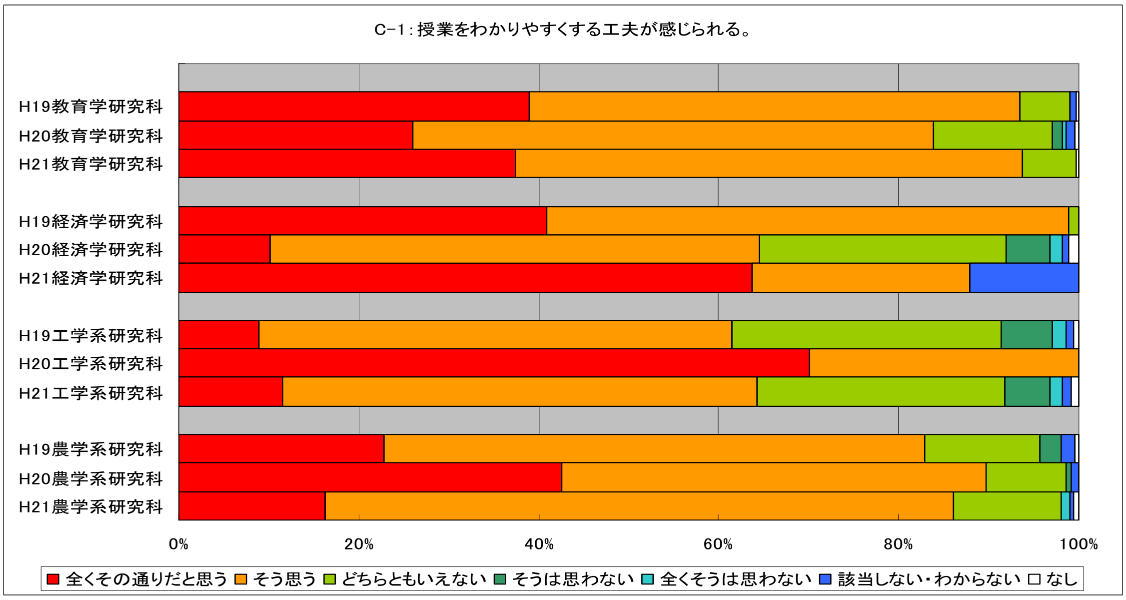


後期

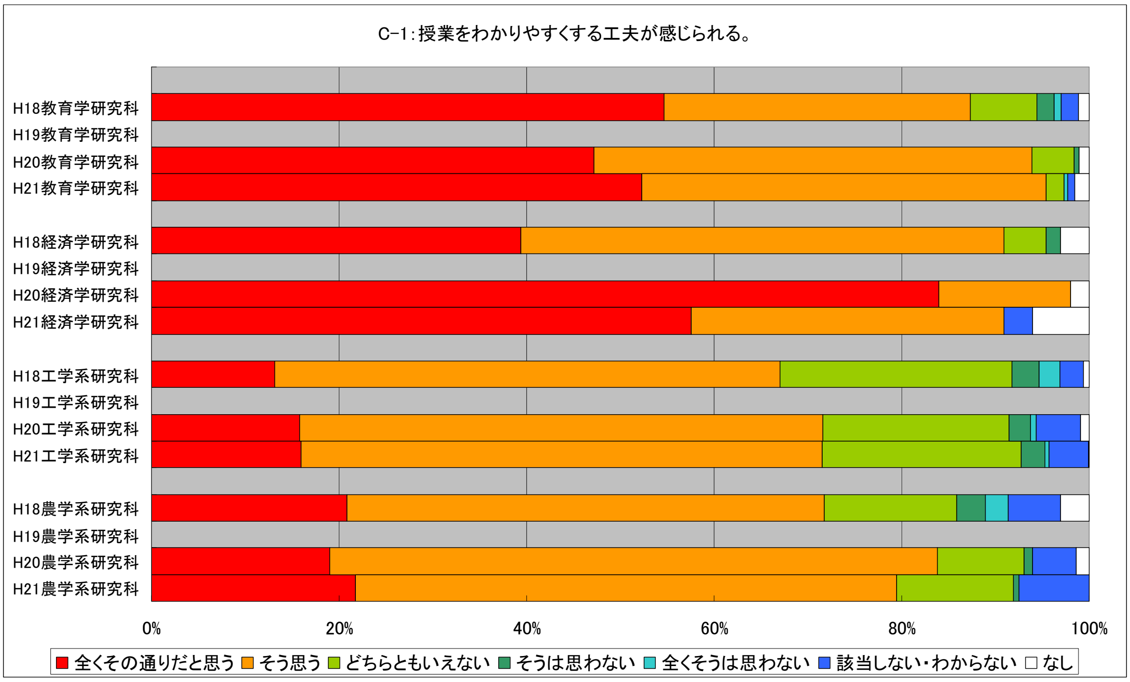
C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

結果を下図に示す．「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は，教育学研究科と経済学研究科では約90%で，農学系研究科では80～85%，工学系研究科で60～70%である．ただし，「全くそのとおりだと思う」の意見に絞ると，経済学研究科では約60%で，教育学研究科では35～50%，農学系研究科では約20%，工学系研究科で10～15%であり，経済学研究科で突出している．工学系研究科では否定的意見が5～10%ほど認められる．



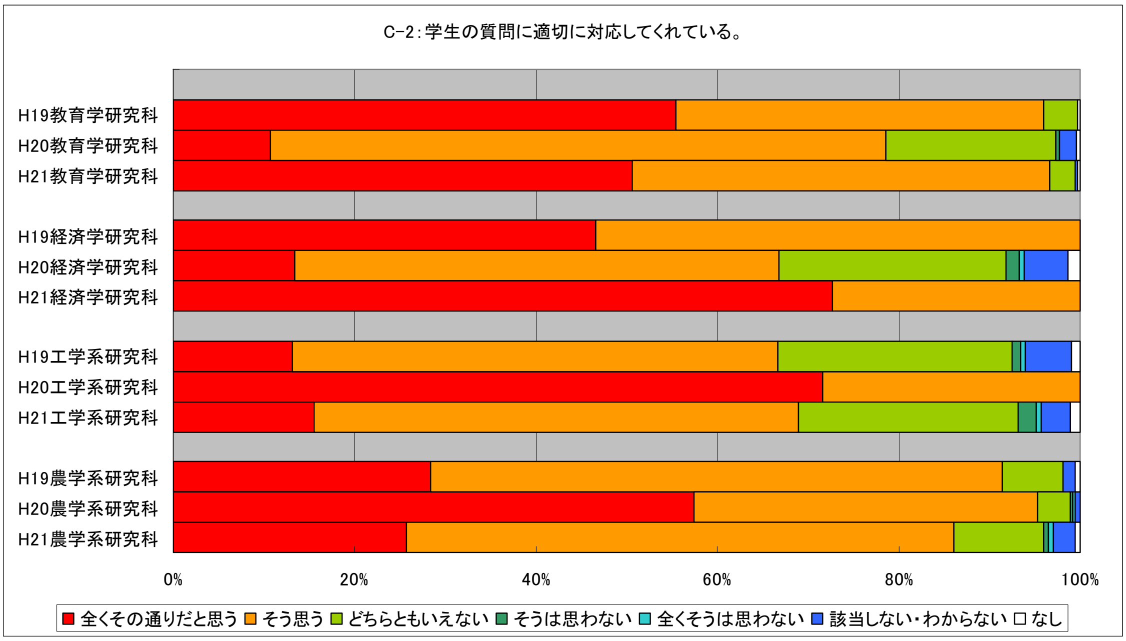
前期



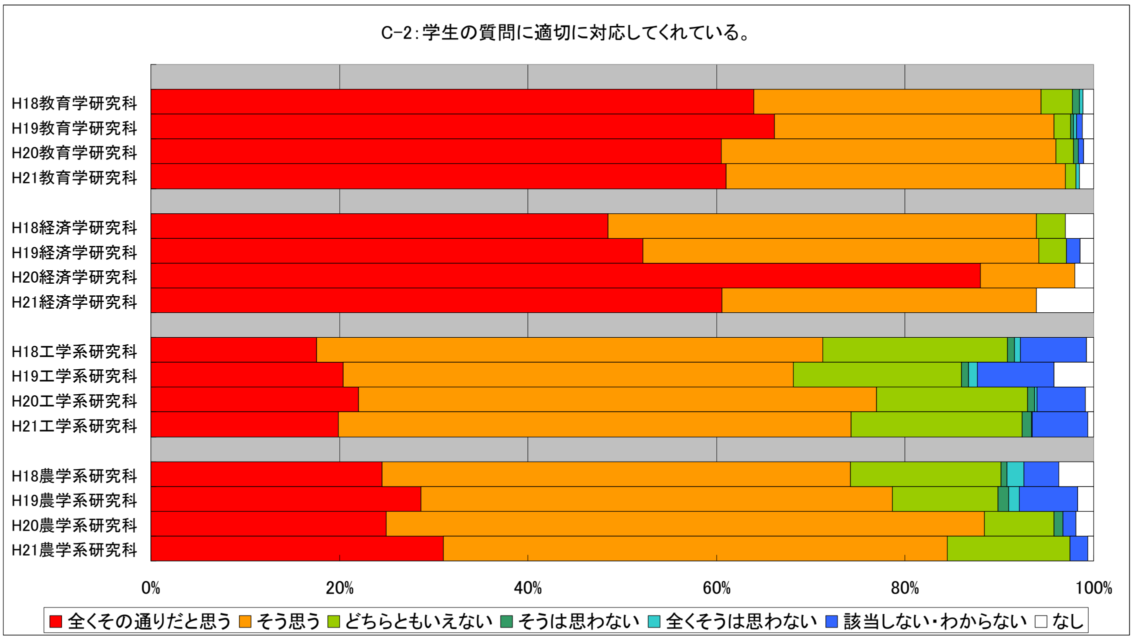
後期

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている

結果を下図に示す．「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は，経済学研究科では前期においてほぼ100%で，教育学研究科では95%，農学系研究科では85%，工学系研究科で70%である．ただし，「全くそのとおりだと思う」の意見に絞ると，経済学研究科では60～70%で，教育学研究科では50～60%，農学系研究科では30%，工学系研究科で15～20%であり，経済学研究科で突出している．



前期



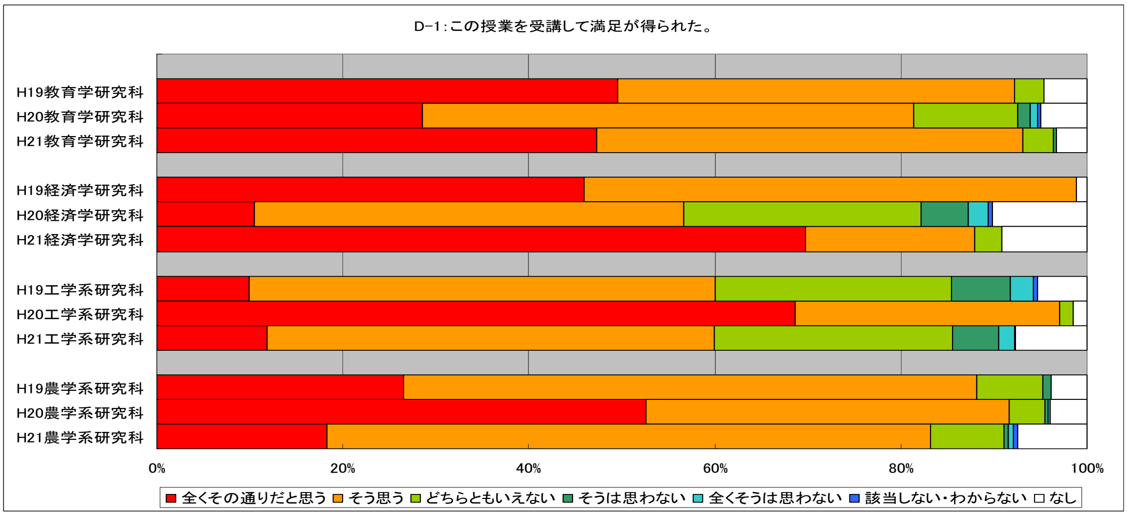
後期

D. 満足度

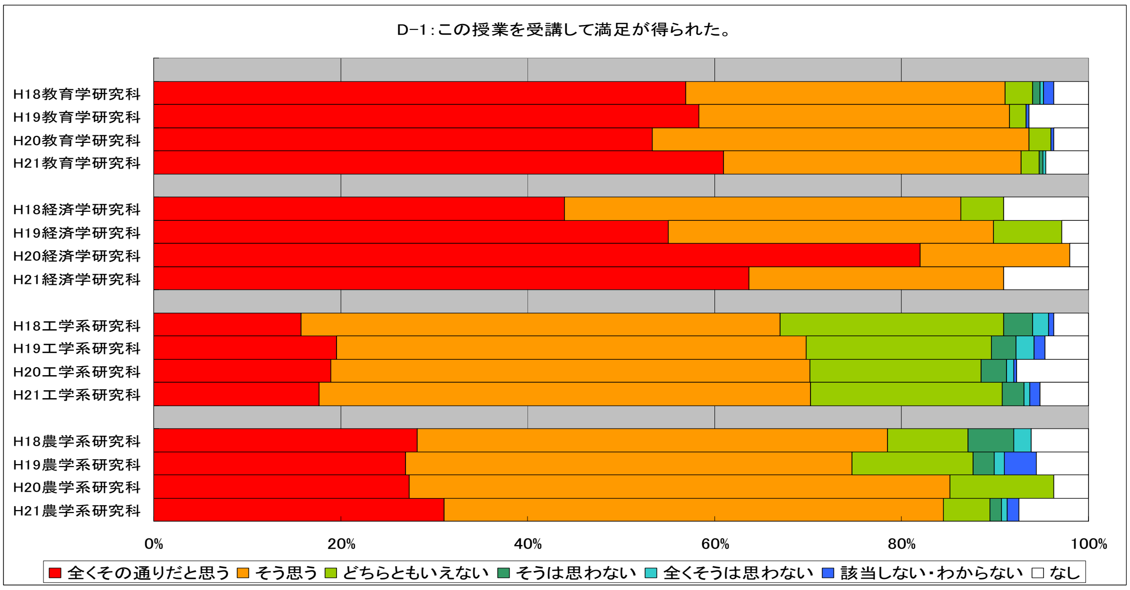
D-1 この授業を受講して満足が得られた

結果を下図に示す．「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は教育学研究科や経済学研究科で約90％である．農学研究科では85%，工学系研究科では60～70％となっている．ただし，「全くそのとおりだと思う」の意見に絞ると，経済学研究科では約70%で，教育学研究科では55～60%，農学系研究科では15～30%，工学系研究科で10～20％であり，経済学研究科で突出している．工学系研究科および農学研究科では「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的意見が5～10％ほど認められる．

なお，満足度については，回答していない比率が高くなる．これは，この質問だけ独立して１問だけ設定されているため，見落とされている可能性がある．Webによるアンケートに移行した場合でもこの点に留意する必要があろう．



前期



後期

Ⅲ-(3)　ネット授業の結果と解析

ネット授業のアンケート内容はネット受講に関する事項と授業関連事項に分けられる．ここでは授業関連事項の回答結果のみ取り上げた．

ネット授業では受講希望者に「事前ガイダンス」を行っている．「ガイダンス」に関するアンケート結果を図4-1に示す．なお，ここでは３つの項目（理解度，予習，マニュアル）について複数回答を認めているため詳細な解析は行えないが，受講生の約90%がガイダンスを理解し，83%が事前勉強していることが分かり，ネット授業への積極的な取り組む姿勢が伺われる．ただし，受講マニュアルについては半数の学生が利用しなかったと回答している．この理由を調査すべきと考える．

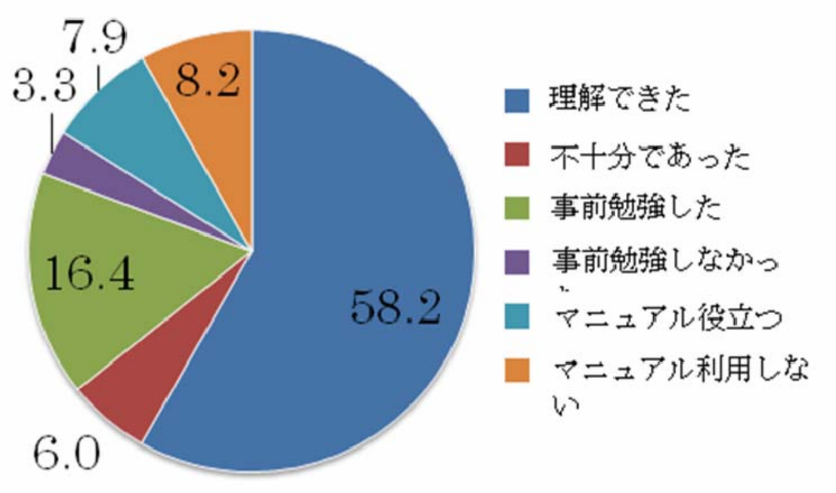


図４－１　ガイダンス

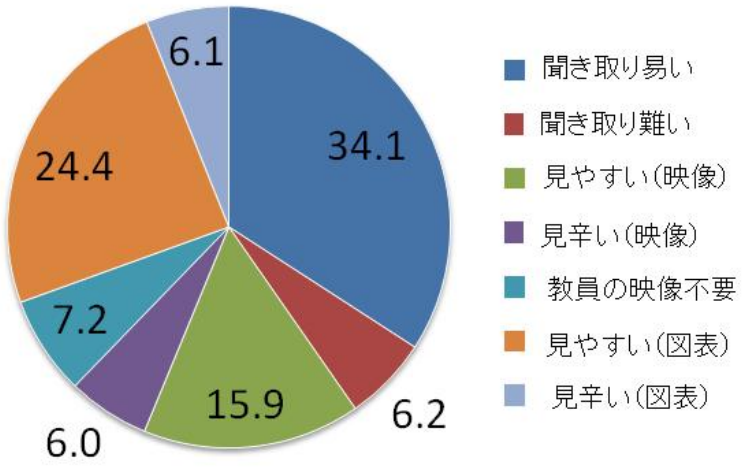


図４－２ 講義コンテンツ

講義コンテンツ」に対するアンケート結果を図4-2に示す．なお，ここでも３つの項目（音声，映像，図表）について複数回答を認めているため詳細な解析は行えないが，受講生の約85%が音声は聞き取り易く，約73%が映像は見易いと回答している．一方，学生との距離感を縮めるために一部のネット授業では全ての画面に教員映像が載せてあるが，これは説明図を小さくするために不要と回答する学生もいた．今後の検討が必要と思われる．図表については約80%の受講生が見易いと回答している．

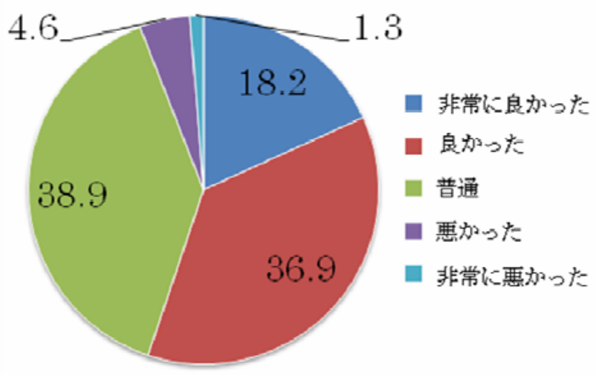


図４－３　対面授業との比較

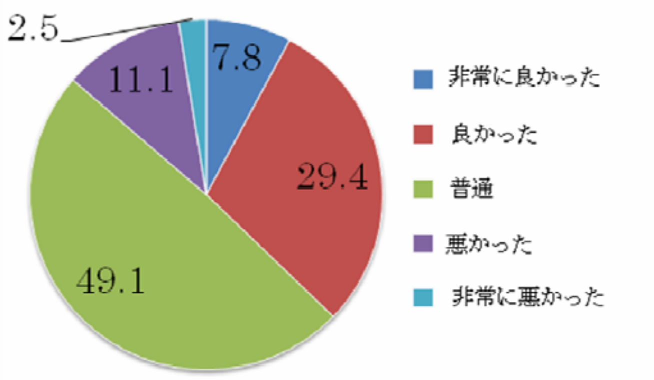


図４－４　難易度

「対面授業との比較」および「難易度」に関する回答をそれぞれ図4-3および図4-4に示す．「対面授業との比較」では「非常に良かった」，「良かった」と回答している者が約55%もあり，約95%の受講生が「普通」以上と回答している．学生にとって映像を通しての講義に対する違和感はほとんど無く，効果的な授業が行われていることがわかる．「難易度」については「非常に良かった」，「良かった」と回答している者が約40%もあり，約90%の受講生が「普通」以上と回答している．ただし，理工系の教科では難しいと回答する学生が多い傾向にあった．

「講義の速さ」および「質問し易さ」に関する回答をそれぞれ図4-5および図4-6に示す．「講義の速さ」については「非常に良かった」，「良かった」と回答している者が約43%もあり，約90%の受講生が「普通」以上と回答している．ネット授業は聴講者自身で“講義の速さ”を調整できるので，スピードが速いと感じる講義は一時停止，複数回の聴講など学生による工夫も必要と考える．「質問し易さ」については「非常に良かった」，「良かった」と回答している者が約20%であり，約80%の受講生が「普通」以上と回答している．他の質問項目と比較すると“良かった”が半減し，約20%の受講生が「悪かった」と回答しており，

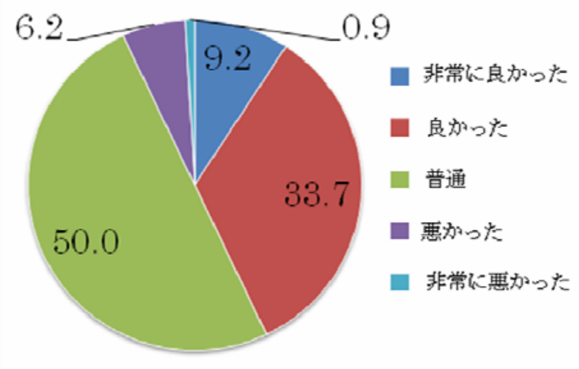


図 4-5 講義の速さ

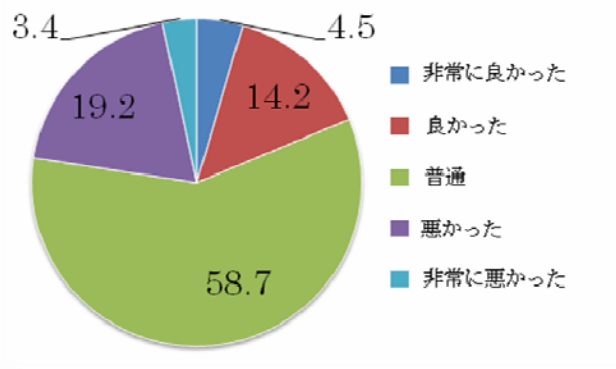


図 4-6　質問し易さ

この数値はネット授業のアンケート項目でも最大となっている．ここに対面授業と異なるネット授業の欠点が表れていると考えられる．ネット授業でも質問欄を設けているが，実際に対面していない教員へは質問し辛いと考えられる．この点の改善が必要と考えられる．

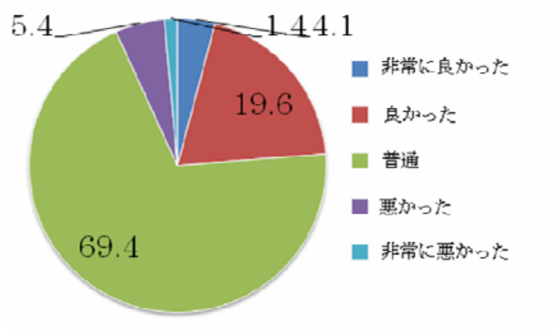


図 4-7 教員によるフォロー

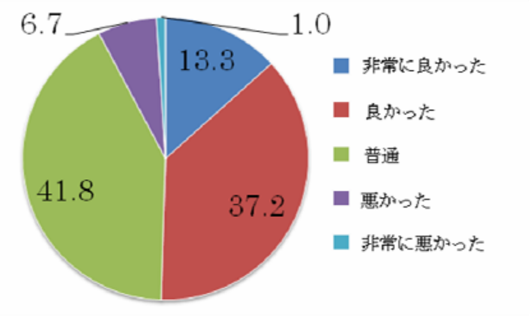


図 4-8　熱心度（集中度）

「教員によるフォロー」および「熱心度（集中度）」についての結果を図4-7および図4-8に示す．「教員によるフォロー」については約90%の受講生が「普通」以上と回答しているが，「非常に良かった」，「良かった」と回答している者が約20%であり，それほど高くなかった．これも「質問し易さ」と同様のことが考えられる．「熱心度（集中度）」については「非常に良かった」，「良かった」と回答している者が約50%もあり，約90%の受講生が「普通」以上と回答している．学生が積極的に受講していることが伺える．

　受講生の「満足度」を図4-9に示す．「良かった」以上と回答した受講生が約62%と高く，「そう思わない」または「全くそう思わない」と回答した受講生が約7%と低い値を示していることより，ネット授業形式で満足度の高い授業が実施されていることがわかる．

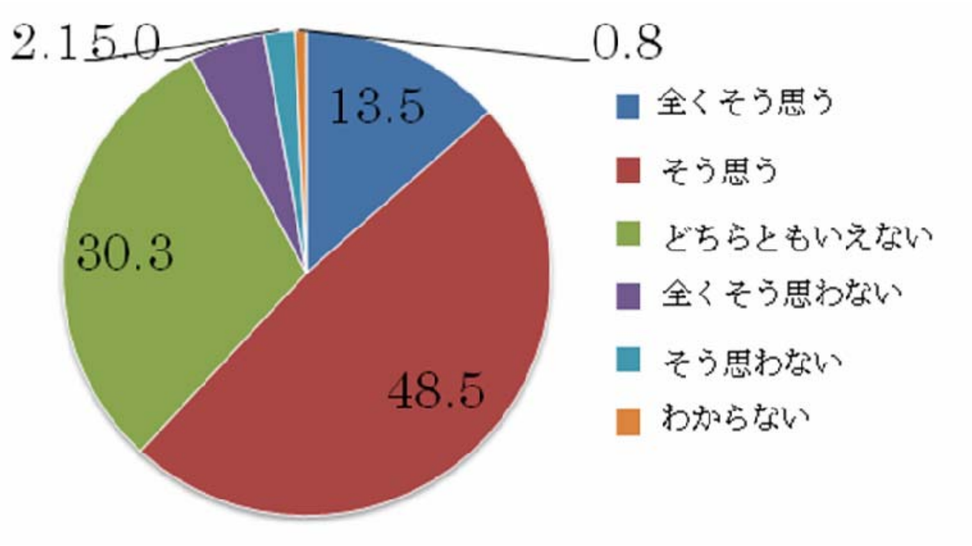

2.1
5.0
0.8
13.5
30.3
48.5
全くそう思う
そう思う
どちらともいえない
全くそう思わない
そう思わない
わからない

図 4-9　　満足度

Ⅲ-（４） 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準

１．文化教育学部

文化教育学部では，学部 FD 委員会にて学生から高い評価を得ている授業科目の選考基準を協議し，満足度及び興味・関心の 2 項目を合計した値を用いることとしている．なお，対象となる科目は受講生が 10 名以上の科目であり，学部，大学院別に抽出することにしている．

２．経済学部

経済学部および経済学研究科では，現在のところ選考基準はない．

３．理工学部および工学系研究科

理工学部

理工学部では，学科の判断により授業評価アンケートの全項目もしくは複数項目，あるいは満足度の評価を用い授業の分析や学生から高い評価を得ている授業科目の選出をおこなっている学科がある．一方，独自アンケートを実施している学科（機能物質化学科）や別の基準で選考している学科（都市工学科）もある．

工学系研究科博士前期課程

工学系研究科博士前期課程では，いくつかの専攻（物理科学専攻，電気電子工学専攻，知能情報システム学専攻，生体機能システム制御工学専攻の一部）では，学部と同様の方法で選考を行っている．学部では授業評価アンケートの結果を分析し，授業改善をおこなっている専攻もある．

工学系研究科博士後期課程

工学系研究科博士後期課程の運営は，現在のところ，大講座単位で行われている．その為，専攻は構成教員が複数の大講座にまたがるため専攻としての取り組みは行っていない．特に，社会システム学大講座においては，経済学部や文教学部所属の教員も参加しているため複雑な組織構成となっている．平成２２年度の改組により，博士後期課程の分野やコースが学部学科や博士前期課程専攻と同じ組織になった．今後，総合的な評価がおこなわれることが期待される．

各学科・専攻の取り組みは下記のとおりである．

数理科学科

数理科学科ＦＤ委員による検討の結果，アンケート項目における満足度が，学生による対象評価科目の状況を最もよく表していると考え，満足度を中心に検討した．大学院開講科目，特別研究，数学講究及び卒業研究，回答数が 14 以下の科目は対象外の取り扱いとした．今回対象とした科目の最低回答数は 14 で

ある．授業改善のため選ばれた 2 名の教員による講習会を 4 月以降の早い時期に行うことや，講習会とは別に，選出された教員が作成する授業に関する工夫などをまとめた資料を数理科学科教員全員へ配布する予定である．

物理科学科

共通アンケートを利用した科目について学科全体で集計を行い，アンケートの全項目において平均点と標準偏差を計算し，各項目で平均点の高い順に３科目ずつと標準偏差，最高スコアと最低スコアの差を表にして全教員に配布する予定である．

またベスト３にリストされた科目の担当教員は他の教員の求めがあれば，授業参観の受入，資料の提供などを通じて授業改善に資する情報を提供することが取り決められている．

知能情報システム学科

共通アンケート実施科目について学科集計を実施し，満足度（Ｄ項目）の上位科目を教室会議にて報告した．

機能物質化学科

例年通り，卒業予定者アンケートを実施した．この中で，在学中印象に残った授業科目の上位３科目を調査した．結果を，教員毎に纏め，上位２名の教員を機能物質化学科ベストプロフェッサーとして表彰した．このうち上位の教員を「学生の評価の高い教員」として，次年度の教員表彰候補者として推薦している．

機械システム工学科

・「佐賀大学理工学部機械システム工学科教育顕彰に関する申し合わせ」（平成 20 年 12 月 3 日改正)を設定している

・前年度に実施された学生による授業評価アンケートの授業内容および授業方法に関する設問において最も高い評価を受けた科目と当該教員を選出する

・選出された科目を，学科会議メンバーが参観をし，アプローズシートに優れている点を記載する．

・顕彰された教員に対し，副賞として教育用図書等購入費が贈呈される．

・顕彰された教員は，学科ホームページに選出過程とともに氏名，顔写真が掲載される．

電気電子工学科

授業評価アンケートのＢ授業内容および授業方法，Ｃ教員の対応，Ｄ満足度および受講者数，合格率を総合的に判断して行った．また，該当科目の教員の講義を，平成２１年度前期に公開する予定である．

都市工学科

学科で授業評価アンケート結果を集計し，学生から高い評価を得ている授業

科目を選考する作業は行っていない．これは，学生による授業評価結果の解釈と選考の要否について学科で合意が得られていないことによるものである．

工学系研究科博士前期課程

機能物質化学専攻

機能物質化学専攻と関連する循環物質工学専攻の授業も履修可能であるため，授業あたりの受講者数が少なく，また学生は関連分野の科目を中心に履修するため，アンケート調査では学生の評価が得られないと考え，学部と同様の調査はおこなっていない．

物理科学専攻

基本的にはアンケートを利用した科目について学科全体で集計を行い，アンケートの全項目において平均点と標準偏差を計算し，各項目で平均点の高い順に３科目ずつと標準偏差，最高スコアと最低スコアの差を表にして全教員に配布する予定である．

機械システム工学専攻

特に行っていない．

電気電子工学専攻

授業評価アンケートのＢ授業内容および授業方法，Ｃ教員の対応，Ｄ満足度を総合的に判断して行った．また，該当科目の教員の講義を，平成２１年度前期に公開する予定である．

知能情報システム専攻

共通アンケート実施科目について学科集計を実施し，満足度（Ｄ項目）の上位科目を教室会議にて報告した．

数理科学専攻

数理科学科ＦＤグループ委員による検討の結果，アンケート項目における満足度が，学生による対象評価科目の状況を最もよく表していると考え，満足度を中心に検討した．大学院開講科目は大学院開講科目は回答数が極端に少なく満足度を含めて評価が高得点に偏重する．一般に回答数が少ないと評価点が高得点になる傾向が顕著に認められる．以上の理由によって，上記結論に達した．対象外の取り扱いとした．

都市工学専攻

専攻で授業評価アンケート結果を集計し，学生から高い評価を得ている授業科目を選考する作業は行っていない．これは，学生による授業評価結果の解釈と選考の要否について学科で合意が得られていないことによる．

循環物質工学専攻

循環物質工学専攻と関連する機能物質化学専攻の授業も履修可能であるため，授業あたりの受講者数が少なく，また学生は関連分野の科目を中心に履修するため，アンケート調査では学生の評価が得られないと考え，学部と同様の調査はおこなっていない．

生体機能システム制御工学専攻

電気系

電気電子工学科と一緒に,授業評価アンケートのＢ授業内容および授業方法，Ｃ教員の対応，Ｄ満足度を総合的に判断して行った．

４．農学部

学生の単なる人気投票に陥らないためには，個別授業評価の授業に対する満足度に偏らず，授業内容への興味が増したか，授業内容の理解度，予習復習の状況等複数の基準を総合して，あるいは複数の選考基準において並列選考する必要もあると考えられる．

また，個々の授業を履修している際に調査した結果と卒業時あるいは卒業後社会に出てから，学生自らが過去を俯瞰しての評価が異なる場合も多い事が示唆されている事から，今後は，卒業時，あるいは卒業生等の意見を積極的に収集することも重要であると考えられる．

更に，大人数に対して行う講義科目より，少人数で行う実験科目等の方が総じて満足度が高い傾向にあるので，これらの点について，講義のあり方のみならずアンケートの実施方法・内容についても配慮する必要がある．

５．教養教育運営機構

現在当機構では，この項目に対する明確な選考基準の確定に至っておらず，機構内の，部会教員会議，企画委員会，教務委員会，FD 委員会，運営委員会，協議会等で，実施可能な選考基準およびその FD 活動への効果的な活用法を検討中である．

なお，表彰教員（第２号）の選出は卒業・修了予定者アンケートを使用して行った．

Ⅳ　授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点

１．文化教育学部および教育学研究科

本年度(平成 21 年度)においても文化教育学部および教育学研究科において，組織別授業評価を実施した．昨年度は講義と演習・その他（実験，実習）に区別し，課程ごとに分析をおこなったが，演習のほうが講義よりも学生の評価が全般的に高いという結果が得られた．この傾向は恐らく変わらないであろうから，本年度は両者を区別しなかった．

優れ点は，FD 委員会として組織的にアンケートの実施に取り組んだことである．とくに前期のアンケート結果を受け，後期に行われた公開授業週間では，更なる授業の改善を目指し多くの教官が授業を参観した．また，大学院のアンケート実施率が例年になくあがったことも本年度の優れた点である．

改善すべき点は，今年度のアンケート実施の数値が昨年度よりもさがったことである．原因は様々考えられるが，一つには数年間のアンケート結果に変動はなく，アンケート実施そのものに疑問を抱いている教員がいると思われることである．しかし，FD 委員会としては，このような疑問を抱かれないよう，さらにアンケートの有用性を全教員に理解してもらい，有効活用してもらうよう努力する必要がある．

２．経済学部および経済学研究科

優れた点として，つぎの 4 点があげられる．第一に，講義・演習を含むすべての科目について科目別授業評価アンケートの対象としている点である．第二に，全教員を対象とした FD 研修を実施し，それぞれ自身の体験を紹介しながら，情報交換と改善を図っている点である．第三に，科目別授業評価アンケートとは別に教員が独自に学生の意見聴取を行っている例がある点である．最後に，科目別授業評価アンケートの結果を集計し，学部全体としての傾向を捉え，組織的な改善への取り組みを始めている点である．

つぎに，改善を要する点として，つぎの 2 点があげられる．第一に，科目別授業評価アンケートの結果を改善に結びつけるためのシステムが確立していない点である．第二に，演習についても原則として共通の科目別授業評価アンケート書式を利用しており，演習独自の授業改善のために有益な授業評価ができていない点である．

３．理工学部および工学系研究科

優れた点：

理工学部

授業評価アンケートの集計とその利用に積極的な取り組みを実施している．これらの活動に学科内の教育関連委員会が活発に機能している様子が全学科で伺える．さらに，アンケート等の分析から，授業改善に着手している（知能情報システム学科，機能物質化学科，機械システム工学科，電気電子工学科等）．活発な教員個々の取り組みと，それら活動結果の共有化も軌道に乗っている（知

能情報システム学科，都市工学科).

JABEE 関連学科においては，社会の要請を教育プログラムに反映させるため，卒業生や企業など学外関係者対象の独自アンケートを実施している.

工学系研究科

工学系研究科でも授業評価アンケートの実施と点検，改善への取り組みがほとんどの専攻で行われている．昨年度，特別コース用に英文の共通アンケート様式も整備され，特別コース科目でのアンケートの実施状況が改善されつつある.

理工学部と同様に，全ての授業において，授業評価アンケートの分析を行っている専攻（物理科学専攻）や，アンケートの分析からカリキュラムを改訂している専攻もある（知能情報システム学専攻，都市工学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻等).

改善すべき点：

理工学部

授業改善の取り組みは概ね良好であるが，小人数教育，複数教員担当科目など，共通アンケートを利用するのが適切でない科目の意見聴取がまだ完全でない．意見聴取の方法を含めて検討が必要である.

工学系研究科

大学院課程では受講生の少ない科目が多く，共通アンケート形式に依らない大学院独自の意見聴取方法と内容を検討する必要がある.

博士後期課程の授業はLiveCampusで管理されていないため，アンケート用紙の配布を含めた実施状況や授業評価分析・評価報告書の作成が徹底していない．来年度後期から運用される新しい教務システムの効果を期待したい.

各学科，専攻の取り組みは以下のとおりである.

理工学部

数理科学科

線形代数および微積分などに関わる基礎学力の向上が見られるのが優れた点であり，更なる数学の諸分野（代数学・解析学・幾何学・応用数学）に関わる学力の増進を図るのが改善を要する点である.

物理科学科

授業評価アンケートの集計とその利用に全学科で独自の取り組みを実施している．具体的には，学科内での共通アンケート全科目を集計し，各教員に配布した

知能情報システム学科

以下のような改善をおこなった．

・「卒業研究」評価の客観性を高めるために，卒業研究評価方法を定め，主査 1 名および副査 2 名で評価することにした．この卒業研究評価方法は学生にも公開されている．

・平成 19 年度におこなった企業アンケートの結果に基づき，1 年～3 年次にもプレゼンテーション能力が身に付けられるよう，いくつかの科目で学生にプレゼンテーションを義務づけた．

・学科 BBS を新設し，学生からの要望や学生情報，講義情報を共有し，オンライン会議も可能になるようにした．

・開講前点検・閉講後点検・FD 報告を継続的に行なっており，上記学科 BBS を通じて，これらの情報をいつでも教員が参照できるようにした．

・教員間でシラバスの記入項目に差がないよう学科共通のシラバステンプレートを定めた．

・卒業式当日，卒業生に対して学習内容に関するアンケートを実施した．

改善を要する点：本年度定めた卒業研究評価方法やシラバステンプレートなどについては，教員によって若干その解釈に差が生じてしまったことがあげられる．

機能物質化学科

学科教員全員が所属する分野別教員会議と，それらを取りまとめる教育プログラム委員会，そして教育活動の点検を行う教育 FD 委員会が機能的に活動している．教育システム上の問題点が学科全体で議論され，改善されるシステムが軌道に乗っている．

教育 FD 委員会にて平成２０年度開講科目の合格者数，平均点，成績分布の分析をおこなった．概ね良好の評価であったが，いくつかの科目では極端に合格率が低い，もしくは放棄した学生が多い結果となった．委員会は学科に改善を要求し，教育プログラム委員会で検討の結果，平成２１年度開講の担当者を変更するなど見直しが行われた．

実験科目や卒業研究の授業評価には共通形式のアンケートを用いることは適当でない．そこで平成 19 年度から実験・実習用の独自形式のアンケートを作成し，実施している．また，JABBE プログラムである機能材料化学コースの修了生に対しては，プログラム全体についてアンケートを実施している．この中で，学科の教育改善システムである PDCA サイクルを紹介し，これについての意見も聴取している．

機械システム工学科

優れている点：改善勧告の基準を明確にし，組織的な改善がなされていること

・FD 委員と協議し，当該セメスターの専門教育科目に対する学生による授業評価アンケートにおいて次の 2 項目において平均が 1 点台と評価された教員を選ぶ．

・声の大きさ・明瞭さは適切だった（1,2,3,4,5 の　5 段階評価）
・話す速さは適切だった(1,2,3,4,5 の　5 段階評価)
・学科長は勧告記録を保管する.
・勧告記録は，JABEE 実地審査における開示資料とする.

改善を要する点: 満足度については，当然のことであるが，実験や実習および卒業研究の評価が総じて高くなっている.　すなわち，学生自らが積極的に参加できるような形態でありかつ，学生個々に対して先生または TA が直接指導できるような形態の科目が，学生の知識修得にとって大切であるということを示している.　そこで，学生自らが参画し問題を自ら解決するようなカリキュラムを構成することが重要と考える.

電気電子工学科

電気電子工学科では平成 19 年度より教員間のピア授業参観を行い，授業参観レポートで教員の目からみた授業改善点の洗い出しを行っている. 平成２１年度は前期，後期に専門科目および情報処理科目のすべてにつきピア参観を行い，その結果のまとめの報告書を教員に配布し，授業改善の参考としてもらった. また，学科内に教育改善委員会を設置し，留年問題，定員過剰の問題，学期毎の成績評価の確定，学習内容指導など教育改善に関する議論を行ってきた.

都市工学科

授業担当教員が個々に様々な工夫して改善を行っている. 組織的な対応としては学科・専攻内に設けた教育システム委員会で意見交換を行い情報の共有化を図り改善活動の一助としている.
改善を要する点として，“予習，復習の実施状況が良くない”，“要点が押さえられていない”，“授業内容への興味/関心が低い”と言った事柄が共通した改善を要する点である. これに対して，“予習のために講義資料をホームページで公開する”，“毎回の授業に，当日の講義内容の理解を進めるためのレポートあるいは演習問題を実施する”，“講義の始めに授業の要点や狙いを述べる”等の改善が行われた. また，一部の授業においては e-Learning の導入も試みた.
一方, 平成 18 年度より都市工学科のカリキュラムをこれまでの土木工学主体の教育体系から，建築・都市デザイン系のコースを新たに導入し，学生による授業評価をカリキュラムの改善にどのように生かしていくのか，今後教務・ＦＤ委員会を中心に検証していく予定である.

工学系研究科博士前期課程

機能物質化学専攻

平成２０年度からカリキュラムに専門基礎科目群が導入された. これらの授業に対する授業評価アンケート分析から改善すべき点が指摘された. これらの事項に関し，機能物質化学専攻の分野別教員会議にて，専門の近い教員グループによる授業の改善を行った. この結果，平成２１年度の授業評価アンケートの結果は，概ね良好との評価が得られた.

物理科学専攻
　授業評価アンケートの集計とその利用に全学科で独自の取り組みを実施している．具体的には，学科内での共通アンケート全科目を集計し，各教員に配布した．

機械システム工学専攻
　優れている点：機械工学の基礎を担う科目を必修とし，より高度な専門科目への導入教育を明確にしていること．
　改善を要する点：導入教育に対する学生の評価がさほど高くない．

電気電子工学専攻
　学生の自己学習能力，デザイン能力，研究推進能力の向上のため，平成 21 年度より新たに５つの必修科目を開講するカリキュラム改善を行った．また，学部と同様に学科内に教育改善委員会を設置し，教育改善に関する議論を行ってきたが，今年度はあまり大きな変更は行っていない．

知能情報システム専攻
　カリキュラムを再構成し，必修科目を設定して基礎的な学力を強化するようにした．改善を要する点としては，初年度であったため手探り的に実施した内容の改善があげられる．

数理科学専攻
必修３科目の特論㈵（代数学・解析学・幾何学）の設定により，修士１年生の基礎学力に増進が見られるのが優れた点であるが，その分セミナー指導を受けるために準備する時間を多く取れないのが改善を要する点である．

都市工学専攻
授業担当教員が個々に様々な工夫して改善を行っている．組織的な対応としては学科・専攻内に設けた教育システム委員会で意見交換を行い情報の共有化を図り改善活動の一助としている．
改善を要する点として，“分かり易さの工夫が足りない”，“ノート記載量が説明のフォローが出来ない”，“採用した教材選びに対する不満”と言った意見が学生から寄せられている．理解度が低いことが共通した改善を要する点である．英語教材の採用やゼミ形式によるディスカッションの導入が背景にあると考えられる．これに対して，“ノート取得に配慮した要点説明”，“英文テキストの音読導入”，“実務トピックスの紹介”等の改善が行われた．合格率の若干の向上や満足度の向上が見られた科目もある．

循環物質工学専攻
　平成２０年度からカリキュラムに専門基礎科目群が導入された．これらの授業に対する授業評価アンケート分析から改善すべき点が指摘された．これらの事項に関し，機能物質化学専攻の分野別教員会議にて，専門の近い教員グルー

プによる授業の改善を行った．この結果，平成２１年度の授業評価アンケートの結果は，概ね良好との評価が得られた．

生体機能システム制御工学専攻
機械系
　優れている点：機械工学の基礎を担う科目を選択必修とし，より高度な専門科目への導入教育を明確にしていること．
　改善を要する点：導入教育に対する学生の評価がさほど高くない
電気系
電気電子工学専攻と同様に，学生の自己学習能力，デザイン能力，研究推進能力の向上のため，平成 21 年度より新たに５つの必修科目を開講するカリキュラム改善を行った．電気電子工学専攻と一緒に教育改善委員会を設置し，教育改善に関する議論を行ってきた．

工学系研究科博士後期課程
システム生産科学専攻
複数の大講座にまたがるため事例の集約は行っていない．

生体機能システム制御工学専攻
　改善を要する点:多くの学生が後期博士課程に進学し，研究や工学的な問題解決に没頭できるような道を確立すべきであろう．　そのためにも授業やカリキュラムを改善するというよりは，後期博士課程在籍者に対する金銭的支援および後期博士課程修了者のスムーズな就職を支援するシステムの整備が大切と考える．

４．農学部および農学研究科
（農学部）
優れた点：
多くの科目についての調査結果から，授業に対する満足度と授業内容への興味,学生に対する対応等に相当の科目において満足を示す結果が得られており，農学部で行なわれている授業は，「学生の視点」から見て概ね良好であると考えられる．
改善を要する点：
授業に対する満足度，内容への興味，及び学生に対する対応などについては，正の相関が認められる一方，満足度と予習・復習の時間，授業内容の理解度，シラバスの活用状況等の間の相関は小さいことがデータからも示された．すなわち，アンケート結果の，満足度・興味のみを基に授業の最適化を行う事は，授業その物の陳腐化を招く事にもなりかねない．したがって，現行の授業評価アンケートの結果に基づいて，安易に授業内容および到達度を低く修正するといった対応を行うことは，学部全体のカリキュラムの崩壊を引き起こしかねないことから，慎重に対処すべきであり，予習・復習の時間の確保等，講義内容

の理解度を設定した目標まで高めるための具体的な方策について早急に改善を行う必要がある.

（農学研究科）

優れた点：

農学研究科では少人数による授業科目が多いことから，満足度・理解度・興味・学生に対する対応ともに学部における授業科目より高い傾向にある.

改善を要する点：外国人留学生向けの科目が多いことから，共通アンケート様式についても早急に留学生向けの英語版のフォーマットを作成する必要がある.

５．教養教育運営機構

優れた点：

特になし

改善すべき点：

授業改善に対する取り組みとして，FD講演会の開催，授業評価アンケートの実施，TA実施報告書の作成，および授業点検・評価報告書のオンライン入力を行ったが，実施の過程で次の改善が必要となった.

授業評価実施方法の多様化

主題科目の中には，eラーニング形式の授業や，主題分野を横断した総合型講 義が開講されているが，VOD (Video On-Demand)形式のeラーニング授業の場合，OCR用紙形式の授業評価アンケートは困難である．これらの授業形態にマッチした授業評価方法の整備が急務である.

授業評価・改善報告書の入力緩和複数教員によるオムニバス形式の場合，担当する全教員が名簿閲覧や改善報告を入力できるようにすれば，利便性，提出率向上両面で効果があると考えられる．成績に関しては，代表者入力はやむを得ないと考える.

Ｖ　次年度の授業改善目標

１．文化教育学部および教育学研究科

授業評価アンケートの実施率と回収率をあげるとともに，現行の複雑な集計方法にも改善の余地があると思われる．評価の公正さや学生・教員双方でのアンケートにまつわる負担軽減が望まれる．この点で次年度後期より行われる Web からのアンケート集計に期待がもたれる．

文化教育学部全体を見渡したとき，非常勤講師の授業と通年の授業でアンケートの実施率が低いことがわかっている．この点の改善が目標である．また，アンケートの結果を個人に渡すだけでよいのか，さらに別の有効活用がないのか，などを検討をすることが今後の課題である．

教育学研究科では例年のことであるが，小人数教育における学生の授業評価の方法が問題でとされる．アンケートをとらなくても，学生の意向は理解しているという見地から，アンケート実施に疑問を抱く教員が存在する．この点での有効な対策も検討しなければならない．

２．経済学部および経済学研究科

科目別授業評価アンケートの結果にもとづき，FD 研究会を行うなど，組織的な改善の取り組みをさらに進める．演習については，共通アンケート以外の授業評価の書式・方法を取ることができるか，検討する．その際，評価の公正さおよび学生の負担の軽減等に配慮する．研究科での講義は少人数で実施されることが多く，学部の演習と共通する特徴を持っているので，共通のアンケート以外の授業評価の書式・方法を検討する．

３．理工学部および工学系研究科

理工学部

授業評価アンケートの実施が徹底され，全ての学科でアンケート結果を独自に分析し，授業改善や評価の高い授業科目の情報を利用する試みがおこなわれている．アンケート結果からカリキュラム改訂や学科レベルでの教育方法の改善に取り組んでいる状況である．今後はこれらの改善の点検・評価に取り組んでいく必要があろう．

工学系研究科

特別研究や特別コース科目などの小人数教育における学生の授業評価の方法を議論し，アンケート実施を徹底する．平成２２年度に実施されたカリキュラム改訂や教育課程の再編に関する教育効果の検証が必要である．

各学科・専攻の取り組みは下記のとおりである．

理工学部

数理科学科

卒業研究に繋がる学力の増進を図る.

物理科学科

レメディアル教育や補習授業の必要性が指摘されているが，その対策の１つとしてe-Learningを利用する方法がある．本年度はいくつかの科目について実戦された．また関係する講習会への参加者も増加した．次年度はさらに実践する教員が増えることを期待する.

知能情報システム学科

卒業研究評価方法やシラバステンプレートなどについて，教員によって解釈に差が生じないように解説文を整備し，次年度は全教員が同じ解釈の下で，授業や評価を実施できるようにする．また，卒業生に対するアンケートも実施し，授業やカリキュラム構成に反映させたい.

機能物質化学科

授業評価アンケートの分析方法について再度検討する．アンケートの分析結果による授業改善に学科全体で取り組みたい.

機械システム工学科

学生自らが参画し，問題を自ら解決するようなエンジニアリングデザイン科目を3年次にもうけたので，その充実発展を図る.

電気電子工学科

教育改善委員会を定期的に開催し，講義科目全体の教育改善を図る.
学生に対して，電気電子工学科開講科目全体に関するアンケートを行い，教育改善および教育評価に活用する.

科目分野別の委員会において，学習教育目標，シラバス，試験内容，評価方法の整合性のチェックを行う.

都市工学科

引続き“学生の予習，復習不足の解消”に向けた授業改善に取組む．加えて，“建築士等の資格へ対応する講義内容の変更・強化”等を通じて，“学習の動機付け”を与えるような工夫を行う.

工学系研究科博士前期課程

機能物質化学専攻

授業評価アンケートの分析方法について再度検討する．アンケートの分析結果による授業改善に専攻全体で取り組みたい.

物理科学専攻

学部と比較して，専攻では独自アンケートを利用する科目の割合が多かった．今後はこれらの独自の取り組みに関する相互交流を深め，有効な方法を模索していきたい．

機械システム工学専攻

改組に伴い，教員および科目内容がかわるので，今まで積み上げたノウハウを維持しつつ，新たな科目への適用を図る．　同時に導入教育の内容をさらに精選する．

電気電子工学専攻

教育改善委員会を定期的に開催し，講義科目全体の教育改善を図る．
学生に対して，電気電子工学専攻開講科目全体に関するアンケートを行い，教育改善および教育評価に活用する．

知能情報システム専攻

講義内容の改善を図る．

数理科学専攻

修士論文作成に関わる学力と表現力を身につけさせる．

都市工学専攻

英語苦手意識の解消を目指して英語によるコミュニケーション能力の改善を図る．

循環物質工学専攻

授業評価アンケートの分析方法について再度検討する．アンケートの分析結果による授業改善に専攻全体で取り組みたい．

生体機能システム制御工学専攻

機械系

次年度より先端融合工学専攻医工融合コースとして発足するが，教員および科目内容がかわるので，今まで積み上げたノウハウを維持しつつ，新たな科目への適用を図る．

電気系

本専攻は来年度より改組により先端融合工学専攻となり，電気系，機械系，機能物質化学系の３つの分野にわたる専攻となるため，専攻全体の教員が一丸となり，融合的なカリキュラムを運営していけるようにしたい．

工学系研究科博士後期課程

システム生産科学専攻

学生が所定の年限で修了できるよう教育・研究指導することが基本であり，各指導教員は研究指導実績報告書の指導計画に基づいて改善を加えながら着実に遂行しているが，視野を広めるために異分野の授業科目履修を奨励する．

生体機能システム制御工学専攻

次年度より，システム創成科学専攻となるが，「基礎を充実させた反面，学生が研究に当てる総時間数が減る」ことを回避するため，多くの学生が後期博士課程に進学し，研究や工学的な問題解決に没頭できるような道を確立すべきであろう． そのためにもカリキュラムを改善するというよりは，後期博士課程在籍者に対する金銭的支援および後期博士課程修了者のスムーズな就職を支援するシステムの整備が大切と考える．

４．農学部および農学研究科

学部：

1) 次年度からは共通アンケートがweb上で行われることになるが,紙ベースで行っていた時と同程度の回収率になるように努力する．

2) 予習・復習の時間を確保するための方策を検討する．

3) 授業内容の難易度および到達目標についての再検討を行う．

大学院：

1) 次年度からは共通アンケートがweb上で行われることになるが，紙ベースで行っていた時と同程度の回収率になるように努力する．

2)留学生向け科目でのアンケート実施法について検討する．

3) 研究指導計画の作成とこれに基づいたきめ細かな指導を行う．

５．教養教育運営機構

予備知識が異なる受講生に対する教授方法について，講演会の開催，FD 委員会による検討，などにより教員の理解を深め，“学生中心”の授業を目指す．

ネット授業のアンケート項目に“満足度”を追加し，解析を深める．

おわりに

平成 21 年度には認証評価を受け，今後はそこでの指摘に基づいた教育改善が必要となっている．また，昨年暮れには中央教育審議会から答申「学士課程教育の構築にむけて」が出され，今後は佐賀大学の学士力を達成するためのカリキュラムや制度作りも必要となってくる．様々な教育改善を進める上で，学生からの声を建設的に反映させる必要がある．そのためには，授業評価アンケートは重要であり，この実施率が前年度と同じ高い水準が維持されていることから，教員の FD 活動に対する意識もほぼ定着してきたと考えられる．しかしながら，佐賀大学の全教員がその趣旨を理解し，協力しているのかと問われれば，答えは否定的にならざるを得ない．平成 19 年度からは，各教員が「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」に基づき，「授業点検・評価報告書」を提出するようになっているが，その提出率はアンケート実施率より低い．もちろん，この提出率だけを見て FD 活動全体を議論することはできないが，授業評価や授業改善に前向きでない教員がいることも確かである．今後，そのような教員にどのような働きかけを行うかが，課題である．とはいえ，学部教育についていえば，いくつかの質問項目において年々改善傾向が見られ，少しずつではあるが，教育改善が進んでいると思われる．この歩みをさらに続けられるよう組織的かつ継続的な改善を進めていく必要がある．そのためには，組織的な FD 活動をさらに発展させ，個々の教員の意識をさらに高める必要があると考える．

平成 21 年度にその方策の一つとして公開授業週間を設定し，部局を超えて教員が好きな講義を受講できるようにした．これにより，公開授業数は平成 20 年度に比べて大幅に増えたが，全教員への周知が十分ではなく，実質的に機能するのはこれからであろう．また，全国に先駆けてティーチング・フォリオ・ワークショップを開催し，平成 21 年度は 12 名の教員がティーチング・ポートフォリオを作成した．

今後は，教育先導大学の名に恥じないよう，ティーチング・ポートフォリオによる教員の教育改善とラーニング・ポートフォリオによる学生支援とが両輪になって本学の教育改革を進める必要がある．本報告書がその一助になれば幸いである．

資 料 1 授業評価結果を用いた授業改善実施要領

（趣旨）

第１条　佐賀大学学生による授業評価実施要領（平成１８年６月２７日制定．以下「授業評価実施要領」という．）第２条に定める個別授業評価及び組織別授業評価の結果は，授業評価実施要領に定めるもののほか，この要領の定めるところにより，授業の改善を通じて教育の質の向上に利用するものとする．

（報告）

第２条　授業を担当する教員（非常勤講師を含む．）は，授業科目ごとに実施する授業評価の結果及び授業の改善目標について，所定の期間内に定められた方法により個別授業点検・評価報告書として提出する．

２　学部又は学科等（以下「教育組織」という．）は，個別授業評価及び組織別授業評価の結果に基づき，次に掲げる事項について組織別授業点検・評価報告書を作成する．

⑴ 各種アンケートの学科等別及び授業科目別の集計結果

⑵ 各種アンケートの結果から総合的に判断して，学生から高い評価を得ていると教育組織が認定する授業科目

⑶ 個別授業評価に係る情報が一切ない授業科目

⑷ 教育組織の授業改善の取組状況に係る優れた点及び改善を要する点

⑸ 次年度の学部又は学科等の授業改善目標

（報告書等の利用）

第３条　教育組織の長は，前条第２項に定める組織別授業点検・評価報告書に基づき，必要に応じて教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策を講じるものとする．

２　前条第１項の個別授業点検・評価報告書及び同条第２項の組織別授業点検・評価報告書は，教育組織が実施する研修会等に利用し，オンラインで公表する．

３　前条第２項第２号に該当する授業科目における取組は，授業の改善に広く資するよう，教育組織が実施する研修会等又は公開授業により周知する．

附　則

１　この要領は，平成１８年１２月２２日から実施する．

２　この要領は，当分の間，医学部及び医学系研究科において実施される授業評価には適用しない．

附　則

この要領は，平成２０年２月８日から実施する．

資 料 2 佐賀大学学生による授業評価実施要領

（趣旨）

第１条　授業改善を目的とする学生による授業評価（以下「授業評価」という.）の実施に関する事項は，この要領に定めるところによる.

（評価の実施）

第２条　授業を担当する教員（非常勤講師を含む.）は，授業科目毎に授業評価（以下「個別授業評価」という.）を実施する.

２　学部及び学科等の教育組織（以下「教育組織」という.）は，前項の個別授業評価等を分析し，教育組織毎に授業評価（以下「組織別授業評価」という.）を実施する.

（評価の支援）

第３条　大学は，授業評価の実施に必要な全学共通のアンケート用紙（以下「共通アンケート用紙」という.）を提供し，集計を行うなどの方法により，前条の授業評価の実施を支援する.

（個別評価結果の利用）

第４条　個別授業評価の結果は，授業担当者に提供し，授業担当者は，個別授業評価の結果を授業の改善等に利用するものとする.

２　前項の規定は，各授業担当者による評価結果の公表又は提供及び組織別授業評価のための集計を妨げるものではない.

３　個別授業評価の結果は，教員個人の評価には用いない.

４　個別授業評価の結果は，学生個人の成績評価に利用してはならない.

（組織別評価結果の利用）

第５条　教育改善のための調査研究を行う組織は，大学教育委員会の了承を得て，授業評価の結果を利用することができる.

（調査方法）

第６条　大学教育委員会は，個別授業評価のための共通アンケート用紙の様式その他の調査方法等について定める.

２　前項の規定は，教員又は教育組織が調査項目等を追加することを妨げるものではない.

（調査対象）

第７条　個別授業評価の対象となる授業科目は，次の各号に掲げるものとする.

（１）学部が開設する授業科目

（２）教養教育運営機構が開設する授業科目

（３）研究科が開設する授業科目

２　授業科目を開設する学部等（教養教育運営機構及び研究科を含む.）の長が，授業科目の特性により，共通アンケート用紙を用いて調査することが適切でないと判断した場合は，他の方法により調査することができるものとする.

３　第１項の各号に列記された授業科目以外の講習会等の評価については，実施組織の判断により，共通アンケート用紙を利用することができる.

（実施方法）

第８条　個別授業評価の実施，集計及び集計結果の公表の方法については，大学教育委員　会の議を経て，委員長が別に定める．

２　前項の規定は，教員又は教育組織が，独自の調査を実施することを妨げるものではない．

（雑則）

第９条　この要領に定めるものの他，授業評価の実施に関して必要な事項は，大学教育委員会の議を経て，委員長が定める．

附　則

１　この要領は，平成１８年１０月１日から実施する

２　この要領は，当分の間，医学部・医学系研究科には適用しない．

資 料 3 学生による授業評価アンケート様式

学生による授業評価アンケート 〈佐賀大学〉

このアンケートは、授業の改善に役立てる事を目的として実施するものです。回答は無記名で行い、その内容を成績評価に用いることは一切ありません。また、授業に当てはまらない質問は「該当しない」と回答し、どうしても回答しにくい質問については記入する必要はありません。皆さんのご意見は、今後の授業に生かされますので、率直にお答え下さい。

授業科目コード	□□□□□□□□		
入学年度（西暦年を記入して下さい。）	□□□□		
学部学科・課程、研究科・専攻等コード	□□	選修・コース・系等コード	□□

学部学科・課程、研究科・専攻等コード及び選修・コース・系等コードは、裏面を参照して下さい。 記入例 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

〈記入上の注意〉
① この用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。
② 記入の方法及びマークの方法
・ＨＢ程度のエンピツ、シャープペンシル等を使用すること。
・枠をはみ出さないように記入すること。
・記入しなおす場合は、誤った方をきれいに消すこと。

正しい例……①●③
悪い例……①②③，①②③

この授業科目をあなたはどう考えますか。以下の各項目それぞれについて、該当する番号を１つ選んでマークして下さい。

A．あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか。

A-2 予習を毎週どの程度していますか。

A-3 復習を毎週どの程度していますか。

A-4 この授業の学習目標を把握している。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している。

		20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上
A-1		①	②	③	④	⑤
		0時間	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上
A-2		①	②	③	④	⑤
A-3		①	②	③	④	⑤
	説明がなかった。	全く把握していない。	把握していない。	どちらともいえない。	少しは把握している。	完全に把握している。
A-4	⓪	①	②	③	④	⑤
A-5	⓪	①	②	③	④	⑤

B．授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

B-4 教材（テキスト、配布資料、その他）はわかりやすかった。

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

B-8 話す速さは適切だった。

B-9 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・わからない。	全くそうは思わない。	そうは思わない。	どちらともいえない。	そう思う。	全くそのとおりだと思う。
B-1	⓪	①	②	③	④	⑤
B-2	⓪	①	②	③	④	⑤
B-3	⓪	①	②	③	④	⑤
B-4	⓪	①	②	③	④	⑤
B-5	⓪	①	②	③	④	⑤
B-6	⓪	①	②	③	④	⑤
B-7	⓪	①	②	③	④	⑤
	該当しない・わからない。	かなり遅い。	少し遅い。	丁度良い。	少し速い。	かなり速い。
B-8	⓪	①	②	③	④	⑤
B-9	⓪	①	②	③	④	⑤

C．教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・わからない。	全くそうは思わない。	そうは思わない。	どちらともいえない。	そう思う。	全くそのとおりだと思う。
C-1	⓪	①	②	③	④	⑤
C-2	⓪	①	②	③	④	⑤

D．満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・わからない。	全くそうは思わない。	そうは思わない。	どちらともいえない。	そう思う。	全くそのとおりだと思う。
D-1	⓪	①	②	③	④	⑤

E．指定項目①（この部分は教員の指示に従って記入して下さい。）

E-1
E-2
E-3
E-4
E-5

	該当しない・わからない。	全くそうは思わない。	そうは思わない。	どちらともいえない。	そう思う。	全くそのとおりだと思う。
E-1	⓪	①	②	③	④	⑤
E-2	⓪	①	②	③	④	⑤
E-3	⓪	①	②	③	④	⑤
E-4	⓪	①	②	③	④	⑤
E-5	⓪	①	②	③	④	⑤

F．指定項目②（この部分は教員の指示に従って記入して下さい。）

F-1
F-2
F-3
F-4
F-5

F-1	⓪	①	②	③	④	⑤
F-2	⓪	①	②	③	④	⑤
F-3	⓪	①	②	③	④	⑤
F-4	⓪	①	②	③	④	⑤
F-5	⓪	①	②	③	④	⑤

この授業科目について気づいたことがあれば、何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

	学部名称	学科等名称	学部学科・課程コード	学部名称	学科等名称	学部学科・課程コード
学部学科・課程コード	文化教育学部	学校教育課程	10	理工学部	機械システム工学科	57
		国際文化課程	11		電気電子工学科	58
		人間環境課程	12		都市工学科	59
		美術・工芸課程	13	農学部('05以前入学者)	生物生産学科	70
	経済学部	経済システム課程	35		応用生物科学科	71
		経営・法律課程	36	農学部('06以降入学者)	応用生物科学科	72
	医学部	医学科	41		生物環境科学科	73
		看護学科	42		生命機能科学科	74
	理工学部	数理科学科	53	その他学部生	上記に属さない学部生	80
		物理科学科	54	その他	科目等履修生等	91
		知能情報システム学科	55			
		機能物質化学科	56			

	学部・学科名称	選修・コース・系等名称	選修・コース・系等コード
選修・コース・系等コード	文化教育学部 学校教育課程	教育学選修	1
		教育心理学選修	2
		障害児教育選修	3
		数学選修	4
		理科選修	5
		音楽選修	6
		教科教育選修	7
	文化教育学部 国際文化課程	日本・アジア文化選修	11
		欧米文化選修	12
	文化教育学部 人間環境課程	生活・環境・技術選修	21
		健康福祉・スポーツ選修	22
	文化教育学部 美術・工芸課程	美術・工芸選修	23
	経済学部 経済システム課程	国際経済社会コース	31
		総合政策コース	32
	経済学部 経営・法律課程	企業経営コース	33
		法務管理コース	34
	理工学部 機能物質化学科	物質化学コース	51
		機能材料化学コース	52
	理工学部 都市工学科('06以降入学者)	都市環境基盤コース	53
		建築・都市デザインコース	54
	農学部 生物生産学科('05以前入学者)	生産科学系	71
		環境情報工学系	72
	農学部 応用生産科学科('05以前入学者)	応用生物学系	73
		生物化学系	74
	農学部 生物環境科学科('06以降入学者)	生物環境保全学コース	75
		資源循環生産学コース	76
		地域社会開発学コース	77
	その他学部生	上記に属さない学部生	99

	研究科名称	専攻等名称	研究科・専攻等コード
研究科・専攻等コード	教育学研究科	学校教育専攻	15
		教科教育専攻	16
	経済学研究科	金融・経済政策専攻	37
		企業経営専攻	38
	医学系研究科(修士課程)	医科学専攻	43
		看護学専攻	44
	医学系研究科(博士課程)	機能形態系専攻	45
		生体制御系専攻	46
		生態系専攻	47
	農学研究科	生物生産学専攻	75
		応用生物科学専攻	76
	連合農学研究科		77
	工学系研究科(博士前期課程)	機能物質化学専攻	60
		物理科学専攻	61
		機械システム工学専攻	62
		電気電子工学専攻	63
		知能情報システム学専攻	64
		数理科学専攻	65
		都市工学専攻	66
		循環物質工学専攻	67
		生体機能システム制御工学専攻	68
	工学系研究科(博士後期課程)	エネルギー物質科学専攻	95
		システム生産科学専攻	96
		生体機能システム制御工学専攻	97

資 料 4 共通様式以外のアンケート様式
＜平成 19 年度実施の医学部のアンケート＞

学生による授業評価アンケートⅠ（講義科目）

※５桁の場合は左づめで記入すること
８桁の場合は初めの０を省略

実施年月日：平成　　年　　月　　日

氏 名	
授 業 科目名	

※ 学 籍 番 号						
0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9

〔注 意 事 項〕
(1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
(2) 記入にはＨＢの黒鉛筆を使用して下さい。
(3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
(4) ⊂ ⊃ の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。

良い例 ▬　悪い例 ⊂•⊃ ▬⊃ ▬ ⊂×⊃ ⊶

1．この授業に関して，あなた自身を５段階（５高い・４やや高い・３中間・２やや低い・１低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高い	やや高い	中間	やや低い	低い
1）講義に対する出席の程度	5	4	3	2	1
2）復習や関連事項の自己学習の程度	5	4	3	2	1
3）授業内容の修得，理解度	5	4	3	2	1

2－1．この授業科目全般の内容について５段階（５高い・４やや高い・３中間・２やや低い・１低い）で評価した数値をマークして下さい。	高い	やや高い	中間	やや低い	低い
1）この授業に対する総合的満足度	5	4	3	2	1
2）あなたが感じたこの教科目の重要性の程度	5	4	3	2	1
3）授業内容に対して抱いた興味の程度	5	4	3	2	1
4）講義の編成や内容における一貫性，統合性の程度	5	4	3	2	1
5）講義の工夫，講義資料等の活用・有効性の程度	5	4	3	2	1
6）この授業に対する配分時間の妥当性	5	4	3	2	1

2－2．上記の評価に関連して，以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可），その記号をマークして下さい。

- A 学習要項(シラバス)と講義の内容が一致していない
- B 講義の内容がばらばらである
- C 講義内容に無意味な重複がある
- D 一方的な講義で追い付いていけない
- E 講義資料が分かりにくい
- F スライド，ＯＨＰなどが分かりにくい
- G 講義内容が多すぎる
- H 授業時間が多すぎる
- I もっと授業時間を増やして欲しい
- J 現行より早い時期に開講して欲しい
- K 現行より遅い時期に開講して欲しい

2－3．この授業科目について，上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。

2－4．この授業科目について，よかったと思うことを書いて下さい。

学生による授業評価アンケートⅢ（ＰＢＬ授業科目）

実施年月日：平成　　年　　月　　日

氏　名	

授　業 科目名	

※５桁の場合は左づめで記入すること
８桁の場合は初めの０を省略

※　学　籍　番　号						
0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9

〔注意事項〕
(1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
(2) 記入にはＨＢの黒鉛筆を使用して下さい。
(3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
(4) ⊂ ⊃ の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。

良い例 ▬　悪い例 ⊂•⊃ ▬⊃ ▬ ⊂×⊃ ⊷

１．この授業に関して，あなた自身を５段階（５高い・４やや高い・３中間・２やや低い・１低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高い	やや高い	中間	やや低い	低い
１）講義に対する出席の程度	5	4	3	2	1
２）復習や関連事項の自己学習の程度	5	4	3	2	1
３）授業内容の修得，理解度	5	4	3	2	1

２－１．この授業科目全般の内容について５段階（５高い・４やや高い・３中間・２やや低い・１低い）で評価した数値をマークして下さい。	高い	やや高い	中間	やや低い	低い
１）この授業に対する総合的満足度	5	4	3	2	1
２）あなたが感じたこの教科目の重要性の程度	5	4	3	2	1
３）授業内容に対して抱いた興味の程度	5	4	3	2	1
４）講義の編成や内容における統一性，統合性の程度	5	4	3	2	1
５）シナリオに対する興味の程度	5	4	3	2	1
６）この授業に対する配分時間の妥当性	5	4	3	2	1

２－２．上記の評価に関連して，以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可），その記号をマークして下さい。

- A 講義の内容がばらばらである
- B 講義内容に重複がある
- C 講義内容が少なすぎる
- D 講義分担教官が多すぎる
- E シラバスが統一されていない
- F シナリオが複雑すぎる
- G シナリオが単純すぎる
- H もっと授業時間を増やして欲しい
- I もっと実習時間を増やして欲しい
- J 現行より早い時期に開講して欲しい
- K もっと遅い時期に開講して欲しい

２－３．この授業科目について，上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。

２－４．この授業科目について，よかったと思うことを書いて下さい。

※このアンケートと成績は関係ありません。

学生による授業評価アンケートⅡ（実習科目）

実施年月日：平成　　年　　月　　日

※５桁の場合は左づめで記入すること
８桁の場合は初めの０を省略

※ 学籍番号						
0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9

氏　名	

授　業 科目名	

〔注意事項〕
(1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
(2) 記入にはＨＢの黒鉛筆を使用して下さい。
(3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
(4) ⊂ ⊃ の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。

良い例　　悪い例

１．この実習に関して，あなた自身を５段階（５高い・４やや高い・３中間・２やや低い・１低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高い	やや高い	中間	やや低い	低い
１）実習に対する出席の程度	5	4	3	2	1
２）復習や関連事項の自己学習の程度	5	4	3	2	1
３）実習内容の修得，理解度	5	4	3	2	1

２－１．この実習全般の内容について５段階（５高い・４やや高い・３中間・２やや低い・１低い）で評価した数値をマークして下さい。	高い	やや高い	中間	やや低い	低い
１）この実習に対する総合的満足度	5	4	3	2	1
２）あなたが感じたこの実習の重要性の程度	5	4	3	2	1
３）実習内容に対して抱いた興味の程度	5	4	3	2	1
４）実習の編成や内容における一貫性，統合性の程度	5	4	3	2	1
５）実習の工夫，実習書や配布資料の活用・有効性の程度	5	4	3	2	1
６）この実習に対する配分時間の妥当性	5	4	3	2	1
７）実習環境の充実性	5	4	3	2	1

２－２．上記の評価に関連して，以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可），その記号をマークして下さい。

A 学習要項(シラバス)と実習の内容が一致していない
B 実習内容が多すぎる
C 実習時間が多すぎる
D もっと実習時間を増やして欲しい
E 現行より早い時期に開講して欲しい
F もっと遅い時期に開講して欲しい
G もっと指導教官を増やして欲しい
H 実習書が分かりにくい
I 機材が不足している
J グループの人数が多すぎる

２－３．この実習について，上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。

２－４．この実習について，よかったと思うことを書いて下さい。

資　料 5　ネット授業アンケート様式

■アンケート入力フォーム

タイトル：ネット授業事後アンケート（平成21年度前期）

☆本アンケートの内容は次の通りです。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

[質問1] 今までに受講したネット授業科目のすべてをチェックしてください。（この科目及び今学期選択の他の科目も含む）（1）(必須)

※複数選択可能

- ☐a. 人間社会とコミュニケーション
- ☐b. 21世紀のエネルギーと環境問題
- ☐c. くらしの中の生命科学
- ☐d. わかりやすい機構学
- ☐e. チャレンジ佐賀学
- ☐f. 知的財産学
- ☐g. セラミックスの不思議
- ☐h. 芸術と表現（映画制作論）または（映画製作）
- ☐i. 芸術と表現（デジタル表現技法）
- ☐j. 芸術と表現（有田焼入門）
- ☐k. 芸術と表現（画像へのアプローチーその背景と視点）
- ☐l. 地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—
- ☐m. 佐賀環境フォーラム
- ☐n. 英語で学ぶ佐賀学
- ☐o. 英語＜早瀬博範＞
- ☐p. ここ（1）にある科目は受講していない

[質問2] 今までに受講したネット授業科目のすべてをチェックしてください。（この科目及び今学期選択の他の科目も含む）（2）(必須)

※複数選択可能

- ☐a. 有明海学2
- ☐b. チャレンジ・ベンチャービジネスⅡ（平成18年度開講分）
- ☐c. 基礎簿記
- ☐d. 簿記・会計
- ☐e. シンクロトロン光応用工学特論
- ☐f. 特別講義A（シンクロトロン光応用工学）
- ☐g. 超短波長光利用科学技術工学特論
- ☐h. 動物遺伝育種学特論
- ☐i. ここ（2）にある科目は受講していない

[質問3] ここから前半は、貴方の受講状況と講義内容についてお尋ねします。受講している科目について、回答してください。ネット授業の受講経過について、もっとも近いものを選択してください。(必須)

- ○a. すべての講義を最後まで受講し、課題もほとんど提出した
- ○b. 一応すべての講義を聞いたが、時々課題を提出しなかった
- ○c. 課題は提出したが、聴講しなかった講義もある
- ○d. 受講を開始したが、途中からやめた
- ○e. ほとんど、又はまったく、受講しなかった

[質問4] ガイダンスについて、当てはまるものすべてにチェックをしてください (必須)

※複数選択が可能

- ☐a. 受講のガイダンスはおおむね理解できた
- ☐b. 不十分であったので、受講に戸惑った
- ☐c. チェックテストは受講前にきちんと行った
- ☐d. チェックテストを受講前に受けなかった

□e. 受講マニュアルは役に立った（よく利用した）
□f. 受講マニュアルはほとんど読まなかった

[質問5] ガイダンスの改善策があればご記入ください。

a.

[質問6] 講義コンテンツについて、当てはまるものすべてにチェックをしてください（必須）
※複数選択が可能
□a. 音声は聞き取りやすかった
□b. 音声は聞き取りにくかった
□c. 先生の映像は見やすかった
□d. 先生の映像は見づらかった
□e. 先生の映像は必要ない
□f. テキスト、図、表は見やすかった
□g. テキスト、図、表は見づらかった

[質問7] 掲示板・談話室について、当てはまるものすべてにチェックをしてください（必須）
※複数選択が可能
□a. 掲示板・談話室をほぼ毎回参照した
□b. 掲示板・談話室を未読があるときに参照した
□c. 掲示板・談話室を必要なときに参照した
□d. 掲示板・談話室をほとんど参照しなかった
□e. 談話室の利用方法は分かった
□f. 談話室の利用方法が分からなかった
□g. 談話室に投稿したことがある
□h. 談話室に投稿したことはない

[質問8] 講義方法として、従来の対面式の授業と比べ理解しやすさは、（必須）
○a. 非常に良かった
○b. 良かった
○c. 普通
○d. 悪かった
○e. 非常に悪かった

[質問9] 授業内容の難易度は、（必須）
○a. 非常に良かった
○b. 良かった
○c. 普通
○d. 悪かった
○e. 非常に悪かった

[質問10] 講義の進め方（スピード）は、（必須）
○a. 非常に良かった
○b. 良かった
○c. 普通
○d. 悪かった
○e. 非常に悪かった

[質問11] 従来の対面式授業と比べて質問のしやすさは、（必須）
○a. 非常に良かった
○b. 良かった
○c. 普通
○d. 悪かった

○d. パソコンのトラブルに対処できるくらい得意

[質問20] 個人で所有するパソコンをもっていますか？(必須)
○a. まったく初めて
○b. 小中高の授業で使ったことがある
○c. 受講に差し支えない程度には使える

[質問21] インターネットに加入していますか？(必須)
○a. はい
○b. いいえ

[質問22] 質問21で、「はい」と答えた方は、自分のパソコンで受講できましたか？
○a. はい
○b. いいえ、はじめから大学で受講するつもりでした
○c. いいえ、受講したくても自分のパソコンではできませんでした

[質問23] 質問22で、「はい」と答えた方は、どのような回線を利用していますか？
○a. ISDN回線
○b. ADSL回線
○c. CATV回線
○d. Bフレッツなどの光回線
○e. その他
○f. わからない

[質問24] 上記で「その他」を選択された方は、その通信環境をご記入ください。

a. ＿＿＿＿

[質問25] 質問22で、「いいえ、受講したくても自分のパソコンではできなかった」と答えた方は、受講できなかった理由を選択してください。
※複数選択が可能
□a. 回線が遅い
□b. 聴講するための設定ができなかった
□c. 家族所有なので、聴講のために占有できなかった
□d. その他

[質問26] 上記で「その他」を選択された方は、その理由をご記入ください。

a. ＿＿＿＿

[質問27] 今回受講した場所の頻度を、総計100％で配分してください。(必須)
※下記5項目の合計が100％になるように、それぞれを10％単位で選択

0%	a. 総合情報基盤センター（本庄）
0%	b. 総合情報基盤センター（鍋島）
0%	c. 図書館（本庄）
0%	d. 図書館（鍋島）
0%	e. 経済学部の第二情報演習室
0%	f. その他学内
0%	g. 自宅
0%	h. 友達の家
0%	i. その他学外
0%	j. ほとんど聴講せず

[質問28] 上記で「その他学内」「その他学外」で受講した方は、その場所などをご記入ください。

a.

[質問29] 学内で聴講してスムースに聴けた場所を選択してください。(必須)
※複数選択が可能
- a. 総合情報基盤センター(本庄)
- b. 総合情報基盤センター(鍋島)
- c. 図書館(本庄)
- d. 図書館(鍋島)
- e. 経済学部の第二情報演習室
- f. eラーニングスタジオ
- g. ゼミ室・研究室
- h. その他
- i. 学内ではほとんど聴講せず
- j. なし

[質問30] 上記で「その他」を選択した方は、その場所についてご記入ください。また「ゼミ室・研究室」を選択した方は、さしつかえなければその場所についてご記入ください。

a.

[質問31] 個人で所有するパソコンをもっていますか?(必須)
- a. はい、自分専用のパソコンを持っています
- b. はい、家族所有の自分も使えるパソコンを持っています
- c. いいえ、持っていません

[質問32] 上記で「その他」を選択した方は、その場所についてご記入ください。また「ゼミ室・研究室」を選択した方は、さしつかえなければその場所についてご記入ください。

a.

[質問33] ネット授業の受講中、該当するものがあれば、選択してください。
※複数選択が可能
- a. 映像が途中で止まって、何回も始めから見直したことがある
- b. 講義がなかなか聴けなくて、期限が迫り課題のみ提出したことがある
- c. 質問したが、先生から直ぐに回答がなく、不満に思ったことがある
- d. レポート提出期限が過ぎても、採点してもらえず不満に思ったことがある
- e. レポートを提出したことが自分でチェックできず、不安に思ったことがある
- f. ネット授業に関するトラブルの質問メールを送ったが、対応が遅く不満に思ったことがある
- g. アルバイトなどの都合で、いつでも聴けるネット授業は非常に便利だと痛感したことがある
- h. その他

[質問34] 上記で「その他」を選択された方は、お気づきの点をご記入ください。

a.

[質問35] 同じ講義を平均で何回聴きましたか?(必須)
- a. 1回
- b. 2回
- c. 3回以上
- d. 0回

[質問36] 上記で、「2回以上」の場合、その理由は?
※複数選択可能

☐a. 聴き落とした箇所を、確認するため
☐b. レポートを書く時に、内容確認のため
☐c. システムトラブルのため、已む終えず
☐d. 試験前に、復習のため
☐e. その他

[質問37] その他、ネット授業の改善要望があれば、自由にご記入下さい。

a.

[質問38] 今後ネット授業で興味がある科目が開講されていたら、(必須)
○a. ネット授業で別の科目も受講したい
○b. ネット授業では2度と受講したくない

資 料 6 項目の基礎集計表

＜学部　平成 21 年度前期＞

A-1：出席率はどのくらいですか.						
	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.22	0.27	1.36	8.59	88.95	0.61
経済学部	0.60	0.94	3.51	11.12	83.65	0.18
理工学部	0.21	0.12	0.91	7.06	91.63	0.07
農学部	0.10	0.00	0.31	4.20	95.28	0.10
教養教育運営機構	0.22	0.27	1.36	8.59	88.95	0.61

A-2：予習を毎週どの程度しましたか.						
	0 時間	1 時間以内	2 時間以内	3 時間以内	3 時間以上	なし
文化教育学部	65.64	24.05	5.90	1.35	1.33	1.74
経済学部	74.03	19.44	3.39	1.22	1.65	0.28
理工学部	50.29	37.19	7.93	1.87	2.58	0.14
農学部	64.02	24.09	6.33	1.85	3.57	0.14
教養教育運営機構	65.64	24.05	5.90	1.35	1.33	1.74

A-3：復習を毎週どの程度しましたか.						
	0 時間	1 時間以内	2 時間以内	3 時間以内	3 時間以上	なし
文化教育学部	62.88	29.95	3.70	0.64	0.99	1.83
経済学部	66.12	28.15	3.00	0.83	1.56	0.34
理工学部	35.27	44.61	12.12	3.10	4.57	0.32
農学部	43.60	39.44	8.92	3.01	4.83	0.21
教養教育運営機構	62.88	29.95	3.70	0.64	0.99	1.83

A-4：この授業の学習目標を把握している.							
	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.29	3.77	8.24	32.31	45.14	8.25	1.01
経済学部	0.66	3.35	7.36	29.09	48.65	10.52	0.37
理工学部	0.65	3.91	7.87	34.51	44.88	6.97	1.20
農学部	0.63	2.03	4.69	28.15	55.73	8.08	0.70
教養教育運営機構	1.29	3.77	8.24	32.31	45.14	8.25	1.01

A-5：この授業の成績評価基準を把握している.							
	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.13	3.03	7.23	25.95	47.88	13.66	1.12
経済学部	0.48	2.43	5.80	22.70	49.20	18.80	0.60
理工学部	0.55	2.57	5.21	28.26	49.16	12.81	1.44
農学部	0.52	1.75	4.69	24.13	56.12	12.10	0.70
教養教育運営機構	1.13	3.03	7.23	25.95	47.88	13.66	1.12

B-1：この授業の内容は理解できる．							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.36	0.88	4.47	16.39	64.47	13.35	0.08
経済学部	0.18	1.90	7.91	21.87	57.20	10.66	0.28
理工学部	0.29	3.36	11.54	33.23	44.78	5.80	1.01
農学部	0.14	1.64	8.15	24.44	57.45	8.01	0.17
教養教育運営機構	0.51	2.02	6.75	23.92	55.09	10.96	0.75

B-2：この科目を受講してみて，内容への興味が増してきた．							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.33	1.21	5.28	20.51	53.42	19.03	0.22
経済学部	0.28	2.77	9.58	25.26	47.11	14.65	0.34
理工学部	0.25	4.32	12.81	38.70	35.59	7.28	1.05
農学部	0.07	2.66	7.62	25.98	49.06	14.23	0.38
教養教育運営機構	0.45	3.34	8.44	28.05	45.36	13.45	0.91

B-3：黒板・ホワイトボード，スライド等の使い方が効果的である．							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	9.11	1.67	6.63	28.50	43.78	9.96	0.34
経済学部	2.87	2.13	10.94	31.61	40.78	11.14	0.53
理工学部	1.64	3.89	10.72	37.90	37.42	7.21	1.20
農学部	4.90	2.06	8.53	29.83	44.23	9.93	0.52
教養教育運営機構	6.43	2.63	7.40	31.31	40.21	9.51	2.50

B-4：教材（テキスト，配布資料，その他）はわかりやすかった．							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	8.26	1.03	4.67	26.14	48.17	11.36	0.37
経済学部	2.84	1.90	8.09	31.52	45.03	10.18	0.44
理工学部	1.44	3.32	11.21	40.53	35.91	6.44	1.15
農学部	5.10	2.73	8.57	34.83	39.76	8.50	0.52
教養教育運営機構	9.23	2.30	6.68	31.78	39.28	8.31	2.41

B-5：シラバスは学習する上で役に立っている.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	24.10	2.15	5.50	34.62	27.16	6.06	0.40
経済学部	22.58	2.41	7.29	38.10	23.59	5.55	0.48
理工学部	9.78	3.86	9.39	45.14	25.93	4.85	1.06
農学部	24.48	4.23	6.36	38.32	21.54	4.37	0.70
教養教育運営機構	19.01	4.20	8.85	41.98	19.97	4.70	1.29

B-6：授業内容はシラバスに沿っている.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	27.60	0.58	1.75	28.65	33.75	7.24	0.43
経済学部	28.31	0.78	1.88	31.93	29.85	6.69	0.55
理工学部	14.55	1.25	2.70	38.22	34.86	7.16	1.25
農学部	30.87	1.08	1.92	29.69	30.00	5.73	0.70
教養教育運営機構	24.85	1.03	2.34	35.97	28.32	6.00	1.49

B-7：声の大きさ･明瞭さは適切だった.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.69	0.95	4.40	13.91	56.78	22.79	0.48
経済学部	0.46	0.76	3.87	16.51	53.90	23.82	0.69
理工学部	0.90	2.21	6.47	23.40	51.70	14.09	1.22
農学部	2.03	1.43	4.79	16.26	58.11	16.64	0.73
教養教育運営機構	0.70	1.54	4.78	17.99	53.59	20.33	1.07

B-8：話す速さは適切だった.							
	該当しない･わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	0.98	0.19	1.68	87.20	7.91	1.19	0.85
経済学部	1.10	0.21	1.31	79.21	15.08	2.04	1.05
理工学部	1.55	0.40	1.61	80.15	12.31	2.40	1.57
農学部	2.62	0.24	1.68	81.29	11.43	1.57	1.15
教養教育運営機構	1.23	0.47	1.84	82.68	10.47	1.77	1.54

B-9：授業の進む速さは適切だった．							
	該当しない･わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.79	0.18	2.94	83.20	9.40	1.38	1.12
経済学部	1.74	0.37	2.57	78.50	13.39	2.11	1.33
理工学部	1.69	0.39	2.14	73.24	16.94	3.88	1.72
農学部	3.01	0.42	2.66	73.53	16.75	2.41	1.22
教養教育運営機構	1.85	0.66	3.49	79.09	11.06	2.08	1.77

C-1：授業をわかりやすくする工夫が感じられる．							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	1.20	1.17	3.87	20.98	58.31	13.80	0.68
経済学部	4.84	1.47	5.39	25.72	50.92	11.07	0.60
理工学部	0.98	3.02	7.91	33.33	45.67	7.48	1.61
農学部	0.84	1.43	5.17	23.50	57.24	10.77	1.05
教養教育運営機構	2.19	2.07	5.45	28.17	51.16	9.81	1.16

C-2：学生の質問に適切に対応してくれている．							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	3.86	0.66	2.16	17.90	54.62	20.00	0.80
経済学部	21.14	0.48	1.90	21.89	39.64	14.14	0.80
理工学部	4.80	1.65	3.29	31.12	46.56	10.70	1.87
農学部	5.49	0.52	2.31	21.61	54.72	14.13	1.22
教養教育運営機構	9.51	1.21	2.72	26.82	45.43	12.90	1.41

D-1：この授業を受講して満足が得られた．							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.43	1.43	3.87	18.65	51.64	19.18	4.80
経済学部	0.64	2.02	6.30	23.73	46.35	15.75	5.20
理工学部	0.51	3.46	8.51	35.81	38.15	7.90	5.66
農学部	0.35	1.85	5.77	24.55	49.48	12.87	5.14
教養教育運営機構	0.70	2.77	5.90	26.78	45.89	13.76	4.20

＜学部　平成21年度後期＞

A-1：出席率はどのくらいですか.						
	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.11	0.26	1.58	11.85	86.08	0.12
経済学部	1.07	0.78	3.43	13.42	81.25	0.06
理工学部	0.18	0.28	1.17	8.89	89.30	0.18
農学部	0.17	0.10	0.76	5.97	92.89	0.10
教養教育運営機構	0.23	0.37	1.80	13.13	84.41	0.06

A-2：予習を毎週どの程度しましたか.						
	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	66.53	24.31	5.14	1.37	2.53	0.11
経済学部	68.19	22.45	4.86	1.88	2.56	0.06
理工学部	45.63	37.78	9.49	2.21	4.68	0.21
農学部	68.34	22.41	4.80	1.14	3.14	0.17
教養教育運営機構	61.93	27.18	6.16	1.49	1.63	1.61

A-3：復習を毎週どの程度しましたか.						
	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	58.54	32.72	5.42	1.02	2.12	0.19
経済学部	63.60	28.21	4.80	1.22	2.06	0.12
理工学部	33.89	46.11	11.40	2.78	5.39	0.42
農学部	53.59	35.08	6.22	1.28	3.59	0.24
教養教育運営機構	61.85	31.12	3.54	0.65	1.21	1.63

A-4：この授業の学習目標を把握している.							
	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	0.79	1.42	3.58	22.77	58.17	12.74	0.53
経済学部	0.48	3.55	5.96	27.79	48.27	13.45	0.51
理工学部	0.55	3.13	6.56	31.05	49.11	9.09	0.50
農学部	0.28	2.21	4.32	25.14	56.77	10.84	0.45
教養教育運営機構	0.78	3.09	5.71	30.44	49.36	10.34	0.28

A-5：この授業の成績評価基準を把握している.							
	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	0.80	1.61	3.52	20.61	56.72	16.03	0.71
経済学部	0.27	2.30	4.29	21.74	49.97	20.78	0.66
理工学部	0.55	2.57	5.21	28.26	49.16	12.81	1.44
農学部	0.52	1.75	4.69	24.13	56.12	12.10	0.70
教養教育運営機構	1.13	3.03	7.23	25.95	47.88	13.66	1.12

B-1：この授業の内容は理解できる.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.32	0.85	3.88	15.88	64.49	14.49	0.09
経済学部	0.30	2.39	7.66	22.42	56.02	11.12	0.09
理工学部	0.22	2.64	9.40	30.43	49.87	7.24	0.20
農学部	0.62	0.55	5.94	23.48	59.88	9.43	0.10
教養教育運営機構	0.33	2.14	5.54	20.46	58.02	13.40	0.11

B-2：この科目を受講してみて，内容への興味が増してきた.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.25	1.48	4.91	19.32	52.90	20.91	0.22
経済学部	0.36	3.04	8.77	25.40	47.23	15.03	0.18
理工学部	0.21	3.38	10.63	35.31	40.63	9.55	0.29
農学部	0.41	0.55	5.80	24.59	52.38	16.09	0.17
教養教育運営機構	0.24	2.78	7.54	25.56	47.62	15.92	0.34

B-3：黒板・ホワイトボード，スライド等の使い方が効果的である.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	7.37	1.71	6.38	26.35	44.89	12.87	0.43
経済学部	2.68	2.36	8.62	29.99	43.89	12.05	0.42
理工学部	2.95	3.14	8.67	34.12	40.95	9.74	0.42
農学部	6.04	1.21	6.42	27.56	47.69	10.64	0.45
教養教育運営機構	5.24	2.38	6.99	29.82	42.98	10.84	1.75

B-4：教材（テキスト，配布資料，その他）はわかりやすかった.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	6.53	1.28	4.91	26.34	47.54	12.99	0.40
経済学部	2.21	2.21	6.98	30.80	44.28	13.27	0.27
理工学部	2.25	2.81	9.32	37.86	39.08	8.31	0.37
農学部	6.22	1.24	5.66	30.94	45.65	9.67	0.62
教養教育運営機構	7.59	1.85	5.85	29.90	42.84	10.79	1.17

B-5：シラバスは学習する上で役に立っている.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	23.31	2.19	4.62	32.61	28.88	8.11	0.28
経済学部	22.42	2.95	6.32	36.14	24.27	7.22	0.69
理工学部	11.01	3.27	8.10	42.88	28.24	6.14	0.36
農学部	26.42	2.66	5.73	35.08	23.86	6.11	0.14
教養教育運営機構	18.29	3.51	6.75	40.02	24.09	6.51	0.85

B-6：授業内容はシラバスに沿っている.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	26.24	0.77	1.78	28.41	33.64	8.87	0.29
経済学部	26.27	0.95	1.79	31.54	30.26	8.38	0.81
理工学部	14.91	1.09	2.63	35.59	35.99	9.38	0.40
農学部	30.94	0.66	1.31	29.35	30.28	7.32	0.14
教養教育運営機構	22.83	1.04	2.24	34.07	31.51	7.44	0.87

B-7：声の大きさ･明瞭さは適切だった.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.96	0.82	3.21	13.42	57.72	23.39	0.48
経済学部	0.54	1.55	4.44	16.01	53.79	23.29	0.39
理工学部	1.17	2.06	5.39	21.89	52.89	16.14	0.46
農学部	2.42	0.76	4.04	14.81	59.15	18.47	0.35
教養教育運営機構	0.38	1.39	4.13	16.49	54.72	22.47	0.41

B-8：話す速さは適切だった.							
	該当しない･わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	0.93	0.17	1.28	87.26	7.99	1.59	0.79
経済学部	0.72	0.39	1.52	81.63	12.91	1.94	0.89
理工学部	1.96	0.29	1.45	82.31	11.46	1.73	0.80
農学部	2.83	0.10	0.83	85.53	8.81	1.17	0.73
教養教育運営機構	0.93	0.48	1.72	84.91	9.52	1.70	0.74

B-9：授業の進む速さは適切だった.							
	該当しない･わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.67	0.29	2.90	83.35	8.94	1.79	1.05
経済学部	1.22	0.51	2.77	80.47	11.84	2.09	1.10
理工学部	2.15	0.32	1.77	77.03	14.98	2.64	1.10
農学部	3.31	0.17	1.52	80.32	12.12	1.69	0.86
教養教育運営機構	1.49	0.55	3.29	82.99	8.95	1.76	0.98

C-1：授業をわかりやすくする工夫が感じられる.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	1.19	1.19	3.78	18.86	57.04	17.36	0.57
経済学部	2.89	1.85	4.44	25.64	51.61	13.12	0.45
理工学部	1.15	2.14	6.42	29.17	50.68	9.62	0.82
農学部	1.55	0.73	3.59	22.62	59.63	11.43	0.45
教養教育運営機構	1.36	1.67	4.51	24.96	54.43	12.43	0.63

C-2：学生の質問に適切に対応してくれている.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	3.82	0.73	1.47	16.85	53.78	22.57	0.79
経済学部	13.69	1.13	2.03	24.18	42.10	16.01	0.86
理工学部	3.96	1.45	3.03	28.30	49.04	13.17	1.05
農学部	5.01	0.41	1.93	19.68	53.07	19.20	0.69
教養教育運営機構	8.39	1.04	2.46	25.01	47.15	15.15	0.80

D-1：この授業を受講して満足が得られた.							
	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.28	1.45	3.66	17.66	50.56	20.93	5.47
経済学部	0.69	2.59	5.01	23.02	46.39	17.08	5.22
理工学部	0.46	2.60	6.97	32.68	41.86	9.65	5.78
農学部	0.59	0.66	3.42	21.13	52.14	16.09	5.97
教養教育運営機構	0.35	2.22	5.10	23.14	47.17	16.37	5.66

＜平成 21 年度医学部アンケート結果＞

講義に対する出席の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	1.24	2.78	27.84	24.95	42.27	0.93
実習科目	0.00	0.19	4.92	7.07	87.70	0.13
講義科目	0.43	1.09	7.75	17.33	73.30	0.11
全科目	0.56	1.35	13.50	16.45	67.75	0.39

復習や関連事項の自己学習の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	1.34	4.64	43.51	33.09	16.49	0.93
実習科目	0.13	2.65	27.57	41.83	27.63	0.19
講義科目	1.45	5.72	38.74	38.11	15.80	0.18
全科目	0.97	4.34	36.60	37.68	19.98	0.43

授業内容の修得，理解度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	2.06	5.57	52.89	27.63	10.93	0.93
実習科目	0.19	2.15	28.96	43.85	24.67	0.19
講義科目	1.09	5.02	39.72	40.39	13.58	0.21
全科目	1.11	4.24	40.52	37.29	16.39	0.44

授業内容に対して抱いた興味の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.00	2.27	31.86	41.13	23.81	0.93
実習科目	0.19	0.82	19.24	41.77	37.85	0.13
講義科目	0.61	2.42	24.01	43.13	29.70	0.14
全科目	0.27	1.83	25.04	42.01	30.46	0.40

授業に対する総合的満足度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.00	0.72	21.44	28.04	48.87	0.93
実習科目	0.00	1.58	16.66	35.14	46.50	0.13
講義科目	0.47	1.28	15.66	37.56	44.85	0.17
全科目	0.16	1.19	17.92	33.58	46.74	0.41

教科科目の重要度の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.10	2.47	30.00	35.26	31.24	0.93
実習科目	0.25	1.51	19.68	39.87	38.42	0.25
講義科目	0.43	2.17	23.15	40.54	33.51	0.20
全科目	0.26	2.05	24.28	38.56	34.39	0.46

講義の編成や内容における一貫性

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.52	3.30	38.25	35.05	21.86	1.03
実習科目	0.19	1.39	25.43	41.20	31.61	0.19
講義科目	0.67	3.00	30.39	38.86	26.85	0.23
全科目	0.46	2.56	31.35	38.37	26.77	0.48

講義の工夫/資料等の活用・有効性の程度/シナリオに対する興味の程度(PBLのみ)						
	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.10	2.06	36.19	34.85	25.77	1.03
実習科目	0.06	2.21	27.38	40.44	29.72	0.19
講義科目	0.92	4.17	32.18	37.35	25.14	0.24
全科目	0.36	2.82	31.91	37.54	26.88	0.49
授業に対する配分時間の妥当性						
	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	1.86	5.67	42.68	26.08	22.68	1.03
実習科目	1.26	4.67	31.48	32.49	29.78	0.32
講義科目	1.24	6.19	37.02	32.05	23.21	0.28
全科目	1.45	5.51	37.06	30.21	25.22	0.54

＜大学院　平成 21 年度前期＞

A-1：出席率はどのくらいですか.

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	3.31	96.39	0.30
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	96.97	0.00
工学系研究科	0.11	0.33	0.50	5.45	93.51	0.11
農学研究科	0.00	0.00	0.50	3.96	95.54	0.00

A-2：予習を毎週どの程度しましたか.

	0 時間	1 時間以内	2 時間以内	3 時間以内	3 時間以上	なし
教育学研究科	20.78	39.46	19.28	11.14	9.04	0.30
経済学研究科	0.00	30.30	18.18	21.21	30.30	0.00
工学系研究科	42.27	31.65	13.26	5.56	7.15	0.11
農学研究科	33.17	42.08	12.38	4.46	7.43	0.50

A-3：復習を毎週どの程度しましたか.

	0 時間	1 時間以内	2 時間以内	3 時間以内	3 時間以上	なし
教育学研究科	22.29	49.10	12.35	9.94	6.02	0.30
経済学研究科	0.00	51.52	9.09	18.18	18.18	3.03
工学系研究科	33.90	39.90	14.36	5.56	5.67	0.61
農学研究科	36.63	50.50	5.94	3.96	2.97	0.00

A-4：この授業の学習目標を把握している.

	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.30	8.13	53.01	37.95	0.60
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	45.45	51.52	0.00
工学系研究科	0.44	1.32	6.27	23.17	53.44	14.91	0.44
農学研究科	0.00	0.50	1.49	15.35	63.37	19.31	0.00

A-5：この授業の成績評価基準を把握している.

	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	1.20	0.30	0.90	10.24	50.30	36.45	0.60
経済学研究科	0.00	0.00	3.03	3.03	39.39	51.52	3.03
工学系研究科	0.39	1.05	4.02	19.43	56.58	17.78	0.77
農学研究科	0.00	0.00	3.47	13.37	60.40	21.78	0.99

B-1：この授業の内容は理解できる.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.30	6.02	59.34	34.34	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	54.55	42.42	3.03
工学系研究科	0.22	1.16	7.48	28.95	54.05	7.93	0.22
農学研究科	0.00	0.99	1.98	9.90	72.28	14.85	0.00

B-2：この科目を受講してみて，内容への興味が増してきた.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	5.12	50.30	44.28	0.30
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	42.42	54.55	0.00
工学系研究科	0.11	1.65	8.64	29.61	47.00	12.71	0.28
農学研究科	0.00	0.50	0.99	16.34	62.38	19.80	0.00

B-3：黒板・ホワイトボード，スライド等の使い方が効果的である.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	7.83	0.00	0.90	15.36	49.70	25.60	0.60
経済学研究科	9.09	0.00	3.03	3.03	27.27	57.58	0.00
工学系研究科	3.36	1.32	7.10	30.65	45.18	11.89	0.50
農学研究科	5.45	0.50	0.50	19.80	56.44	16.83	0.50

B-4：教材（テキスト，配布資料，その他）はわかりやすかった.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	1.81	0.00	0.90	11.75	53.31	32.23	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	6.06	39.39	54.55	0.00
工学系研究科	5.39	1.60	8.37	31.81	41.39	10.84	0.61
農学研究科	3.47	0.50	2.97	18.32	56.93	16.34	1.49

B-5：シラバスは学習する上で役に立っている.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	16.57	0.00	0.90	20.78	40.36	20.78	0.60
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	6.06	30.30	63.64	0.00
工学系研究科	13.76	3.25	9.08	34.07	31.65	7.93	0.28
農学研究科	15.35	1.49	4.95	34.16	33.17	10.89	0.00

B-6：授業内容はシラバスに沿っている.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	17.47	0.00	0.90	12.05	46.69	22.29	0.60
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	39.39	60.61	0.00
工学系研究科	16.68	0.88	2.81	28.18	41.72	9.30	0.44
農学研究科	17.33	0.50	0.99	29.70	38.61	12.87	0.00

B-7：声の大きさ･明瞭さは適切だった.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.30	0.00	0.00	2.41	52.71	44.28	0.30
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	24.24	72.73	0.00
工学系研究科	1.21	0.39	3.08	17.72	59.77	17.17	0.66
農学研究科	1.49	0.00	0.99	5.94	62.38	29.21	0.00

B-8：話す速さは適切だった.

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	91.87	6.02	1.20	0.90
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	81.82	9.09	9.09	0.00
工学系研究科	1.65	0.06	0.88	84.81	10.40	1.10	1.10
農学研究科	0.00	0.00	0.00	89.60	6.93	3.47	0.00

B-9：授業の進む速さは適切だった.

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.00	0.30	0.30	91.87	5.42	0.90	1.20
経済学研究科	0.00	0.00	3.03	81.82	6.06	9.09	0.00
工学系研究科	2.15	0.06	1.16	80.74	11.72	2.97	1.21
農学研究科	1.49	0.00	1.98	86.63	6.44	3.47	0.00

C-1：授業をわかりやすくする工夫が感じられる.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	6.02	56.33	37.35	0.30
経済学研究科	12.12	0.00	0.00	0.00	24.24	63.64	0.00
工学系研究科	1.05	1.38	4.95	27.63	52.61	11.61	0.77
農学研究科	0.50	0.99	0.00	11.88	69.80	16.34	0.50

C-2：学生の質問に適切に対応してくれている.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.30	0.00	0.00	2.71	46.08	50.60	0.30
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	27.27	72.73	0.00
工学系研究科	3.30	0.50	1.93	24.27	53.38	15.58	1.05
農学研究科	2.48	0.50	0.50	9.90	60.40	25.74	0.50

D-1：この授業を受講して満足が得られた.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.30	3.31	45.78	47.29	3.31
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	18.18	69.70	9.09
工学系研究科	0.17	1.65	5.01	25.65	48.05	11.83	7.65
農学研究科	0.50	0.50	0.50	7.92	64.85	18.32	7.43

＜大学院　平成 21 年度後期＞

A-1：出席率はどのくらいですか.

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
教育学研究科	0.00	0.38	0.76	5.68	92.42	0.76
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	6.06	93.94	0.00
工学系研究科	0.18	0.18	0.61	6.06	92.80	0.18
農学研究科	0.62	0.00	0.00	7.45	91.30	0.62

A-2：予習を毎週どの程度しましたか.

	0 時間	1 時間以内	2 時間以内	3 時間以内	3 時間以上	なし
教育学研究科	13.64	24.62	20.08	13.64	27.65	0.38
経済学研究科	0.00	21.21	39.39	18.18	18.18	3.03
工学系研究科	44.86	33.01	9.66	4.39	8.08	0.00
農学研究科	38.51	33.54	12.42	3.73	11.18	0.62

A-3：復習を毎週どの程度しましたか.

	0 時間	1 時間以内	2 時間以内	3 時間以内	3 時間以上	なし
教育学研究科	17.80	31.82	17.05	13.26	19.70	0.38
経済学研究科	0.00	45.45	24.24	12.12	15.15	3.03
工学系研究科	33.36	39.86	14.05	4.48	7.81	0.44
農学研究科	39.13	38.51	6.83	4.97	9.32	1.24

A-4：この授業の学習目標を把握している.

	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.38	0.76	1.52	3.79	40.15	52.65	0.76
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	30.30	66.67	0.00
工学系研究科	1.49	1.23	5.79	19.14	54.35	17.73	0.26
農学研究科	1.86	0.00	2.48	16.77	49.07	29.81	0.00

A-5：この授業の成績評価基準を把握している.

	説明が無かった	まったく把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.76	1.14	1.14	8.33	39.02	48.86	0.76
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	39.39	60.61	0.00
工学系研究科	1.23	0.79	3.78	16.15	54.96	22.74	0.35
農学研究科	2.48	0.62	1.86	19.25	43.48	31.68	0.62

B-1：この授業の内容は理解できる.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.76	0.38	0.76	2.27	50.00	45.45	0.38
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	51.52	45.45	0.00
工学系研究科	1.40	0.88	5.09	22.48	60.49	9.66	0.00
農学研究科	2.48	0.00	0.62	13.66	59.63	23.60	0.00

B-2：この科目を受講してみて，内容への興味が増してきた.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.76	0.38	0.76	2.65	33.71	61.36	0.38
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	66.67	0.00
工学系研究科	1.49	0.70	4.21	22.39	56.10	15.01	0.09
農学研究科	3.11	0.00	0.62	15.53	46.58	34.16	0.00

B-3：黒板・ホワイトボード，スライド等の使い方が効果的である.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	18.94	0.00	0.38	10.61	37.12	32.58	0.38
経済学研究科	6.06	0.00	0.00	12.12	36.36	45.45	0.00
工学系研究科	7.29	1.14	3.86	25.37	49.87	12.47	0.00
農学研究科	14.91	0.00	1.24	17.39	47.83	18.01	0.62

B-4：教材（テキスト，配布資料，その他）はわかりやすかった.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	7.20	0.38	0.76	8.33	42.05	40.91	0.38
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	45.45	51.52	0.00
工学系研究科	10.89	0.88	4.30	29.24	42.32	12.20	0.18
農学研究科	15.53	0.00	1.24	18.01	47.83	16.77	0.62

B-5：シラバスは学習する上で役に立っている.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	14.77	0.38	0.38	13.64	38.26	30.68	1.89
経済学研究科	3.03	0.00	3.03	0.00	36.36	57.58	0.00
工学系研究科	21.69	2.02	7.90	31.08	30.11	7.20	0.00
農学研究科	26.71	1.24	1.86	32.30	26.09	11.18	0.62

B-6：授業内容はシラバスに沿っている.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	12.88	0.00	0.76	10.23	36.74	36.74	2.65
経済学研究科	3.03	0.00	0.00	3.03	48.48	45.45	0.00
工学系研究科	24.85	0.35	2.46	25.55	37.05	9.39	0.35
農学研究科	31.06	0.00	0.62	25.47	29.81	12.42	0.62

B-7：声の大きさ･明瞭さは適切だった.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.76	0.38	0.00	1.89	35.23	60.98	0.76
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	36.36	60.61	3.03
工学系研究科	4.04	0.35	2.81	12.29	57.95	22.21	0.35
農学研究科	13.04	0.00	0.00	9.94	45.96	30.43	0.62

B-8：話す速さは適切だった.

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	1.14	0.00	0.00	90.91	5.68	1.14	1.14
経済学研究科	3.03	0.00	0.00	93.94	3.03	0.00	0.00
工学系研究科	4.92	0.18	0.79	80.68	11.06	1.93	0.44
農学研究科	10.56	0.00	0.00	77.64	6.21	3.11	2.48

B-9：授業の進む速さは適切だった.

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	ちょうど良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	1.89	0.38	0.00	91.67	4.17	0.76	1.14
経済学研究科	3.03	0.00	3.03	87.88	3.03	0.00	3.03
工学系研究科	5.36	0.09	1.23	78.58	12.82	1.49	0.44
農学研究科	10.56	0.00	0.62	77.02	6.83	2.48	2.48

C-1：授業をわかりやすくする工夫が感じられる.

	該当しない･わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.76	0.38	0.00	1.89	43.18	52.27	1.52
経済学研究科	3.03	0.00	0.00	0.00	33.33	57.58	6.06
工学系研究科	4.21	0.44	2.55	21.16	55.58	15.98	0.09
農学研究科	7.45	0.00	0.62	12.42	57.76	21.74	0.00

C-2：学生の質問に適切に対応してくれている.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.38	0.00	1.14	35.98	60.98	1.52
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	60.61	6.06
工学系研究科	5.88	0.09	0.97	18.17	54.35	19.93	0.61
農学研究科	1.86	0.00	0.00	13.04	53.42	31.06	0.62

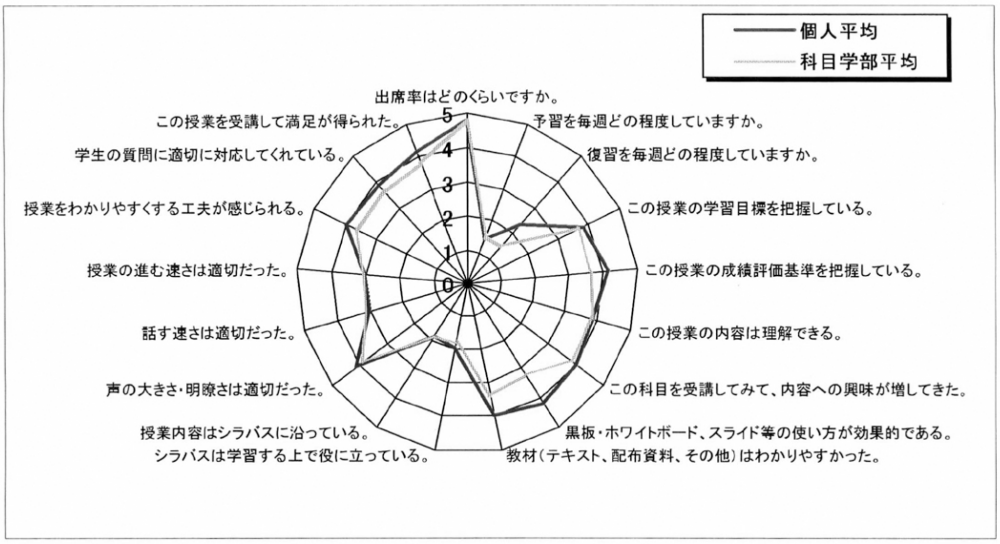
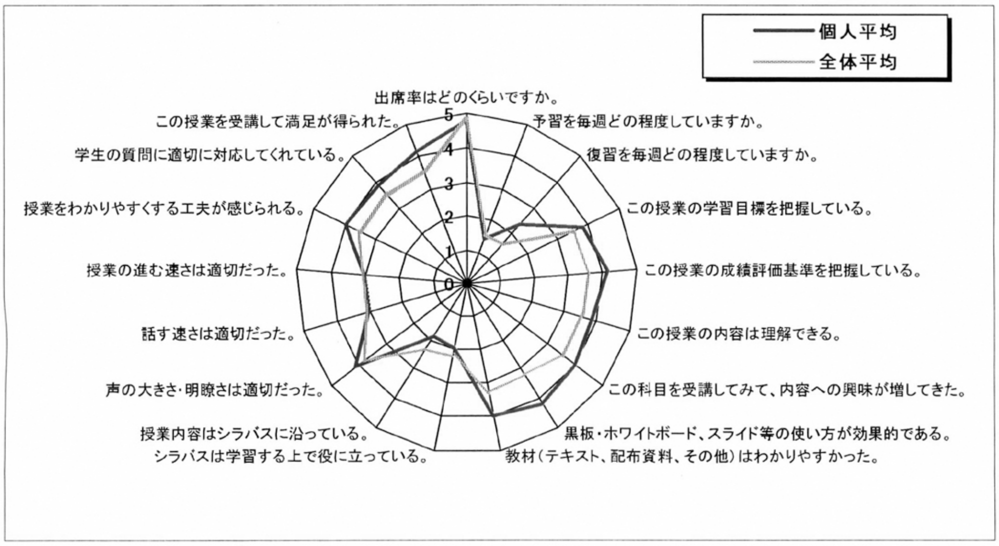
D-1：この授業を受講して満足が得られた.

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.38	0.38	1.89	31.82	60.98	4.55
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	27.27	63.64	9.09
工学系研究科	1.14	0.61	2.28	20.54	52.50	17.73	5.18
農学研究科	1.24	0.62	1.24	4.97	53.42	31.06	7.45

資　料7　教員，授業科目別アンケート集計様式（レーダーチャート）

教員、授業科目別アンケート
レーダーチャート表

学生による授業評価アンケート

大学教育委員会委員長

教員氏名　　　　　　**実施日** 平成19年　月　日　　曜日　　校時　対象学生数　　／
授業科目
科目の属する学部